

No. 16 >>> Contents

●年頭所感	1
●提携支援センターから	
16 提携グループを承認	2
夢に向かって 玉小石・牛首紬への道	
玉小石牛首研究会 代表 大門屋（店主）高橋弘直	4
「ぐんま 200」で純国産帯締・羽織紐に取り組む	
平田グループ 代表 平田 晃	9
宮崎の蚕糸・絹業提携グループ「綾の小石丸の会」	
綾の小石丸の会 秋山 眞和	13
平成 22 年度第 5 次純国産絹マーク使用許諾状況・社団法人 日本絹業協会	17
提携支援センター活動日誌 No. 16	19
●今月の話題	
繊維・ファッション流通の変化と新潮流	
元日本繊維新聞 編集主幹 聖生 清重	20
●国内情報	
— 今に生きる織物産地 西陣 —	
西陣織工業組合 専務理事 碓山 俊光	27
●海外情報	
中国備蓄生糸の本格的放出（売渡し）始まる	33
●トピックス	
国内産地情報、海外情報（中国）	43
●横浜開港とシルク貿易	
横浜への絹の道	46
シルク博物館 元部長 小泉 勝夫	
●イベント情報	52
●登録コーディネーター一覧	53
●純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧	56
●蚕糸関係博物館一覧	59
●蚕糸関係団体ホームページ一覧	60
●統計資料	62

（統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。）



卒業・進学・社会人

(財)大日本蚕糸会

会 頭 高 木 賢

4月は、人生の節目となる月である。

振り返れば、小学校入学から始まって、入学、進学、クラス替えなど学校はいつも4月が節目であった。就職も4月。人事異動も、4月の異動が多かった。

月日の経つのは早いもので、いよいよこの3月には、平成22年度までに蚕糸絹業の提携グループをつくとされてきた最終期限を迎える。一方で、22年度までの経過措置としてとられてきた繭代金の補てん措置が終了する。したがって、この時までには提携グループを立ち上げないと、4月からの交付金の対象とはならず、繭代金の財源確保に困難をきたすことになる。

一方、19年度、20年度に立ち上げた提携グループについては、3年間という交付金の交付期間が終了するので、4月からはいよいよ自前でやっていくことになる。

そういう意味で、この4月は、関係者それぞれの運命が大きく分かれていくときなのであり、残り3か月といえどもおろそかにはできない大切な期間である。

昨年の年頭所感では、22年度の蚕糸絹業提携支援緊急対策事業がおかれた状況を、あと1年しか在学期間がない「高校三年生」に譬えた。

その続きで言えば、いよいよ今年の3月には高校卒業ということになるわけであるが、その後の4月以降の運命として、一方では、今年度内すでに提携グループを形成し、「大学進学」が決まっているグループがある。また、3月までの期間中の進学決定をめざして最後の努力をしているグループもある。

他方では、19・20年度組のように、大学過程を卒業し、いよいよ「社会人」として自活していかなければならないグループがあるというわけである。もちろん、その中間として、大学在学中というグループもある。

こういう日がいつか来ることはわかっていたはずであるが、実際にその日が近づいてこないと実感がわかないのが、人の常というものであろう。いずれにせよ、その日は確実に来る。最後の努力を尽くすとともに、今後、それぞれの運命についてこれまで以上に注視するとともに、それぞれのおかれた状況に応じてきめ細かく対応していかなければならないと考えている次第である。

16 提携グループを承認

平成 23 年度からスタートの提携グループ

事業推進委員会（外部委員による提携グループの審査委員会）は、昨年 10 月 26 日及び 12 月 9 日に東京都有楽町蚕糸会館会議室で開催し、平成 23 年産繭から対象とする申請された 16 提携グループ（10 月 26 日に 4 提携グループ、12 月 9 日に 12 提携グループ）について、審議が行われました。結果、16 提携グループの事業はすべて承認されました。この審査は、9 月 26 日の開催に次ぐものであり、これで、前号で紹介しました 4 グループを含めて、計 20 グループが新たに 23 年産繭から提携システムに移行することとなります。16 グループの商品等の特徴は別記表のとおりです。

今後の予定

今後の審査の予定につきましては、平成 23 年 1 月 13 日、2 月 8 日、3 月 3 日に今後提出される提携グループの審査を行う事業推進委員会を開催いたします。

別記 新たに承認された提携システム確立グループ一覧

No.	提携グループ名	構成者（団体等）	対象繭生産地 （平成 23 年産 対象繭数量）	商品の特徴等 （アイテム、蚕品種 etc）
1	東京シルクの会 （代表：有限会社内海呉服店）	養蚕農家（7 戸）、多摩シルクライフ 21 研究会、碓氷製糸、(株)宮坂製糸、山口、河芳織物（有）、（有）大原織物、（有）内海呉服店、長島繊維(株)	東京（715 kg） 春 430 kg 晩秋 285 kg	蚕品種の青熟、四川三眠等を用い、多摩シルクライフ 21 の会員が中心の染織家集団による個性的な「東京シルク」の作品づくりと純国産絹を使用した和服用の生地を「生繰り製法」で製作。低速でじっくりと製糸した糸を経緯糸に使用し、小ロットで製織した製品はジャケット機でさらに、数種類の柄織に仕上げる。
2	ふじやまシルクプロジェクト （代表：株式会社 JS）	養蚕農家（12 戸）、JA 西八代等、松沢製糸、(株)山桜、(有)カシワギ、(株)オヤマダ、小泉織物、高野縫製工場、(株)JS	山梨（4,611 kg） 春 2,310 kg 初秋 733 kg 晩秋 1,568 kg	絹布団は使用する充填材に純国産繭の絹糸で織り上げた生地（特徴は偏らず、軽く、暖かい）を用い、山梨で全て製品化した商品を全国の百貨店等で一般消費者に販売。また純国産絹を使用したスカーフ、ネクタイ、洋品（シャツ、ブラウス、スカート、コート）等も販売。
3	信州繭ブランド織物振興会 （代表：有限会社シンセイ）	養蚕農家（2 戸）、上田蚕種(株)、(株)宮坂製糸、松沢製糸、織処丸重、久保田織染工業(株)、（有）シンセイ、(株)中田勝	長野（250 kg） 春 150 kg 晩秋 100 kg	長野市中条地区の養蚕農家で特徴のある蚕品種（小石丸・黄緑繭）から繭を生産し、ユーザーの希望で生糸や織物まで提供する。また、小石丸等の特徴ある蚕品種の使用による伝統的な信州紬・伊那紬・上田紬・後染めスカーフ等の純国産絹製品を提供する。
4	千總純国産絹製品販売・商品開発グループ（代表：株式会社千總友仙工場）	養蚕農家（41 戸）、JA 新いわて等、富田蚕種、松岡(株)、加賀ゲンゼ(株)、(株)株式会社千總友仙工場、(株)千總	青森、岩手、山形（15,000 kg） 春 4,700 kg 初秋 4,450 kg 晩秋 5,850 kg	春嶺×鐘月、錦秋×鐘和を用い「顔が見える生産体制」を構築し、参加者全員がコストと品質の意識をもって取り組み、振袖、訪問着、付下等の和装製品を制作し、百貨店を中心に全国販売する。

No.	提携グループ名	構成者（団体等）	対象繭生産地 （平成 23 年産 対象繭数量）	商品の特徴等 （アイテム、蚕品種 etc）
5	碓氷製糸シルク工房の会	養蚕農家（110 戸）、 碓氷製糸農協、金井工 房、丸三綿業(株)、丸共 織物(株)、他関係者（工 房等）44 社	群馬県 （18,300 kg） 春 3,550 kg 初秋 9,720 kg 晩秋 5,030 kg	工房、小口取引に適合した小ロットの生糸販 売（小ロット、低速に特化した生糸生産）蚕 品種：錦秋×鐘和、新小石丸、世紀二一、 ぐんま 200、ぐんま黄金
6	伊予生糸を守る会	養蚕農家（11 戸）、西 予市蚕糸業振興協議 会、(株)野村町地域振興 センター、(株)龍村美術 織物、野村シルク博物 館シルク工房	愛媛県 （2,500kg） 春 1,100kg 初秋 500kg 晩秋 900kg	愛媛県西予市にて特徴ある蚕品種「あけぼの」 等の繭で生繰り、多条機で製糸した糸を使用 し、龍村美術織物、野村シルク博物館シルク 工房にて、帯、着尺を制作
7	絹の会ぐんま 200 プロジェ クト	養蚕農家（2 戸）、碓 氷製糸、絹の会	群馬県(960kg) 春 480kg 晩秋 480kg	春及び晩秋蚕期で群馬県オリジナル蚕品種「ぐ んま 200」を使用し、生挽き（春繭）、塩蔵後 生挽き（晩秋繭）で製糸。軽くしなやかな、 着心地に優れた着尺、帯、ストール、組紐を 制作。
8	伊達天蚕推進研究会	養蚕農家（2 戸）、天 蚕農家（6 戸）、 <u>りょ うぜん天蚕の会</u> 、東北 撚糸(株)	福島県（60 kg） 天蚕（福島 60 kg）	天蚕及び家蚕の育蚕から天蚕紬織ショール等 の制作までの一貫体系「天蚕繭 3 粒 + 家蚕繭 10 粒」で繰糸したハイブリッド糸を使用し、 手紬織機で天蚕紬織ショールの販売
9	絹で奏でる音世界グルー プ	養蚕農家（20 戸）、(財) 岐阜県蚕糸協会、特殊 生糸西村英雄、前田糸 業、(株)鳥羽屋	岐阜県(600 kg) 春 600 kg	三味線弦、琴弦、雅楽器弦、その他邦楽器弦 の生産純国産の産地（岐阜県）、蚕期（春）、 蚕品種（春嶺×鐘月）が和楽器の絃に適して おり、安定的な供給体制の確立
10	邦楽器糸用特殊生糸を守る 会	養蚕農家（20 戸）、(財) 岐阜県蚕糸協会、大音 特殊生糸協同組合、丸 三ハシモト(株)	岐阜県(600 kg) 春 600 kg	琴糸、三味線糸、胡弓糸、琵琶糸等邦楽器用 の生挽き座繰り糸の生産。純国産の産地（岐 阜県）、蚕期（春）、蚕品種（春嶺×鐘月）が艶、 コシのある糸となる。全国の邦楽器商店で販 売
11	ふくしまみらいシルクの会	養蚕農家（22 戸）、(有) 関根商店、 <u>西川産業(株)</u>	福島県 （10,500kg） 春 3,500kg 初秋 3,500kg 晩秋 3,500kg	純国産で福島県の上質な繭から伝統の技であ る手びきを何百回も繰り返し、より吸湿性・ 保湿性・ドレープ性に優れた「入金真綿布団」 を制作
12	結城紬風土 31 研究会	養蚕農家（3 戸）、(有) 関根商店、(株)小倉商店	福島県（500kg） 晩秋 500kg	蚕品種「朝・日×東・海」を使用し、最高級 の結城紬、帯を制作。
13	川俣絹工房	養蚕農家（5 戸）、松 岡(株)、斉栄織物(株)、石 川彦太郎商店、福島寝 装(株)	福島県(300 kg) 春 300 kg	真綿布団（布団の表地と中綿（真綿）ともに 福島県川俣町の繭使用）した商品を作成
14	白鷹瑞龍の会	養蚕農家（1 戸）、松 岡(株)、新田(株)、(株)布四 季庵ヨネオリ	山形県(144kg) 春 48kg 初秋 48kg 晩秋 48kg	新蚕品種「小石丸×又昔」を「鷹山」と命名し、 製織・染を(株)新田で行った「男性用縞袴」を 制作
15	信州オリジナル絹の会	(株)高原社、養蚕農家 （1 戸）、(株)宮坂製糸所、 織処丸重、(株)丸万中尾、 (株)一会	長野県(330kg) 春 110kg 初秋 110kg 晩秋 110kg	繭から織物まで全て長野県の技術で制作され た着尺を江戸小紋に染め、また、帯を制作し 織組織等オリジナル性の高い製品を製作する
16	日本のお蚕さん発展協議会	養蚕農家（3 戸）、碓 氷製糸農協、芝井(株)、 南久ちりめん(株)、高田 勝(株)、田中種(株)	群馬県 （1,500kg） 春 650kg 初秋 200kg 晩秋 650kg	「春嶺×鐘月」「錦秋×鐘和」を使用し、生産 履歴の明らかな「極小紋型模様」の小紋の制 作

※構成者の下線は、各提携グループの代表者（企業等）です。No. 1 ～ 4 は 10 月 26 日に、
No. 5 ～ 16 は 12 月 9 日に審査したグループです。

夢に向かって 玉小石・牛首紬への道

玉小石牛首紬研究会

代表 大門屋（店主） 高橋弘直



私の家は代々呉服店を営んでいます。染めや織りの研究はしていても原料の繭に関してはほとんど無知でした。たぶん、全国の呉服店でも同じ状況かとおもいます。

今回、縁あって農業・生物・化学の分野にまで入り込み、きもの文化の奥深さをつくづく感じ取った次第です。

食品業界では大間のマグロ・関サバ・越前かに・氷見の寒ブリ・・・産地がブランド化していて、お客様は高くてもそれが食べたくて注文します。どんなに腕のいい板前さんが包丁裁きをしても、外国産冷凍マグロじゃ銀座のお店には出せないですね。

本当は材料が命なんです。

幻の牛首紬復活へ模索

戦後石川県白山麓の旧白峰村にて、加藤しゅんさんただ一人によって守られていた牛首紬。それは高句麗にルーツを発し白山文化の象徴として紬のシーラカンスのような織物でした。売れない時期をなんとか耐えしのんでいた頃の昭和50年、村がダム建設で水没することになった時、牛首紬を「本物のままで守ろう」と加藤改石と父・高橋一男が二人三脚で伝統技術を変えないで守ることに心血を注いで、年間生産300反規模の工場を再建。しかし、売れない時期がそれからまた10年も続きました。工場を守ることは大変でした。そして大島紬

のブームが終わりを迎えたとき、ようやく全国の着物ファンに牛首紬が認知されるようになりました。

そんなある日、お客様から旧白峰村がダムに沈む前の牛首紬を見させていただく機会がありました。それは、軽くて、丈夫で、光沢がある・・・真に別名「釘抜き紬」と呼ばれた牛首紬でした。「素晴らしい！これが消えた本来の牛首紬なんだ」と感動。加藤さんに「何が変わったんですか？」とお尋ねしたら、「うちの技法は何も変えておらん！変わったとしたら原料の繭だけや」。ダムに沈む前の白峰村では養蚕が盛んに行われ、加藤工場では代々その繭を使用して

いましたが、その後は養蚕農家が無くなり原料繭を信州からの入手に変更していたのです。「えー、蚕品種によって絹糸は違うんだ〜」

すべて昔のままを守ってきたつもりだったのに実は違っていた、と気付いたその時から私の幻の牛首紬復活に向けた研究が始まりました。

10年前に取り組んだのが、福井県で唯一残っていた養蚕農家との提携でした。それは中国産繭により失われていく日本の絹文化を守るのがまず第一の目的でしたが、国産繭を使えば昔の繭の品質は必然的に付いてくるものとばかり思っていました。当時の私には蚕種についての知識は全くありません。当然、その繭では幻の牛首紬は復活できません。

玉小石牛首紬への道

そうした中、(株)マルシバの木下社長にご縁をいただいて蚕業技術研究所へ。

そこで井上所長さんに幻の牛首紬復活のお話をしましたところ、常山主任研究員とともに現れたのが・・・この「玉小石」でした。

「日本古来の品種・小石丸のDNAを受け継ぎながら、玉繭比率が35%以上」との説明。

松田聖子ではないけれど、ビィ、ビィ、ビィッ！天に導かれたような、そんな出会い。まさに「幻の牛首紬復活のために現れてくれた繭！」と、そのとき直感しました。緯糸に玉繭を100%使用する牛首紬が、最



(写真1) 左側2つが玉小石繭（左・単繭、右・玉繭）、右側2つが普通繭（左・単繭、右・玉繭）

もこの繭の存在価値を際立たせてくれるはずだ！

さっそく、蚕業技術研究所との実用化に向けた試験が行われました。

しかし、復活に向けた研究は甘くはありませんでした。

まず飼育方法が従来とは違うため、山型まぶしや蚕箔棚の入手に始まり、温度管理、上簇の方法、繭の冷凍乾燥、煮繭、糸紡ぎ、機織り、すべてが手探りでした。



(写真2) 玉繭づくりには、この山型まぶしが必要

玉小石を良い状態で糸にしたいため乾繭にしない方法を探りました。人間の都合で乾繭にして糸を引くのが当たり前になっていますが、その技術がなかった昔の糸の方が良かったことから、ここにはこだわりを持って試験しました。生繭のまま製糸する方法や、昔の木炭による遠赤外線乾燥で中のさなぎだけを殺す方法、そして冷凍保存する方法など糸引きの状況によって選択するようにしました。

また糸紡ぎも従来の牛首紬の技法を玉小石に適応させて工夫しました。俵の形をした繭は鍋の中で踊るため、糸繰りは熟練者でも倍以上の手間と技術を要します。また、糸が細いため 80 個の繭からの 1 本取りに、目と手が慣れるのに苦労しました。

手紡ぎで繭から糸を引き合わせて一本の生糸にする。機械で紡ぐと糸が伸びきった

ままになるが、手紡ぎでやると空気が含まれ軽くて弾性のある皺になりにくい織物になる。

伝統のすべての技を守り通したおかげで、この難問をクリアーできたと感じています。

一番の問題は精練でした。試作で従来の石鹼による精練をして江戸小紋作家の藍田正雄氏に染色を依頼しましたところ、こちらが指定したピンク色が水洗で流れてクリームに染まった事態が発生しました。原因はセリシンが十分に取りきれていなかったことです。また、糸のしなやかさが出ないために昔ながらのきぬた打ちを復活させたのですが、全部にそれをするのは大変。玉小石が持つセリシンの強さをいかに上手に料理するか、が実用化への最大の関門でした。井上所長にお話ししたところ平尾絹



(写真 3) 糸紡ぎ (繰糸)

精練工学研究所を紹介され、さっそく中性精練法で実験開始。薬剤の濃度や精練時間などがうまくいかず、糸は弱るし光沢は無くなるし、従来の糸でも試験を重ねて、現在やっと玉小石に合う精練法にたどり着いたところです。



(写真 4) 平尾氏に指導受ける精練工程

名古屋帯を織って試着したところ、風合い・光沢・締め心地で従来品を圧倒する素晴らしさがありました。まったくの別物、と云った感じです。

金沢の人間国宝、二塚長生氏にこの玉小石・牛首紬を染めていただいたところ、「染料の吸い付きの良さとしなやかな風合いは、逸品！繭の違いでここまで牛首紬が変わるとは・・・、繭の素性の良さが着物の基本だね。」

親子三代が着られ、染め替えをしてもへたらない、シワはタンスの底に入れておくだけで伸びる・・・そんな昔からの売り文句「きもの語り」を、もう一度この玉小石で言ってみようと思っています。

探していた繭と、大切に守り続けた牛首紬の技法、そして新しい精練法への挑戦、

それらがみごと一本につながって「玉小石・牛首紬」の完成となりました。

玉小石へ夢を託して

玉小石を開発した人、養蚕をした人、糸を紡いだ人、精練に携わった人、機を織った人、染めをした人、この玉小石に恋したすべての人たちの夢を、いま熟成しているところです。

あとは着物ファンの評価を戴くだけです。お客様が袖を通した時に上げる「うあー！」とか「きゃー！」の歓声を楽しみに、いまその時を待っているのがスタッフ全員の心境です。

私たちみんながこの玉小石に託した夢・・・、それがきものをお召しになる日本女性の夢のきものになる！ 1年間にできる着物は6反、帯が12反、極わずかな生産量です。貴重な玉小石を100%使用にこだわれば仕方のない量ですが、100年お召しいただいて後世の人たちに再評価していただきたい着物だと自負しています。

呉服店主のつぶやき

私は幸いにも個性豊かな玉小石と出会いましたが、いま国産繭に求められていることは、呉服屋の口を借りなくても、着心地、光沢、耐久性などで中国繭を圧倒する「品質の違い」だと思います。

繭、製糸、精練の話を呉服屋からお客様に伝えることは、残念ながら難しい時代です。説明せずとも「明らかに違いを見せつける！」これが国産繭成功のポイントです。



(写真5) 挑戦・完成した玉小石・牛首紬

それには個性ある蚕品種の特徴を生かし切る製糸法が不可欠！ 絹糸本来が持つウェーブを表現できる糸紡ぎが、大切な大切なきものの着心地を決めるのです。

先程の料理と同じで、いい材料、いい手仕事、いいセンスが融合してこそおいしい料理に仕上がります。せっかくのすばらしい材料を手にしても、冷凍品と混ぜたり、レンジでチンではどうにもならないでしょう？

個性ある繭には最後まで徹底したこだわりのものづくりが必要で、手抜きするとすべてがその水準に下がってしまいます。織物はウソをつかないのです。

私は、タンスの中に各種の着物が入って買いたい着物が無くなった時代だからこそ、マニアが食欲をそそられる新製品の登場を待っていると思っています。

「100% 本物のきもの」が時代のニーズだとしたら、玉小石牛首紬は時の申し子ではないでしょうか？

たかはし ひろなお
玉小石牛首紬研究会 代表
(大門屋 店主)

「ぐんま 200」で純国産帯締・羽織紐に取り組む

平田グループ研究会

代表 平田 晃

日本の組紐の歴史

日本の組紐の歴史は想像以上に永く、縄文土器に埴輪の衣装に紐の痕跡を見ることが出来ます。また、土器の表面に組紐（四津組・観世組）を押しついたり、転がしたりして、紐の圧痕紋をつけて模様にしたものが、縄文式土器といわれるもので、日本人は道具を使わずに組紐を作っていた歴史がありました。

まさに日本人と組紐との関係は古くから密接なつながりがあったことになります。そこに道具を使った美しく精巧な組紐が、千五百年程前に、中国から朝鮮半島を経て日本に仏具と共に渡来したと言われて、東大寺の正倉院の中に沢山残されていますが、仏教の道具と共に納められていたので、おそらく仏具であったのでしょう。それがやがて貴族の人々が、自分の衣装の中に組紐を取り入れ、使用するようになります。つまりは、仏具としてのありがたい物を自分の身に付けることにより、「身を守る」とか「ご利益がある」と言った意味合いがあったのでしょう。それが京の組紐の源に

なったのです。

やがて平安時代に入って武士が台頭してきます。その武士たちが武具（甲冑など）の一部として組紐を取り入れ使うようになります。西洋では鉄とか皮が武具として使用されましたが、日本人が組紐を武具として使うようになった最大の理由は、「軽い」ということ、また「加工し易い」ということ、にもかかわらず非常に「堅牢」であったということによると考えられます。

これが江戸組紐の淵源であるのでしょう。また組紐を作る組台も時代の変遷により様々な組台が生まれました。丸台と角台が千五百年位前に中国より伝わり、鎌倉時代に綾竹台と重打台が、室町時代に高台が、更に江戸時代に内記台と籠打台が生まれました。丸台と角台以外は全て、日本人がその組紐の需要のもとに考えてきたものです。ちなみに鎧というものは一輛二輛と数えますが、一輛の鎧を作るには百尋の組紐が必要となります。手を一杯に広げた長さを一尋といい、昔の男性は背だけは五尺であると言われているので、つまり 150 メ

一トルの組紐がなければ、一輻の鎧が出来ないことになります。

鎧だけではなく、兜も刀具も馬具も弓具も全て組紐が使われており、関ヶ原の戦いで20万以上の武士達が必要とした組紐の量たるや、想像を絶する莫大なものであったに違いありません。武具である以上、様々な種類の組紐が必要になります。引張って伸びなければいけないもの、また伸びてはいけないうもの、硬く組まなければいけないもの、硬く組んではいけないもの・・・様々な武具の需要があったために、様々な組台（丸台・角台・綾竹台・高台など）が出来て、数多くの組紐が作られていきました。

平安時代が終わり、鎌倉に幕府が置かれるようになると、そこが武士の中心地となり、室町期にも京都とは別に鎌倉に関東を掌握するための鎌倉探題が置かれ、江戸時代に入って江戸が武士の中心地になります。そこで大量の組紐が生産されることとなりました。武具として使われていた組紐も、江戸時代の末期になると柳橋の芸者達が丸帯を使うようになり、その重さを支えるために帯締が生まれます。始めは丸ぐけ（帯締の商品名）が使われていましたが、廃刀令が発令されて武士が刀を捨てると共に、組紐が徐々に帯締めとして作られるようになりました。

以来、武具から生まれた江戸組紐は関東地方で大量に生産されておりましたが、今日では激減の一途を辿っております。昭和16年当時の記録では東京都内だけで268軒の組紐の親方がいたわけで、その下の組

紐職人の数たるや、相当の人数であったであろうと推定されます。

現在では 東京都内で頑張っている「紐屋さん」は殆ど居なくなってしまいましたが、私共はその道具としての様々な性格を持つ組紐を出来るだけ忠実にそして正確に表現したいと考えております。

着物は、帯締めの一本で締めるという事で、帯締めは本当に重要な役割を持ちます。私共は、父（初代 平田竹峯）の教えを忠実に守り、より締め易い帯締めを作るために、原料となる絹糸の品質の良し悪しは、大変重要であったのです。家業を継いでからというもの、諸外国の絹糸、また全国からの色々な絹糸を取り寄せて試してみましたが、どうもピンとくるものがありませんでした。



糸繰り

ぐんま 200 に出会って

それが十数年前に初めて「ぐんま 200」に出会いました。その時の感動は今でもはっきりと憶えております。とにかく生糸の段階から真白でかつ「つや」・「こし」が見事でした。早速試しに組んでみたところ、私が思ったように自由自在に動いてくれるのです。これは本当にすごい糸だと感動しました。また1本の組紐を組むために糸を準備することを「経切り」または「経尺^{へじゃく}」というのですが、「ぐんま 200」は糸が均一で糸の太さに誤差が殆ど無いため検量する必要がありません。



経尺（糸合せ）

それまでは絹糸を購入する都度、検量していたのです。職人の方々にも、組み上がりが非常に良いので、とても喜んでくれています。さらにより良くするために、精練方法も「泡練り」の工法も取り入れています。これで絹糸が傷付かなくなりました。

撚りも1mに800回以上撚る強撚糸「ミシン撚り」にしています。また「ぐんま 200」でも春に出来る「新まゆ」に限定し

ています。十数年前に究極の糸を求め続けて「ぐんま 200」に出会って以来、私共は、「ぐんま 200」しか使用しておりません。このおかげでここ十年来純国産の帯締・羽織紐を製造・販売しています。



丸台組み



高台組み

提携グループに仲間入りして

私共にとっては、これほど素晴らしい絹糸には、世界中どこを探してもそうそう巡り合えるものではないと自信を持って言えます。

群馬県の養蚕農家の皆様、次いでこれを製糸する碓氷製糸農業協同組合、撚糸を田宮繊維（株）、精練をする小林練染工場、染色をする山金商店及びこれらの工程をコーディネートする（有）いのうえなどこのグループに携わる方々の弛まぬご努力と熱意の賜物だと心から感謝しております。

平成 20 年より養蚕、製糸、絹業、流通関係者が連携して純国産絹製品づくりを目指す新蚕糸対策が事業化され、当グループも縁あって幸いにも昨年この仲間入りさせていただきました。

当グループが使用する「ぐんま 200」を創出した世界に誇る日本の養蚕技術が消えてなくなってしまうことだけは、何としても防がなければならないと考

えております。微力ではありますが、平田グループ研究会の各メンバー（養蚕農家、製糸、精練・染色、組紐の製造、流通）が継続・連携し、素晴らしい純国産組紐を安定的に消費者に提供することにより、日本のこの優れた養蚕技術が厳然として維持・発展されるよう邁進したいと考えております。

ひらた あきら

平田グループ研究会 代表

（㈱平田組紐 代表取締役社長）



平源氏（商品名）



貝の口縞（商品名）



貝の口両面亀甲（商品名）

宮崎の蚕糸・絹業提携グループ「綾の小石丸の会」

綾の小石丸の会

秋山 眞和

綾の手紬染織工房の歴史

私が宮崎県の九州山地に抱かれた綾町にて、手織物工房を起ち上げたのは昭和 41 年秋のことでした。

戦前沖縄で染織業を営みその頃にしては少なくない職人を抱えていた先代（父）が、終戦間際に彼らの一部と強制疎開命令にて宮崎県へ移住し、この地で琉球伝来技法による着物の製作を始めたのは昭和 26 年、沖縄はまだ焼土と混乱の中にありました。それから十数年、産地を明記していない宮崎産の琉球織物は良質の織物として市場で

大いに評判を得ていました。

さて私がこの工房を引き継ぐにあたっては、これからの方向性を深慮し悩みましたが、今後は産地と素材にこだわる物創りに徹することによりのみその意義があると確信していききました。

しかし、織物にゆかりある地名の綾町で「綾の手紬」の名で染織を始めても伝統の無さゆえの苦労が多かったのです。糸偏に関しての業者はなく、糸はすべて流通の絹糸であり、染料も合成、道具も自作の状態、製品の販路もままならなかった。そのような中であって着物業界で「綾の手紬」を認知してもらうには品質しかなかったのです。

まず、染めは可能な限り天然染料に換え、特に藍は照葉樹林日本一という地の利を活かした灰汁発酵建藍染めとしました。だがその藍染の工程中に天然藍染ならではの弊害に悩まされました。絹糸の表面に白い粉吹きのような状態（ラウジネス現象という）



沖縄時代の工房職人達（大正 11）



天然灰汁発酵建ての藍染技法

が一般の蚕の糸にはどうしても現れました。化学染色では現われませんが。

小石丸との出会い

発色の美しさ、色の堅牢度、健康的な染色を求めるには天然藍染を捨てるわけにはいきません。博物館などにある古い染織品には時空を越えて今なお美しい布があります。そのような物に近づく染めは現代では無理なのかと、当時宮崎県にあった農水省原蚕種試験場（平成元年3月廃止）で検証願い、絹糸の表面にわずかにあるミクロの世界の毛羽が原因とわかりました。その後、つくば市の蚕昆研（農水省蚕糸昆虫農業技

術研究所）にご協力頂き、蚕種の中で毛羽の最も少ない種を特定してもらったのが小石丸蚕でした。

この小石丸という蚕は、日本の蚕の原種の一つで山梨県の北杜市小淵沢町で原種保存されています。

（皇后様のご養蚕の多くがこの小石丸としてあまりにも有名です。）

現在使われている絹はいろんな品種の蚕をかけ合わせ（交雑種という、）養蚕しやすく、粒が大きく、糸も太く、つまり繭糸量が多く経済性を追求した改良種です。



左・・・小石丸繭 右・・・交雑種繭

戦前、日本の最も重要な輸出品であった絹は、欧米の婦人たちの服飾にはなくてはならない素材であり、日本の絹業界も大いに活況を呈しました。

そして、国策としていかに絹を量産するかに主眼がおかれ、数々の品種改良によって均一な絹糸を少しでも多く生産できる蚕へと変化させていきました。いわば、この経済偏重で絹の味を軽視した糸は時代のニーズによつての産物です。一方、経済性と

は別の価値観上にある小石丸は細繊維度の糸を吐き、毛羽立ちが極端に少なく、糸の練減りが最も少なく、張力があり、織物屋としては垂涎の絹糸であるが価格が問題でした。

単に素材提供のための分業としての養蚕農家や糸屋さんであれば、とてもこの小石丸を取り扱う経済行為は不可能であると思っています。素材としては付加価値を付ける工程が余りにも少ないからです。

養蚕から製糸、染め、織り、そして最終製品まで一貫して一つの工房内で作業している我が工房にあってのみ、初めて可能なことなのです。(もっとも他に関連工房がなく、仕方なく全てを我が社内で作らざるを得なかったからです)

昭和 63 年から始めた小石丸の養蚕は、前年分譲された 3 蛾分の卵 (約 1200 粒) から繭切り、雌雄鑑別、交配、産卵、保存といった蚕種業者の役目から行うものでした。

翌年、5 箱 (10 万粒) までに増加させた卵を 3 齢まで工房内で飼育し、当初確保した二軒の農家で最終まで育蚕し 104 kg の

生繭を得ましたが、難題も多くありました。

蚕は生き物で特有のウイルスへの罹患や桑の生育不良年もあり繭を収穫出来ない時もありましたが、交雑種以外は国の指定品種でないために共済補償もありませんでした。この事が後々まで繭代補填金申請にも該当しないと勘違いし、受けるべき補填をのがしてしまいました。

繭を得ての次工程は糸作りですが、一般の製糸は繭を熱風乾燥してのち行われます。だが折角のこの国産繭は乾燥することなく、生のまま手挽き糸にすることにしました。それはデリケートな絹に熱をなるべくかけずに、そのまま手挽きにこだわるのは蚕のはき出す縮んだ糸の状態を最大限に保つ目的があったのです。

さらに工房の中で製糸することは、いろんな種類の織物に適した糸を少量でも自由自在に作れる大きなメリットもあります。

小石丸で織り上げた布は、天然染めの輝きもさらに透明感が増し、軽くて、皺になりにくく、その上空気をはらんで温かいと良いこと尽くめでした。あとは販路確保次第です。



養蚕現場



座繰りによる手挽き繰糸



筆者自らの機織り

自分たちで作った糸で染め、下拵えし、手織りして、最終製品まで完成させる、これは図らずも今、(財)大日本蚕糸会が行っている蚕糸・絹業提携システムを小さいながらも実践例ではないかと意を強くしています。

提携事業に取り組んで

昨年度から蚕糸・絹業提携システムで「綾の小石丸の会」の名称で認定を受け、国産繭の安定供給を計るべく桑園の拡張、養蚕施設の整備に取り組んでいます。

製糸については、当工房と宮坂製糸で生糸を生産し、製織も当工房で着尺、ストー



新規桑園での作業風景

ルなど商品作りを行い、問屋、百貨店、直販による販売を行っています。

さらに小石丸以外で天然藍染に適した蚕種の特選も急ぎたいと考えています。消費者志向に合った商品も必要不可欠です。国産の繭は何ととっても安全・安心であり、農薬、防腐剤は勿論のこと、この繭は保存剤も使用していません。

日本農村の文化で原風景だった・・・「おカイコ様と農家」・・・これを失うことは忍びないことです。まだ養蚕を体験した世代が大勢元気に生活しているこの宮崎県綾町で、その伝統文化の灯を守り続けるよう地元の農家と一体になって頑張っております。

食の安全同様、身にまとう「衣」の安全と日本の風土性を我々の繭で強調したいと考えています。

あきやま まさかず
綾の小石丸の会 会員
(綾の手紬染織工房 主宰)



工房での多様なきもの商品

平成 22 年度第 5 次純国産絹マーク使用許諾状況 (和装小物の袱紗を初めて認定)

社団法人 日本絹業協会

純国産絹マークの平成 22 年度第 5 回審査会を 12 月 6 日（月）に開催しました。今回、8 件（うち、新規の申請 2 件、生産履歴の追加申請が 2 件、生産数量の追加申請が 2 件、製品・履歴・数量の追加申請が 1 件、生産数量の変更・製品の追加、数量の追加申請が 1 件）から申請があり、審査委員会で審査した結果 8 件に対し、12 月 16 日（木）付けで純国産絹マーク使用許諾する旨を通知しました。

純国産絹マーク使用許諾者は次の 8 件です。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
株式会社和想 代表者名 池田 訓之 鳥取県鳥取市行徳 1-103 T O S C 2 階 (担当者：池田訓之) TEL 0857-25-8663 表示者登録番号 1 3 6	後染反物（小紋） (変一越) (紋意匠)	30 反 30 反	制作企画 田中種（株） 繭生産 J A 碓氷安中管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 南久ちりめん（株）・芝井（株） 染 色 高田勝（株）
株式会社高島屋呉服店 代表者名 原納 邦夫 島根県益田市昭和町 1 2 - 1 1 (担当者：原納邦夫) TEL 0856-23-0008 表示者登録番号 1 3 7	後染反物（小紋） (変一越)	30 反	制作企画 田中種（株） 繭生産 J A 碓氷安中管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 南久ちりめん（株） 染 色 高田勝（株）
(生産履歴の追加) 株式会社しゃらく 代表者名 丸山 義弘 愛媛県新居浜市田所町 1 - 4 0 (担当者：丸山義弘) TEL 0897-37-3500 表示者登録番号 1 3 0	後染反物（小紋） (変一越)	30 反	制作企画 田中種（株） 繭生産 J A 碓氷安中管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 南久ちりめん（株） 染 色 高田勝（株）
(生産履歴の追加) きもの処 あだち 代表者名 足立 照夫 大阪府藤井寺市岡 2 - 8 - 4 5 (担当者：足立照夫) TEL 0729-39-2280 表示者登録番号 1 3 2	後染反物（小紋） (変一越)	15 反	制作企画 田中種（株） 繭生産 J A 碓氷安中管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 南久ちりめん（株） 染 色 高田勝（株）
(生産数量の追加) 株式会社川平屋 代表者名 伊藤 正人 愛知県豊田市桜町 2 丁目 3 4 番地 (担当者：伊藤正人) TEL 0565-32-0902 表示者登録番号 0 8 5	胴裏絹 (パールトン加工)	120 枚	制作企画 日本糸絹業開発（協） 繭生産 群馬県養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 (株) カブト 加 工 (株) パールトーン

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
(生産数量の追加) 丸専第一衣料株式会社 (丸専きもの) 代表者名 永澤 日佐夫 新潟県長岡市大手通り二丁目4-4 (担当者: 永澤日佐夫) TEL 0258-32-9394 表示者登録番号 086	胴裏絹 (パールトーン加工)	300 枚	制作企画 日本蚕糸絹業開発 (協) 繭生産 群馬県養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 (株) カブト 加 工 (株) パールトーン
(製品・履歴・生産数量の追加) 日本蚕糸絹業開発協同組合 代表者名 小林幸夫 群馬県高崎市問屋町 3-5-3 (担当者: 土井芳文) TEL 027-361-2377 表示者登録番号 021	(製品の追加) 和装小物 (袱紗) 白生地 (紋意匠) 胴裏絹 (パール加工) 長襦袢地 長襦袢地 (夏物) 後染反物 (紋付地変織) (紋付地駒組) 白生地 (変一越)	110 枚 (履歴の追加) 40 反 (数量の追加) 300 反 80 反 70 反 100 反 50 反 120 反	制作企画 絹小沢 (株) 蚕品種 上州絹星、世紀二一、 ぐんま 200、新小石丸 繭生産 群馬県内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 (株) ワタマサ、(株) カブト 江原産業 (株)、(有) 長島織物 坪金工業 (株)、 南久ちりめん (株) 加 工 (株) 京都紋付、キヌテック (株) 縫 製 福田真 (株)
(生産数量の変更、製品・生産数量の追加) 株式会社銀座もとじ 代表者名 泉二 弘明 東京都中央区銀座4-8-12 コチワビル3階 (担当者: 青江良和) TEL 03-5524-3222 表示者登録番号 011	(21 年産繭) 白生地 (製品の追加) 帯締 羽織紐 (22 年産繭) 白生地 (着尺・長襦袢) (帯地) お召し 大島紬 結城紬 染織作家作品 (着尺) (帯地)	(数量の変更) 129 反→127 反 15 本 15 本 (数量の追加) 77 反 40 本 40 反 40 反 12 反 5 点 8 点	蚕品種 プラチナボーイ 繭生産 千葉県、茨城県養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 真綿掛 佐藤米子 糸取り 水野商店、矢野まり子、山岸幸一 製 織 江口機業 (株)、(有) 坪井 商店、 田勇機業 (株)、南久ちりめん (株)、 (株) 榊屋高尾、(有) 益田織物、 添野重子ほか 染 織 矢野まり子、山岸幸一 染色・組み 児島有子

次回審査会の予定は平成 23 年 2 月 4 日 (金) です。申請される方は審査会の 10 日前までに申請書を提出してください。

支援センター活動日誌No. 16 (H22.11.1 ～ H22.12.31)

年月日	活 動 内 容 等
22.11.10	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明等（群馬県）
22.11.12 ～ 22.11.13	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明等（熊本県）
22.11.17 ～ 22.11.18	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明等（長野県）
22.11.22	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明等（群馬県）
22.12.6	（社）日本絹業協会による純国産絹マーク審査委員会 （東京都有楽町 蚕糸会館）
22.12.9	第7回事業推進委員会（東京都有楽町 蚕糸会館）
22.12.13 ～ 22.12.14	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る純国産絹マークの管理実態調査 （京都府、大阪府）
22.12.15 ～ 22.12.16	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明等（宮城県、福島県）



「(株) 小倉商店が作る純国産結城紬 (ジャパンシルクセンターにて展示)」

＜平成 22 年 10 月 20 日開催しました中央蚕糸協会主催「業界をめぐる情報交換会」の講師をされた聖生清重氏より、最近の繊維業界にまつわる話題についてご紹介していただきます。＞

繊維・ファッション流通の変化と新潮流 (潮流に合致している提携システム)

元日本繊維新聞

編集主幹 聖生 清重

1 激変する繊維・ファッション流通

過去 20 年の間に大きく変化したものの一つに繊維・ファッション流通がある。繊維流通は、繊維産業が江戸時代の藩の経済を支える役割を負った古い産業だったことから、歴史的にみて長らく前近代的で「暗黒大陸」と称されてきた。原料から糸、織り編み、染色加工、縫製、卸、小売りに至る繊維パイプラインが長く、各段階に問屋・商社が介在する多段階かつ複雑なものだった。ところが、バブル崩壊と折からのグローバル化によって、「暗黒大陸」から光がそそぐ近代的な大陸へと脱出した。そして、その光は新たな小売業や製造から小売りまでの一貫企業にこそ強く当たるもので、全体的に伝統的な小売業には

厳しさを迫るものだった。

繊維・ファッション流通の劇的な変化の様相は、特に小売業に著しく表れている。1990 年代に登場した SPA（製造小売業）という新しいビジネスモデルで成功している SPA 企業の出現と急成長、IT（情報技術）活用の小売りの拡大、100 年間にわたって小売り流通の王者だった百貨店の低迷がその変化を象徴しているが、それ以外にも注目される新流通が出現し、現状の小売り流通は百花繚乱とも形容できる様々な業態が消費者の支持を得ようと競い合っている。

次の数字が、過去 20 年の繊維・ファッション小売流通の変化を雄弁に物語っている。

流通別売上高の変化

	91 年	09 年	増減
百貨店	9 兆 7000 億円	6 兆 5800 億円	▲ 3 兆 1200 億円
量販店	3 兆 9300 億円	1 兆 4000 億円	▲ 2 兆 5300 億円
SC協会	16 兆 2000 億円	26 兆 9000 億円	10 兆 7000 億円
アウトレット	0 億円	6000 億円	
通販協会	2 兆 4000 億円	4 兆 3100 億円	1 兆 9100 億円

(量販店は、衣料品のみ、通販協会の 91 年は 2000 年、量販店の 91 年は 92 年、SC協会は非会員を含む)

この数字が示すものは、百貨店、量販店といった言わば「旧勢力」が、SC（ショッピングセンター）や通販協会の数字に含まれるネット販売といった「新勢力」との競争で劣勢を余儀なくされているという事実だ。

新勢力では、90年代以降に登場した「ユニクロ」、「H & M」、「フォーエバー 21」などのファストファッションと呼ばれる新勢力は、小売業の範疇に入るし、駅の構内にあるショップの「エキナカ」、あるいはTVショッピングなども新勢力だ。大きな体育館で何千人もの若い女性がファッションショーを見ながら、モデルが着ている服を携帯電話で即時購入する東京ガールズコレクションといった、従来は考えもつかなかった手法も人気を集めている。

新勢力が与える衝撃はどんなものか。御殿場や軽井沢などが有名なアウトレットショップ（通常はアウトレットと呼ばれる業態で、主に売れ残ったブランド品を安く小売りしている）で見ると、アウトレットが日本に初めて開店したのは93年。それが今日では衣料品を中心に約6000億円（推定）を売り上げるまでに成長している。一方、日本百貨店協会の衣料品売上高2兆3395億円（09年）を加盟店舗数で割ると、1店舗あたり売上高は90億円になる。つまり、アウトレットの6000億円は、百貨店66店舗の衣料品売り上げに相当するのだ。言い換えれば、単なる計算だが、アウトレットが百貨店66店の衣料品売り場を奪ったことになるのだから、旧勢力にとっ

ては、極めて大きな衝撃なのだ。

過去20年の繊維・ファッション流通の変化を要約すれば、百貨店・量販店・従来型の品揃え型専門店が衰退する一方、SC・ファッションビル・駅ビル・セレクトショップと呼ぶ新しい専門店・ネット販売、TVショッピング、アウトレットなど新手の小売業が成長し、いまでもこの流れが続いている。百貨店は今後とも一定のシェアは維持すると見られるが、業界関係者は「今後、2、3年で売り上げ規模は5兆円台まで減少する」と予測している。そんな構造変化の中でのトピックスは、民営化したJRの存在だ。消費不況の中でも健闘している「ルミネ」などの駅ビル、名古屋駅、京都駅にあるJRが出資した百貨店などJR系の商業施設は、その好立地もあって順調に推移している。ファッション小売りにおいて、JRの存在が今後とも注目されることは間違いない。

こうした繊維・ファッション流通の激変を引き起こした要因は、要約すれば「グローバル化」と「IT」の進展に尽きる。グローバル化で言えば、中国が市場経済社会に参入し、開放経済に舵を切った以降、中国の人件費がグローバル・スタンダードになり、一気に各製造業で中国が「世界の工場」に駆け上がった。「ユニクロ」などの低価格商品を武器にした新業態も中国生産がなかったら、おそらく今日ほどは成長できなかったのではないかな。最近では、中国の人件費の高騰から中国以外の、例えばベトナムやバングラデシュに生産拠点を

確保する「チャイナ・プラス・ワン」戦略が具体化しているが、それもグローバルゼーションの意味では同じことで、低価格商品生産の場が変わっただけで、基本的に低価格商品を供給することで成長するビジネスの根幹を揺るがすものではない。

加えて、ITの進展である。世界の適地で生産し、世界の適地で販売するグローバル戦略は、今や企業規模を問わず世界の企業の基本戦略だが、これを可能にしているのもIT。国境を越えた生産管理、物流のネットワークはITなくしては機能しない。さらに、ITは、ネット販売をメジャーなものにしている。昨年7月に経済産業省が発表したネット販売額（BtoC）は、6兆7000億円（09年）で百貨店売上高を上回った。このうち、衣料品の規模は850億円にのぼる。ITを駆使した小売販売は、これからも成長路線を歩むことは否定できないだろう。

2 グローバル化とトレンドの波及システムの变化

グローバルゼーションとITの進展に伴って、劇的に変化している繊維・ファッション流通。流通変化の一方では、ファッションビジネスでは、極めて重要なファッショントレンドの波及システムが変化し、これが新たな流通変革を招く可能性が出てきた。

ファッショントレンドの波及システムの変化とは何か。アパレルを中心としたファッションは、西洋が発祥地で日本は後発国

であることはご承知の通り。民族服の着物は別にして、洋服は西洋からもたらされた。それだけに、洋服産業が「アパレル産業」や「ファッション産業」と呼ばれるようになった昭和50年代以降、ファッショントレンドの発信地は、一貫してパリを頂点とする欧米だった。別図のように、日本のファッションアパレル産業は、その勃興期から成長期には欧米のブランドのライセンス生産に依存してきた。

今日でもパリコレクションで発表された新しいトレンドが日本を含む世界各国・地域に波及し、消費者の購買意欲を高めている状況に変わりはない。ファッション業界を席卷しているファストファッションもそうしたトレンドをいち早く取り込み、短期間で生産することで消費者の支持を得ている。

しかし、このパリを頂点にしたトレンドの波及の流れとは別の流れが出てきた。東京のストリートファッションを16年間、調査してきた共立女子短大の渡辺明日香専任講師によると、89年以降は東京のストリートに出現した、街、マンガ、アニメ、スポーツ、音楽などから触発された独自のファッションが1年後にはパリコレクションに登場するケースが定着している。「パリコレの有名デザイナーが定期的に原宿や渋谷など東京の街をウォッチングしている」との業界関係者の証言があるが、渡辺講師の研究でその証言が裏づけられた格好だ。

パリコレを頂点にしたトレンドの波及シ

システムは、今後ともファッションビジネスでは太い流れであり続けるだろう。だが、その一方では「東京」や「アジア」から発信するファッションも徐々に太くなる方向にあるのではないか。グローバル化した世界では、ファッショントレンドは多様化するというところだろう。こうした変化が、繊維・ファッション流通の新たな変化を及ぼすことが考えられる。

3 和のファッションとクールジャパン

1984年に1兆5888億円あった着物の市場規模は、2009年には3210億円まで縮小している。これに伴い、日本の蚕糸・絹業が大変な危機にあることはご承知の通りだが、その一方では、「和のファッション」が静かな支持を集めている。東京や京都の街には、袋物や手ぬぐいなど和の雑貨を集

積したショップが散在しているし、大規模なSCにも「和」をコンセプトにしたショップが入っている。

最近の東京コレクションで人気のブランドのひとつに「まとふ」がある。デザイナーは堀畑裕之・関口真希子だが、その2人はデザインワークについて「地域のオリジン（起源）に敬意を払うことが重要だ」と言う。パリ、あるいは欧米追随ではない、日本やアジアといった地域のオリジンから発生するファッション。「まとふ」の作品は、日本の織り、染めにとどまらず、塗りや焼き物職人とのコラボレーションによるボタンなども使用し、繊細でやさしく、日本の色の濃淡が美しい生地で身体にやさしい、流れるようなシルエットの服に仕上げている。

「まとふ」は、西洋の洋服を単に「着物風」

繊維・ファッション産業の変遷

聖生清重・作図

年代	中核産業	ビジネスモデル	ブランド	出来事
昭和40年代（1965～）	素材（糸・生地中心）	製造卸売業		東京オリンピック、東海道新幹線開通 高度経済成長
昭和50年代（1975～）	アパレル産業成長		ライセンス・ブランド	日米繊維協定 石油ショック
昭和60年代（1985～）	DCブランドブーム		インポート・ブランド	ブラザ合意・円高（1\$=240→120円）
平成7年（1995～）	アパレル産業成熟 グローバルゼーション（生産）	SPA	ハウス・ブランド	ベルリンの壁崩壊・中国の市場主義化 バブル崩壊（デフレ不況）
平成17年（2005～）	ライフスタイル産業（販売）		ライフスタイル・ブランド	ゼロ金利、円高（1\$=79円） クォータフリー（繊維国際貿易の自由化）
平成20年（2008～）				脱デフレ FTA・EPA 世界同時不況

- ①DCブランド＝デザイナー＆キャラクターブランド
 ②SPA＝製造小売業（Speciality store retailer of Private label Apparel）
 ③FTA＝自由貿易協定
 ④EPA＝経済連携協定

にしたものではない。日本というオリジンに敬意を払って、独自の世界観を表現しているが、そのクリエーションは、「和」にも「洋」にも示唆を与えるものだ。特に、「和」の世界で消費者に支持される創造的な商品を開発するための参考になると思われる。

社会がグローバル化する中で「和」への関心が強まることは十分予想できる。「他人と同じものを着たい」と思う一方「他人とは違ったものを着たい」のが人間の本質で、だからこそファッションが成立するのだが、特に、後者では「和」の要素を持ったファッションが対象になるだろう。

もう1点。クールジャパンと絹の関係に触れたい。クールジャパンは、アニメ、マンガ、映画、ヒップホップ、ファッションなど日本のサブカルチャーの総称で、現政権は日本経済の成長戦略に採用している。欧米やアジアの世界の若者が好む「クールジャパン」は、「カワイイ」の言葉に象徴されるが、これをアジアに発信しようと、省庁横断的に「クールジャパン」戦略を推進する方向にある。経済産業省では、クールジャパン戦略を推進するための組織を設置して19億円超の予算を財務省に求めている。

クールジャパンに「日本の絹」がどう関わるのか、明解なアイデアは出ていない。しかし、クールジャパンというサブカルチャーも日本文化のひとつであることは間違いない。アジアの経済発展に伴う旺盛な消費欲を考慮すれば、日本の絹の技術文化をそれに含めない手はないと思う。

4 繊維・ファッション流通の新潮流

繊維・ファッション流通の新潮流を、結論的に言えば「工」と「商」の直結ということになる。流通の基本は、メーカー（「工」）、卸（「商」）、小売り（「商」）。しかし、すでに述べたように、「ユニクロ」のSPAというビジネスモデルは「工」と小売りの「商」を自社内で一貫したもの。生産のオペレーションこそ、商社機能を活用しているが、企画・デザインから小売りまでを自社で行っている。そこでは、卸という機能は不要だ。

一方、冒頭で見たように、小売り流通では「旧勢力」が「新勢力」に押されている。その理由は、新勢力が根本的には、「卸」を介在させない、いわば擬似SPAモデルを採用しているところにある。本格的なSPAモデルでも擬似SPAモデルでも、その有利さは消費ニーズを素早くキャッチして早期に生産し、店頭（ネットを含めて）に出すところにある。「卸」が介在しない分、効率的なことは言うまでもない。

グローバル経済の進展で、ファッションの世界でも競争相手は国内の同業者だけでなく、欧米はもちろんアジアの有力企業も無視できなくなっている。とりわけ、世界から見れば「美味しい市場」である日本には、世界の有力ブランドメーカー、小売業がこぞって参入して激戦を繰り広げている。この“メガコンペティション（世界大競争）”につれて、伝統的な流通過程から伝統的な業種の「卸」が退場を余儀なくされている。

もちろん、今後、すべての小売業やメーカーがSPA化するわけではない。百貨店で見れば、従来型のアパレル企業（製造卸売業）と百貨店の取り組み関係は継続するだろう。より、多様なファッションを消費者に提案することができるからだ。しかし、その一方では、百貨店は自社オリジナルの商品も開発・販売する方向にある。その際、ビジネス手法はSPA手法で行われるだろう。何故なら、オリジナル性と利益を確保するための効率性が求められるから。量販店も衣料品事業では、相次いでSPAモデルに切り替えている。

世界大競争で起こっている流通の変化。簡略化して分析すると、「工」と小売りの「商」が限りなく接近していることが、その変化をもたらせていることが理解できるだろう。TVショッピングでも、運営会社はメーカーと直に取り引きしている。卸はメーカーになるか、小売りになるしか生きる道はないとも言える。

こうした「工」と「商」の接近という潮流は、さらに太くなるだろう。それは、小売りの勝ち組である「新勢力」も、厳しい競争に打ち勝つためには、扱い商品の差別化が必至だからだ。

今、駅ビル、ファッションビル、セレクトショップなど健闘している小売り流通企業が力を入れていることは、店頭販売員のスキルアップと商品のオリジナル性の追求。前者は、「ルミネ」の「ルミネスト」（ロールプレイングコンテスト）が名高いが、店頭販売員のスキルアップとモラル向上

に役立っている。小売業だけでなく、SPA企業も、製造卸売業とSPAが並存するアパレル企業も、こぞって店頭販売員の能力向上に躍起となっている。

店頭販売力の強化と同時に力を入れているのが、商品のオリジナル性。すでに、ある駅ビルでは経営トップまでが繊維産地を訪ね、産地研修を実施している。「商品の差別化は素材の差別化から」の重要性を知っているからだ。

百貨店が低迷している理由のひとつに「自社でMD（マーチャンダイジング、商品化計画）を行わず、アパレルやブランドメーカーに売り場づくりを依存している」こと、その結果、商品が同質化したことが指摘されている。この商品の同質化という難問は、すべての小売りの課題でもある。だからこそ、好調さを維持している、例えば駅ビルなどの商業施設が産地研修まで行っているのだ。

小売り流通が、厳しい競争に打ち勝ち、持続的に成長する要諦は、店頭販売力の強化と商品のオリジナル性の追求。後者では、必然的にメーカーと直結することになる。メーカー側から言えば、オリジナル性を追求する小売業に対して新しい提案を行うことが求められる。小売業の激しい競争は、必然的にメーカーへの接近をもたらすだろう。

最後に、日本の絹の持続的成長のために、目下、小売業を含めて蚕糸絹業界全体が取り組んでいる「提携システム」に触れたい。提携システムは、「農工商連携」そのもので、



数々の純国産絹製品を展示（日本の絹展より）

すでに記した「工」と「商」の直結という潮流にも合致している。しかも、提携システムは「擬似SPA」とも言える。「擬似」という表現は、まがい物を連想するかも知れないが、ならば「SPA型」、「SPA的」モデルと言い換えることもできる。時代の潮流に合ったビジネスモデルであることに自信を持って良いだろう。

昨年10月に行われた「蚕糸絹業をめぐる情報交換会」で高島屋MD本部呉服ディビジョンの池田善政氏は「高島屋の呉服部の業績は好調で売り場も増やす」と言明したが、その要因に自ら産地に入り込んでオリジナルな商品を「買い取り」で集めてい

ることを指摘した。メーカーと小売りの直結によるオリジナル性の発揮そのものだ。

百貨店、量販店、各種専門店、ショッピングセンター、駅ビル、ファッションビル、ネット・携帯通販、TVショッピング、カタログ販売、エキナカ、アウトレット。競い合う小売業群の生き残り戦略の最大のキーワードは「オリジナル性」。この方向は、必然的に魅力ある商品を生み出すメーカーとの出会いを求めるだろう。

せいりゅう きよしげ

元日本繊維新聞 編集主幹

－今に生きる織物産地 西陣－

西陣織工業組合

専務理事 碓山俊光

姉妹提携記念「西陣至宝展」－今に生きる織物産地 西陣－が、平成 22 年 10 月 16 日～11 月 29 日、群馬県高崎市の日本絹の里で開催されました。

『群馬県立日本絹の里』と『西陣織会館』は、(財)大日本蚕糸会の仲介で知己を得、その後、＜蚕糸・製糸・絹業＞の振興・発展に向けた相互理念が一致し、平成 21 年 7 月、姉妹提携・友好会館締結と相成りました。

今回の至宝展の開催は入念な事前協議の後、群馬県立日本絹の里主催の第 20 回企画展に、当会館が共催する形で実現したものです。

それだけに、当会館は(財)西陣織物館が所蔵する数千点の所蔵品・資料の中から能装束・几張・掛軸など織物ファン・関係者には垂涎の織物類 30 点を選び、展示したものです。同時に、つづれ機の実演や西陣に関する講演も行い、日本一の養蚕地に生きる群馬県民に、日本一の織物＜西陣の伝統の技と美＞を披露し、共感を得ました。

他方、平成 22 年 11 月 19 日～21 日、「本場奄美大島紬・西陣コラボ展」を本場奄美大島紬会館で開催しました。

同展は、西陣織会館と本場奄美大島紬会館の姉妹会館交流事業の一環として、一昨年に続いてのものです。

ただし今回は、同展開催を控えた 10 月、奄美地方を集中豪雨が襲い、大打撃を受けたにも拘らず奄美側のたつての希望と、当西陣は災害からの復興を願って同展を開催しました。

時代の潮流と西陣産地の現状

平成の時代を迎え、バブル経済崩壊後の社会環境は、それまで＜経済一辺倒＞であった状況が、健康指向などいわゆる＜人の暮らし＞に目を向ける環境に変わってきたといえるのではないのでしょうか。

とくに近年、

- ①サブプライムローン問題に端を発し、リーマンショック以降の世界規模での経済危機
- ②株価の低迷・円高と、消費者の買い控え
- ③企業の統合・合併による大型化
- ④失業者の上昇・雇用不安

⑤少子・高齢化

⑥グローバル化・IT化の進展と、エコ化の急進展

⑦地球温暖化防止策の進展

⑧生活者の意識変化・購買行動の多様化といった社会環境が顕著になり、西陣産地内でも、

①需要の減少

②事業者（組合員）の減少

③高齢化と後継者難

④生糸を中心とした原材料問題

⑤枯渇化部品・道具類の顕在化

⑥関連工業（図案・意匠紋紙・糸染・整経・綜紵、等々）の危機

を問題視するまでになってきました。そのため、これまで西陣のPR的活用をその旨としてきた西陣織会館は、本誌既載（2010・No.10・No.13号）の通り、「純国産絹織工房」「（京）和装・伝統産業職人工房」の開設に至り、原材料から製品づくりまでの染織総合会館になりました。

とくに、「純国産絹織工房」での養蚕は、桑葉や繭棚等について群馬県庁、絹の里、大日本蚕糸会の協力・指導を得て進めています。また、マフラーの体験コーナーは館内に3ヵ所設置し、国産生糸による製織で人気を集めています。

このように、西陣織工業組合はこれら社会環境に向き合い、時代に沿った施策を展開するとともに、西陣産地内の諸問題についても適宜施策・事業を講じ、問題の解消・解決にあたっていますが、社会環境については産地努力だけでは如何ともし難い現状

であります。

こうした中、西陣至宝展を開催しました。

西陣至宝展

ー今に生きる織物産地 西陣ー

西陣至宝展（写真①）は既述の通り、平成22年10月16日～11月29日、日本絹の里で開催しました。

その内容は大きく、（1）（財）西陣織物館が所蔵する織物および資料の展示と、（2）関連行事（イベント）に分けられます。

先ず、（1）の展示品は、

①人間国宝・喜多川平朗（故人）作の
ゆうそくふたえ 有職二陪織物による几張・宝相唐華
ほうそうからはな
みつもりきっこうもん 三盛亀甲文 昭和初期製作（写真②）



写真①
西陣至宝展



写真② 右から、
有職二陪織物几張「宝相唐華三盛亀甲文」、
能装束「紅地雪輪青海波に水仙文唐織」

②喜多川平八（故人）作の皇居御造営裂・
さびあさぎじなみ ばら かいづくしもんよう
錆浅葱地波に薔薇貝 尽文様 明治 21
年製作

③昨年 105 歳の天寿を全うされた、生
涯織師一筋の山口安次郎作の能装束・
べにじゆきわせいはいは すいせんもんからおり
紅地雪輪青海波に水仙文唐織平成 3 年
製作（写真②）

④加納嘉一郎（故人）作の織物屏風・
はくしんへきはつひやくじゅうおうやくぶ
白身碧髪百 獣 王 躍舞の図 昭和 32 年
製作

をはじめ、洛中洛外屏風（昭和後期製作）
や織物貼交屏風「絢裂」（明治前期製作）、
壁張掛軸（明治 39 年・鳥居栄太郎作）、丸
帯（明治・大正時代製作）、裂帖（明治 15
～ 30 年・佐々木清七作）、資料類等々 30
点を陳列しました。（写真③）

これらの作品はいずれも品質の高い国産
生糸を使用し、高度な技術で織り上げた西
陣産地を代表する、至宝といわれるものば
かりです。また、これらの多くは、東日本
では初めて披露したもので、それだけに来



写真③
貼交屏風の展示風景

場者は高い関心を持っていただき、熱心に
鑑賞されていたように感じました。

つぎに、(2) の関連行事を紹介しますと、

①つづれ機の実演と説明

②舞妓の着装体験と解説

③マフラーの織体験

④講演会

⑤展示解説会（列品解説）

を期間中の土・日曜日を利用し、随時行
いました。

中でも、①つづれ機の実演と説明は、下
絵（デザイン）を経糸の下に敷き、それを見
ながら刺繍を施すが如く、緯糸で経糸を
包み込むようにして緻密に織細に織り上げ
て行く様、また、＜ぼかし＞や＜濃淡＞を
表現する様（何本かの色糸に微妙に変化を
つけ撚り合わせて緯糸として使用する）な
どは、西陣織の真髄・手の技の極致ともい
えるもので、その技術に高い関心と興味を
持っていただき、説明にも熱が入ったもの
です。

そして、群馬県花の「ツツジ」をつづれ機で織ったところ、大変興味を惹き人気を集めましたので、出来上がった作品を、絹の里へ贈りました。

また、②舞妓の着装体験と解説では、＜京都の舞妓さんへの変身＞願望が強くあることを裏付けるように、多数の参加者があり大変な人気となりました。勿論、変身後は大満足でこれをきっかけに、きものに愛着を持っていただく、着ていただけることに繋がればと、改めてそういう思いに囚われたものです。

さらに、③マフラーの織体験は、真に織ってみたい、体験してみたいという人が参加。それだけに、指導者の指導に真剣に耳を傾け、手足を動かし、2～3時間を掛けて自身のマフラーを製織（写真④）。出来上がった自分で作った日本に一枚しかないマフラーを、大事そうに持ち帰られる姿をみていると、やはりこうした手仕事は伝承していかなければならない、技術・技法を

絶やしてはいけないと、しみじみ感じ入った次第です。

④講演会では、日本絹の里大学の講義として私自身が、「西陣の歴史と現状」「西陣織―古への回帰」をテーマに講演（写真⑤）。文字通り、西陣の歴史と現状、＜温故知新＞を地でいく西陣の姿、すなわち、歴史と伝統、これに培われた意匠・技術力の継承と、これを基に新製品・新分野に挑戦する西陣の姿、さらに、一昨年・昨年に開設した＜純国産絹織工房＞・＜「京」和装・伝統産業職人工房＞で、本物の原材料（国産絹糸等）を使い、高度な技術を有する職人による＜ものづくり＞についてなどを2時間に亘ってお話しし、熱心に傾聴いただきました。

⑤展示解説会でも同様に、列品一点一点の特徴・織り方（組織）等を解説し、西陣織の優秀さを理解していただきました。

期間中、約5千人の来館者があり、貴重な交流が果せたと思っています。



写真④
馴れない手つきながらも、
真剣にマフラーの製織に取り組む



写真⑤
聴講者を前に講義する
碓山俊光西陣織工業組合専務理事



写真⑥
国産生糸製の製品を販売する
「シルクショップ」

本場奄美大島紬・西陣コラボ展

同展は冒頭でも述べた通り、奄美集中豪雨復興祈願（写真⑧）として開催しました。

その内容は、製品販売のほか、①開発新商品の審査・展示（写真⑨）、②史料・力作品の展示・公開、③十二単ショー（写真⑩）、④繭座繰りの体験、⑤養蚕の紹介等を行い、人気を集めました。

とくに、繭座繰りの体験コーナーでは、前回、小学生の入場が少なかったことから今回、教育委員会の呼び掛けがあって200人もの児童が来場。ワイワイ・ガヤガヤ、興味津々の体で体験してくれ、貴重な情操教育になったと自負しています（写真⑪）。

開催期間を通じ今回の同展では、前回にも増して国産生糸に高い関心を示しておられるように感じました。



写真⑦
繭クラフト



写真⑧
奄美豪雨災害からの復興コーナー

結びに

現下、西陣産地は既述の通り、非常に厳しい局面にあります。また、全国に何十とある和装産地もまた、同様だと思います。

標題にある通り、「今に生きる織物産地西陣」は、こうした局面を打開するための方策・施策を模索し、各種の事業を実践していますが、たやすく実となり花には成りません。



写真⑨
開発新商品の展示風景

そこで、これだけは絶対に死守していこうと考えていることがあります。それは、1つは、知的財産権である「西陣」「西陣織」の継承。今一つは、千有余年に亘って培われてきた歴史と伝統、意匠と技術力の伝承です。

すなわち、高度な技術を有する職人の養成と、本物の原材料（国産絹糸等）を使った本物のものづくりを継続・継承していくこと。つまり、さすが西陣織だといわれるものづくりです。こうした考え方を保ち、機業活動を続ければ、未来永劫「今を生きる織物産地 西陣」が存続するはずです。

そして、余力で、また、チャレンジャーが新しいものに挑戦していく。いわゆる、新分野・新商品を含めた消費者ニーズにあったもの（製品）づくりを手掛けていくことです。

本年、西陣織会館は開館 35 周年を迎えます。また、大正 4 年開館の旧西陣織物館から数えると、96 年になります。今後、100 周年・200 周年を迎えられるよう前進



写真⑩
十二単に変身後、家族や知人と記念撮影



写真⑪
興味津々、繭の座繰りに挑戦する小学生

あるのみです。

そんな中で、時代の環境が整えば、倍旧の西陣の繁栄・発展があると確信するものです。

いかりやま としみつ

西陣織工業組合 専務理事

中国備蓄生糸の本格的放出（売渡し）始まる

1 生糸国家備蓄制度発足の経緯

中国における生糸国家備蓄制度とは、国家が企業を通じて生糸、正確に言えば機械繰り家蚕生糸（中国の場合「敝糸」という。）を市場から隔離することによって繭・生糸の需給の改善を図り、1980年代に勃発した「繭大戦争」（市場経済の導入に伴い盲目的産業投資がシルク業界に行われ、各地で繭が買い漁りされ、価格は暴騰し、繭購入秩序が混乱、生糸生産・加工面にも大きな混乱が生じた事態）の再来を避ける目的で発足した。1996年から準備（同年12月、具体的な暫定法を公布）され、1998年9月にも発動されているが、当時は発動するというアナウンス効果だけで市場価格は回復し、実際の買上げ発動はなかった模様である。1996年以前の中国では、元々、国内の繭と生糸の流通と価格管理は、計画経済の下で厳しく統一管理（中国絲綢進出口総会社が管理を独占）してきていたが、その後の市場経済の本格的導入・浸透に備えて、流通面においてそれまでのような統一管理の維持は不可能と判断されて、このような備蓄制度が設けられた経緯がある。

現在、供給不足時等に対応するための国

家備蓄制度があるのは、品目としては生糸だけでなく、穀物、食料油、メタル、砂糖、原油などがあり、その対象品目は、徐々に拡大する方向にある。

2 国家備蓄制度の生糸としての実施状況

中国は、これまで国家備蓄制度下の品目について、その実施規模は国家秘密とされ公表されることなく、まさに秘密のベールに包まれていた。しかし、WTOの正式加盟以降、国際化進展の波の中でここ数年来、徐々にその実施体制、規模等の動きを明らかにし始めている。生糸の場合、別表1が2007年1月以降の国家による生糸の買上げ、買換え及び売渡しの実施状況である。

具体的にその実施過程を見ていくと、2006年後半から始まった世界金融危機の影響を受け、中国生糸価格（基準生糸価格21デニール3A。以下同じ）は下落傾向に転じ、2007年当初価格は、国家発表による市場への数回の注意勧告にもかかわらず市況は回復せずに1月中旬価格は200元/Kg水準を割ることになり、同年1月30日に生糸の国家買上げがスタートし、同年3月末まで同買上げが実施されてい

る。(買上実施通知(別記1)及び国家の特別注意勧告(別記2)参照)

この時の買上規模は、後年の昨年8月に8,000トン(133,300俵)と国家から公表されることになる。この買上げ数量は、当時の中国生糸年間生産数量の約1割に近い数量に相当する規模であった。

その後、2009年2月には買上げ在庫数量の一部に買換えが実施された後は、2009年度後半から生糸価格は上昇傾向に転じることになり、繭生産が本格化する春蚕期以前の2010年1～4月には4回にわたって備蓄生糸の放出(売渡し数量1,300トン(21,700俵))を行っている。さらに4月以降の同年の生糸価格の推移は、繭価格の高騰に追随する形でさらに上昇し、同年9月には330元/Kgまで高騰し、ついに9月29日には、600トン(10,000俵)規模の市場への売渡しを公表した。この際の公告(別記3)は、売渡し参加資格及び入札条件等が詳細明示されたものであり、厳しい買い入れ対象者の資格要件、入札保証金の徴収、入札参加者の入札参加荷口数量制限、契約方法、生糸受渡細目などの主要項目は、日本における繭糸価格安定法の

施行下のかつての蚕糸事業団の行っていた一般競争入札とほぼ同様の方法であるが、落札方法に関しては日本の場合と異なり、各荷口ごとの最高値の入札価格提示者が落札とならずに、全荷口の平均入札価格との絶対値の差が小さい価格提示者を落札とする(同価格の場合は、指定期間内に早く入札を入れた者を採択)方法を取っており、時価により近い生糸価格により生糸需要者に対して売渡し生糸を円滑供給されるよう配慮されているのが注目される。

結局、これの入札結果は、入札日の10月27日の夕刻、政府関係ネットで全国に発表され、有資格入札参加者(全国のシルク生産・加工関係企業)96者中、91者が応札し、荷口数量の倍率8.5倍の競争の結果、29者が落札して全量完売され、これの平均落札価格は約300元/Kgと公表されている。

これを受けてのその後の中国の交易所(取引所)の取引価格は、350元/Kg水準で推移しており、今後もし残りの国家備蓄生糸6,100トン(101,700俵)も順次放出される状況下にある。

別表 1

国家備蓄制度による生糸買上げ、買換え及び売渡しの動き

年 月 日	記 事	市場価格 (元/kg)
2006/11 月～ 12 月		220 ～ 230
2007/1/10	○シルク市場情勢分析 (基本的に需給バランス良好、しかし、大量の投売り玉多し)	200
2007/1/18	○市場に対する第 1 次特別注意勧告 (流言、飛語に惑わされず、冷静な情勢分析を求める)	190
2007/1/26	○市場に対する第 2 次特別注意勧告 (漁夫の利を狙う価格操作と投機行為の厳禁。買入を示唆)	187
2007/1/30	○生糸買上げ実施通知 (申込み期限 :2/1 ～ 12、対象生糸 : 検閲検疫局検査受験 3 A 以上、最小ロット :30 トン (500 俵)、買上価格 :195 元/kg)	188
2007/2/2		195
2007/2/8	○生糸買上補充通知 (1) (申込み期限 2 月末まで延長、買上価格引上げ→ 200 元/kg、現物の指定倉庫搬入期限 3 月末)	199
2007/2/18 ～ 25	春 節	-
2007/2/28	○生糸買上補充通知 (2) (申込み期限 3 月末まで再延長、現物の指定倉庫搬入期限 4 月末)	192 ～ 193
2007/3/2		208
2007/3/6	○市場に対する第 3 次特別注意勧告 (買上資金不足のデマ、対製糸へ投売り誘導の動きに対して国家買上の趣旨を徹底)	190 ～ 193
2007/3/7	○生糸買上補充通知 (3) (買上価格再度アップ→ 205 元/kg、)	192 ～ 193
2007/3/30	○国家生糸買上の終了通知	190 ～ 185
2009/2/12	○国家備蓄生糸の買換え実施通知 (1 年以上在庫した生糸を同数量生糸と交換)	160 ～ 180
2009 年 12 月	○絲綢交易所より売渡しの可能性を示唆するニュース流れる	240
2010 年 1 月～ 4 月	○4 回にわたって備蓄生糸を売渡し (1,300 トン= 21,700 俵)	240 ～ 250
2010/8/12	○国家繭絲綢弁公室が 2007 年の買い入れ数量等公表 (買い入れ数量 8,000 トン (133,400 俵))	270 ～ 280
2010/9/29	○国家繭絲綢弁公室、600 トン (10,000 表) の売渡しを公表 (入札日 10 月 27 日、入札場所 : 北京)	330
2010/10/19	○国家繭絲綢弁公室、有資格入札参加者名簿を公表 (96 社、このうち江蘇・浙江省公司 65%)	340
2010/10/27	○国家繭絲綢弁公室、入札結果を公表 (全量落札、平均落札価格 300 元/kg)	340 ～ 350

別記 1

国家備蓄制度による生糸買上げ実施の通知

中経実業開発公司

中経 [2007] 02 号

2007 年 1 月 30 日

国家繭絲綢弁公室（以下「繭絲弁」という。）の委託を受け、当公司は、近々国家備蓄制度による生糸の買上げを実施することとしたので、ここに下記のとおり関係事項を公告する。

記

1 買上げの概要とその管理

- (1) 買上げの管理工作は、繭絲弁がその責任を負うものとする。
- (2) 買上げの具体的実務工作は、中経実業開発公司が担当する。

2 買上げ内容とその方法

- (1) 時間：2007 年 2 月 1 日より受付を開始する。特殊事情がある場合は別途通知する。
- (2) 等級：商品検驗局検査において 3 A 以上の白繭糸
- (3) 買上げ最小ロット：50 荷口（10 俵 × 60Kg × 50 小荷口 = 30 トン（500 俵））
- (4) 買上げ価格：トン当り 19.5 万元（= 195 元 / Kg = 3,120 円 / Kg）を基本として具体的には生糸品質状況により、協議、決定する。
- (5) 売渡し企業は、今回の買上げに参加する場合、2007 年 2 月 12 日までに、当該企業の売渡し数量、その品質、価格及び連絡方法（ファクス）を中経実業開発公司にあらかじめ申し込まなければならない。これの確認後、協議の上、国家生糸備蓄買上契約を締結し、繭絲弁へ報告されることになる。

別記 2

シルク市場に関する第 3 次特別注意勧告

2007 年 3 月 6 日

中国商務部（国家繭絲綢弁公室）発

企業が伝えるところによれば、シルク期近市場に関して国家備蓄買上げ資金が不足しており、シルク産業を安定化させるコントロールが無力化しているとかのデマ、流言が出回り、また製糸企業が市場に対して投売りを誘導させる動きがある。

このため、当国家繭絲綢弁公室（事務局）は、国家備蓄生糸買上げ政策は、国家のマクロコントロールを強化して行うものであり、繭糸価格を安定させ、繭・シルク産業を健全に発展させる重要な手段であり、国家自らが業界の健全な維持・発展のために決断したものであることを、ここに発表するものである。

関係諸企業にあっては、流言、飛語に惑わされることなく、慎重な対応を取ることをここに希望する。

（備考）

国家繭絲綢弁公室によるシルク市場に関する特別注意勧告は、これで本年度 3 回目である。

第 1 回目は、2007 年 1 月 18 日に、第 2 回目は、2007 年 1 月 26 日に通知されている。その後、同月末に「国家備蓄生糸買上げ」実施通知がなされているところである。

別記 3

国家備蓄生糸の売渡し公告

国家繭絲綢弁公室

2010 年第 1 号

2010 年 9 月 29 日

現状のシルク情勢に対応して、需給状況を緩和しシルク産業の安定的発展を図るため、国家繭絲綢弁公室は、国家備蓄生糸の一部を公平な競争入札により放出（売渡し）することを決定した。この売渡しに関する参加資格と競争入札条件は、次のとおりであり、ここに公告する。

記

1 売渡しの基本事項

(1) 売渡し者：国家繭絲綢弁公室

(2) 売渡し実施機関：中机国際招標公司

(3) 売渡し対象生糸の品種、数量及び品質

①品種：国家備蓄 B 類 (3A 以上) 白繭糸

②数量：約 600 トン (10, 000 俵)

③売渡し対象生糸：2006 年及び 2007 年に買入れ保管したもので、すべて当時の商品検驗局検査の検驗検疫書 (原検定書) 付きでその後の再検査ものでなく、江蘇省呉江及び浙江省湖州の指定倉庫に保管されている生糸

(4) 売渡し方式

①今回の売渡し対象荷口は 50 荷口とし、各荷口が 1 つの競争単位とする。

②上記の各荷口は、20 小荷口 (12 トン (200 俵)) 単位とする。

③入札参加者の入札参加制限数量は、最高 5 荷口 (600 トン (10, 000 俵)) とする。

2 買入れ対象者の資格要件

(1) 独立した法人資格を有すること。

(2) シルクの生産、加工に関する事業を行っている者とし、現に絹織物、絹編物、絹撚糸等の生産及び染色・加工を行っている者とする。

-
-
- (3) 生産するシルク製品の安定的販売実績を有し、かつ相応の資金力を有する者とする。
 - (4) 当該企業の信用状況が良好であること。
 - (5) 最近 3 年間に於いて、国家の法律、法規に違反することなく、かつ不正行為が無かった者とする。

3 買入れを希望する者の入札参加資格取得方法

今回の入札に参加しようとする者は、別添の国家備蓄生糸競争入札資格申請書に所要事項を記入の上、企業法人営業許可書及び開設銀行が発行する当該企業が当該競争入札に参加する能力と信用状況を証する書面を添付し、2010 年 10 月 13 日までに省級商務部主管部門(繭絲弁)に提出するものとする。申請書類は、A 4 規格で作成するものとし、各 2 通を提出する。

4 資格審査

- (1) 省級商務部主管部門(繭絲弁)は、3 の買入れ希望者から提出された書類が上記条件を満たすかどうか資格審査を行い、当該省級レベルの「国家備蓄生糸競争入札資格申請表」にとりまとめ、国家繭絲綢弁公室に 2010 年 10 月 15 日までに報告・提出するものとする。
- (2) 国家繭絲綢弁公室は、「国家備蓄生糸競争入札有資格者表」を商務部市場運行部 HP ネットに 2010 年 10 月 19 日から 21 日までの間、掲載・公表する。この公表されたものに異議がある者は、この公表期間内に国家繭絲綢弁公室に対して関係部門の証憑書類を添えて異議を申し立てるものとし、この際、国家繭絲綢弁公室は速やかにその実務処理を行うものとする。公表期間後、異議申し立ての無かった企業は、正式の有資格者と認定され、次に掲げる入札参加手続きに入ることができる。

5 入札参加手続き

- (1) 入札参加希望者は、これに添付されている「国家備蓄生糸競争入札書」の様式に基づき、関係事項を書き入れるものとする。
- (2) 入札価格については、当該売渡備蓄生糸の保管倉庫渡し価格とする。
- (3) 同一企業の入札参加者は、「国家備蓄生糸競争入札書」正本 1 通のみ提出す

るものとし、複数の入札書を提出した者は無効とみなす。

- (4) 入札に参加しようとする者は、「国家備蓄生糸競争入札書」正本1通を密封し、この封書には「国家備蓄生糸競争入札書」在中と明記し、入札参加者の名称、住所、郵便番号も明記し、2010年10月21日以降に提出するものとする。
- (5) 上記入札書を郵送で提出する場合は、2010年10月26日までに中机国際招標公司（北京市豊台区西三環中路90号 担当者「孫燕」宛）に必着とし、持参する場合は、同年同月27日午前10時までに前記まで提出するものとする。
- (6) 入札価格に関して、悪意をもった混乱価格を入れることは禁止することとし、明確に不合理な価格での入札があった場合は、この入札企業又は当該担当者に対しては、今後、国家備蓄生糸関連事業の参加資格を取り消すものとする。

6 入札保証金

- (1) 入札に参加しようとする者は、2010年10月25日までに保証金10万元を中経実業開発公司の開設する銀行口座に入金しなければならない。
- (2) 前記の期間までに入札保証金の入金がなされなかった者は、その入札は無効となる。
- (3) 入札落札者は、国家繭絲綢弁公室が発行する「入札落札通知書」により、納付した入札保証金全額を商品代金に充当出来るものとする。
- (4) 当該入札の不落札者の入札保証金は、中経実業開発公司により2010年11月3日までに返却される。
- (5) 下記の事態が発生した場合、当該保証金は返却されずに国庫に納付される。
 - ①入札者が「入札落札通知書」を受領後2日以内に中経実業開発公司との間に国家備蓄生糸売買契約を締結しなかった場合
 - ②入札者（落札者）が、国家備蓄生糸売買契約を締結後、5日以内に当該商品代金（落札価格×落札数量－入札保証金）を中経実業開発公司の開設口座に入金しなかった場合

7 開札及び同審査

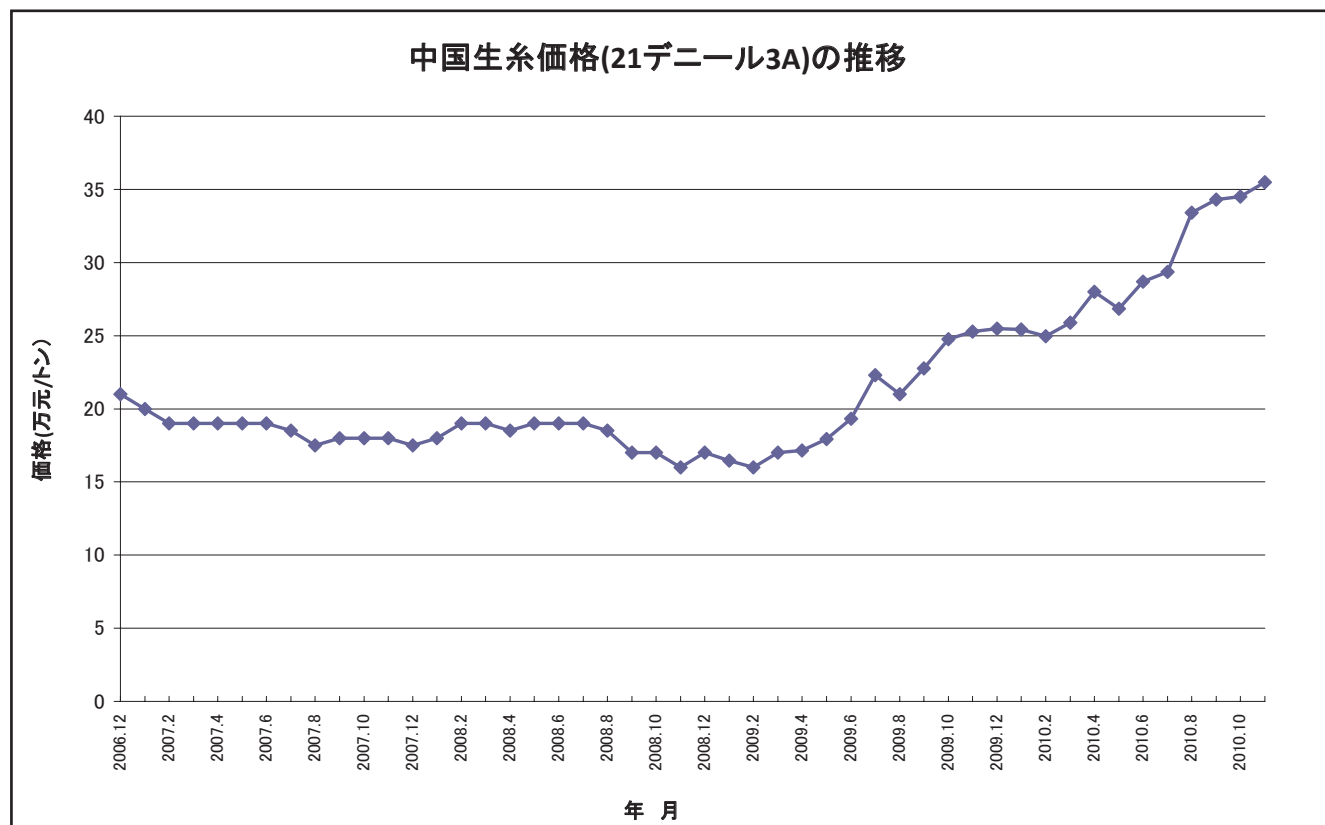
- (1) 開札時間：2010年10月27日午前10時
- (2) 開札場所：北京市豊台区西三環中路90号通用技術ビル

-
-
- (3) 開札には入札参加者代表が参加する。
 - (4) 開札に当たり、外部専門家、売渡し者及びその実施機関の代表からなる審査委員会が組織される。
 - (5) 開札審査（落札）方法
審査委員会は、予め全入札荷口の入札価格の平均価格（入札平均価格）を算出し、各荷口の当落に当たっては、その入札価格と入札平均価格との差額（絶対値）が小さい入札が上位となり、同一入札がある場合は、当該入札書を定める期間の中で時間的に早く提出したものを上位として落札者と認定する。

8 契約の締結

- (1) 国家繭絲綢弁公室は、2010 年 10 月 29 日までに落札者一覧をネットに公表することとし、落札者には「入札落札通知書」を発行する。
- (2) 落札者は、2010 年 11 月 2 日までに中経実業開発会社との間に国家備蓄生糸売買契約を締結するものとする。
- (3) その後、落札者は、2010 年 11 月 9 日までに商品代金（落札価格×落札数量－入札保証金）を中経実業開発会社の開設口座に入金するものとし、この入金がなされなかった場合は、違約とみなされ当該契約は解除されその入札保証金は没収されるものとする。
- (4) すべての商品代金が入金確認された後、国家繭絲綢弁公室は、落札・契約者に対して「出庫通知書」と「出庫明細書」を発行する。これをもって契約者は指定倉庫に出向き、当該契約生糸を出庫する。その際の出庫とその後運輸経費は契約者が負担するものとする。
- (5) 契約者は、「出庫通知書」と「出庫明細書を受領後、15 日以内に出庫すれば、その間の保管費用は負担することはないものとし、もし、この 15 日間を過ぎた場合は、1 トン当たり 1 日 3 元の保管経費を負担するものとする。

参考



国内産地情報

絹織物産地の概況（11月）

各産地の織物の生産量は概ね前年並みで推移している

<原糸>

中国の輸入生糸相場は来年3月分の取引が活発で、生糸、乾繭ともにジリジリと上昇している。またオフアール価格は相場以上に上昇しており、値段もさることながら、端境期には高品質の生糸が生産できるか心配される。一方、我が国の生糸手当は全般的に慎重な対応である。

<白生地>

- ・ 丹後の縮緬生産は、前年比95%で、無地103%、紋生地93%と前年を若干下回った。また、商品の値上げは一部に限られている。
- ・ 長浜の生産は、前年比97%で原料高で値上げを要求されており、集散地の対応は必要なものだけ発注するという慎重な姿勢である。
- ・ 五泉の生産反数は、全体に荷動きが悪かったが生産は前年比3%の減少であった。
- ・ 福島は、和装、スカーフともに低調で、価格が安ければ売れる。
- ・ 石川は、和装、洋装共に生糸価格が値上がりしたので織物も若干値上がりした。合織薄地織物は相変わらず好調である。
- ・ 福井は、生産は広幅、小幅ともに前年比10%強の増産になっている。原料高で値上げしたいが、末端への値上げがままならない。
- ・ 群馬・埼玉は、群馬では原料の値上がりから引合いが落ち込んだ。埼玉では善戦が続いていたが、受注が減少してきた。

<先染織物>

- ・ 西陣の帯は、全般的には、値頃ハデ物商品が牽引し、ほぼ昨年並みの生産を維持していると思われる。中・高級品は苦戦し、減産が続いている。
- ・ 博多は、紋織袋帯は前月が良かった反動で減少、その他は求評会向けの作成で前年を大きく上回っている。
- ・ 十日町は、付下げが好調で、全体的にも好調である。
- ・ 米沢は、呉服は商いが低調で在庫も減少傾向にある。
- ・ 山梨は、服地がようやく動き出した。ネクタイは一部それなりの動きはあるが量は少ない。
- ・ 西陣のネクタイは、ようやく来春夏物のオーダーが入り出した。一部ブランドを手掛ける企業は比較的安定した稼働である。

*（社）日本生糸問屋協会月報 22.12.14 第741号による。

海外シルク情報

中国

中国、国家備蓄の生糸の一般放出結果（完売）を公表

本年 10 月 27 日夕刻、シルク産業の監督官庁・国家繭絲綢弁公室は、今回行われた国家備蓄生糸在庫 10,000 俵の国内市場への一般放出結果を公表している。

これによると、10 月 25 日午後 4 時の締め切り時点において、今回の有資格入札参加者（シルク生産及び織・編物加工関係企業）96 社の中で 91 社が所定（10 万元）の入札保証金を納入の上、入札対象 50 荷口（1 荷口 200 俵× 50 = 10,000 俵）に対して 426 荷口の申し込み（競争倍率 8.5 倍）があった。同月 27 日の午前 10 時に開札し、電子審査システムを駆使してのデータ処理を行い価格評価委員会の審査を経て、今回の平均入札価格は 302.27 元/kg（= 3,682 円/kg）であり、入札対象生糸 10,000 俵のすべてが落札され、29 社の落札企業を確定した旨、公表された。

これを受けての直後の中国シルク取引所価格（21 デニール 3 A）は、期近生糸価格は概ね 340 元/kg（4,141 円/kg）台、6 ヶ月先の先物価格は概ね 345 元/kg（4,202 円/kg）台で堅調に推移しており、繭生産の端境期に向けて、今後残りの国家備蓄生糸 6,100 トン（101,700 俵）のうち一部が引き続き放出される状況下にある。

本年 1～9 月の中国シルク輸出概況

最新中国海関（税関）統計によれば、本年度 1～9 月累計のシルク商品輸出状況は、総輸出金額 23.4 億ドルで対前年比 10.9% 増を記録し、中国シルク輸出は、前年までの停滞を克服し、高成長が続いている。

この好調の原因は、生糸などの原料糸類と白生地などの未加工織物の輸出価格が、前年より大幅に上昇したことでイタリア向け輸出が大幅に伸びたことである。

主な特徴点についてみると

- ① 品目別に輸出数量とその単価をみると、生糸等の原料糸類の輸出数量 14, 100 トン（235,000 俵、対前年比 15.3% 減少）、同平均輸出価格 31.77 ドル/kg（対前年比 45.3% 増加）、純絹織物の輸出数量 2 億メートル（対前年比 3.6% 増）でその平均輸出単価は 3.5 ドル/メートル（対前年比 21.2% 増）、シルク服装類の輸出数量は 6,028 万枚（対前年比 9.2% 減少）でその平均輸出単価は 13.9 ドル/枚（対前年比 4.4% 増）となり、いずれも輸出単価は前年を上回っている。

ちなみに、現在の日本向け輸出生糸（浙江産 21 デニール、4A）の価格は、既に 50 ドル/

kgを超える高値となっている。

- ② 対輸出市場別にみると、輸出金額順のトップ5は、多い順にアメリカ、インド、イタリア、日本、香港となり、特に3番目に躍進したイタリア向けは対前年比36.9%も増加している。そのイタリア向けの内容は、金額で見ると順に未加工織物（白生地）、シルク服装及び生糸類となるが、この未加工織物が全輸出額の半分近くの49.2%を占めて、これがイタリア向け輸出を引っ張っている。

＊日本生糸問屋協会月報 22.11.11 第740号及び 22.12.14 第741号による。

横浜への絹の道

シルク博物館

元部長 小 泉 勝 夫

1 陸路による生糸の輸送

生糸は横浜を開港する以前は、養蚕地帯から各絹織物の産地へ運ばれていきました。特に西陣を控えた京の都へ向かって運ばれた生糸は「登糸^{のぼせいと}」といい、東北・関東・東海・近畿・中国地方など全国各地で生産され運ばれていきました。いわゆる京へ向かう「絹の道」ができていたといえましょう。

横浜が開港されると、この港からたくさんの生糸が輸出されるようになり、京や各地の織物産地へ向かった絹の道は、横浜へ向かう道に変わってしまいました。

江戸時代に、東海道・中山道^{なかせんどう}・甲州街道・日光街道・奥州街道の5街道が整備され、江戸へ向かう幕府直轄の道が整備されました。この街道には1里塚が築かれ、2～3里（1里は約3.9km）ごとに宿場（宿駅）を置いて、宿泊できる施設を設けました。北国街道、中国街道、伊勢街道、長崎街道やその他の脇街道などにも五街道と同じような制度がとられ、国内の主要な街道は整備されていました。

地域住民が近村や峠越しに遠方に出向く生活・連絡道的な道も、十分に整備されて

いないにしても、各地に通じていましたので、横浜へ向かう道は、すでに出来上がっていたといえましょう。

しかし、入海と沼地にさえぎられた横浜に入る道だけではなかったので、開港の際に東海道から「横浜道」を新設整備し全国からの絹の道はつながりました。

ここで「絹の道」の定義とまではいいませんが、筆者の考え方を読者の皆さんに伝え執筆を続けます。

結論から申し上げますと、「一般的には、各養蚕地帯の農家（農家は製糸工場ができるまで、養蚕を行い、出来た繭から生糸を繰り販売していた）の庭先を出た道から絹の道ははじまり、特定の道や特定の区間だけを指すものではない。全国各地の養蚕地帯から横浜へ向かった道は、生糸輸送量の多少にかかわらず、すべて絹の道である」と考えています。

ただし、例えば八王子市のように「絹の道」として指定しているところもありますので、指定された絹の道と一般的な絹の道とがあります。しかし、両者を特に区別する必要もないと思っています。

最近、各地に出かけると、地域おこし・

町おこし・村おこしのために「〇〇絹の道」「〇〇シルクロード」などと名付けられ、地域活性化の活動を展開しているところが多くあります。この地の古老に話しかけると「これが絹の道で、あれは違うヨ。これが本当の絹の道だヨ」などといわれます。素直に「アア、そうですか」と聞きながら、絹の歴史を忘れずに語り伝えてくれる人がいる喜びを感じる一時になっています。

図5には、横浜開港ごろの東北・関東・甲信地帯から横浜への絹の道として想定される道路を示しました。特に生糸輸送等に

ついて記録がない道については、開港ごろからの養蚕地帯や生糸集散地などの状況から、絹の道として利用されたことを想定して辿ってみました。

同じ道であっても地域によって呼び名が違っております。例えば、福島県会津から大峠を越え^{しもつけ}栃木県に向かう道を、会津地方の人々は下野街道といい、栃木県の人々は会津中街道と呼んでいます。福島県山口から沼山峠を越え群馬県戸倉・鎌田・沼田方面に通じる道は、福島県側からは沼田街道といい、群馬県側からは会津街道と呼んで



図5 東北・関東・甲信地方から横浜への絹の道概念略図

烏川には大きな倉賀野河岸（図6、写真17、18）がありました。倉賀野は中山道と例幣使街道（江戸時代、毎年、日光東照宮の例祭に朝廷からさし遣わされた例幣使が通行した街道）などが合流するところであつたので、古くから栄えた河岸です。この河岸からは、地元近在をはじめ信州・甲州等の生糸が集積され江戸へ積み出されていきました。



（写真17）「倉賀野河岸跡」碑
（設置場所 烏川共栄橋近く）



（写真18）倉賀野河岸跡の「船着銘石」
（設置場所 烏川共栄橋近く）

利根川本流にも数多く河岸があり、生糸などを関宿（図6）から江戸川に入って江戸へ積み出されていきました。中でも利根川の平塚河岸は大きな河岸の一つで、生糸をはじめたくさんの物資を、江戸へ積み出しました。

山梨県を源流とする相模川や富士川（図6）も生糸等の輸送に使われました。

相模川の水運は勝瀬や小倉河岸などで



（写真19）昭和41年建立の「須賀（すが）湊」碑
（設置場所 平塚市内 平塚漁港脇の朝霧河畔緑地）



（写真20）須賀湊の「舟繋石（ふねつなぎのいし）」
（設置場所 平塚漁港脇の朝霧河畔緑地）

物資が積み込まれ河口の須賀湊（写真 19、20）で、富士川（図 6）は^{かじかざわ}鰍沢などで積み込まれた生糸などは清水湊に近い岩渕河岸まで輸送され、岩渕から清水湊へ陸送後、清水湊から海を使って運ばれたといわれています。

信州諏訪湖を源流とする天龍川でも舟運が行われていました。しかし、生糸を輸送したか否かは不明ですが、富士川などとともに、1600 年代はじめに幕府の命令を受けて^{すみのくらしようい}角倉了以によって水路が開かれ、幕府に納める物資などの輸送を行っておりました。横浜開港後、信州の駒ヶ根や飯田地域は大きな養蚕地帯として発達しましたので、大量の生糸は、安全を優先させ、遠距離の中山道や甲州街道等ばかりを使って、わざわざ迂回して横浜へ運んでばかりいたのでしょうか。

今後、この地域の詳細な水運調査が待たれます。

3 鉄道・トラックによる生糸輸送

わが国では明治 5 年「新橋—横浜」間に、はじめて鉄道が開通しました。その後、第 7 表に示したように、養蚕地帯の各地に向けて鉄道が敷設されると、河川や陸路等による生糸輸送は姿を消し、鉄道輸送へと変わっていきました。

1883（明治 16）年に上野—熊谷—新町間が開通し、埼玉の生糸供給地に鉄道が入り込みました。翌年には高崎を越え前橋まで鉄道が延長され、群馬県の主要な生糸供給地へと伸びていきました。ここまで鉄道

第 7 表 鉄道の敷設

年 月	開通区間（開通線）
明治 5 年 10 月	横浜—新橋
〃 16・7	上野—熊谷（高崎線）
〃 16・12	熊谷—新町（高崎線）
〃 17・5	新町—高崎（高崎線 全通）
〃 17・8	高崎—前橋（上越本線）
〃 18・7	大宮—宇都宮（東北本線）
〃 18・10	高崎—横川（信越本線）
〃 19・8	直江津—関山（信越本線）
〃 19・12	宇都宮—黒磯（東北本線）
〃 20・7	黒磯—郡山（東北本線）
〃 20・12	郡山—塩釜（東北本線）
〃 21・5	関山—長野（信越本線）
〃 21・11	小山—桐生（両毛線）
〃 21・12	長野—軽井沢（信越本線）
〃 22・4	新宿—立川（中央線）
〃 22・7	新橋—神戸（東海道線 全通）
〃 22・8	立川—八王子（中央線）
〃 22・11	桐生—前橋（両毛線 全通）
〃 23・11	塩釜—盛岡（東北本線）
〃 24・9	盛岡—青森（東北本線 全通）
〃 26・4	横川—軽井沢（信越本線 全通）
〃 32・5	福島—米沢（奥羽本線）
〃 34・4	米沢—山形（奥羽本線）
〃 35・12	篠ノ井—塩尻（篠ノ井線 全通）
〃 36・6	八王子—甲府（中央線）
〃 38・11	甲府—岡谷（中央線）
〃 39・6	岡谷—塩尻（中央線 全通）
〃 41・9	八王子—東神奈川（横浜線）

出典：鉄道百年略史編さん委員会編「鉄道百年略史」、三宅俊彦著「日本鉄道史年表」（国鉄・JR）から作表。
（ ）内は筆者記述

が敷設されると、今まで水運で繁昌していた利根川の河岸は、衰退を余儀なくされていきました。

1885（明治 18）年には高崎から横川ま

での信越線が敷設され、安中などの生糸産地を広く取り込んでいきました。

1887（明治20）年には東北本線が塩釜まで、1891（明治24）年には青森まで敷設され、1901（明治34）年には奥羽本線が全通するなど、東北地方の主要生糸供給地を取り込みましたので、鬼怒川の水運や東北からの陸送は、衰退してしまいました。

信越本線は碓氷トンネルの難工事で遅れていましたが、その先の軽井沢―上田―長野―関山―直江津の敷設工事は1888（明治21）年に終わり、1893（明治26）年、ようやく横川―軽井沢間の敷設が完成し、信越本線の全線開通をみました。この開通によって長野県の東信・北信地域や新潟県の生糸供給地は鉄道によって横浜へ輸送が可能になりました。

長野県諏訪地方などからの生糸は、中央線が開通するまで、和田峠を越え中山道などによって信越本線田中駅へ、その後1896年に大屋駅が開業すると、田中駅にかわり、ここから横浜へ輸送を行いました。

1903（明治36）年には、中央線が甲府

まで延びたので、山梨県の生糸生産地は鉄道によって横浜へ輸送することができるようになりました。更に2年後の1905（明治38）年には岡谷駅が開業し、この翌年には全線が開通したので、大生産地岡谷をはじめ南信地方の生糸は、中央線で横浜へ輸送できるようになりました。

絹の道ならぬ「絹の鉄道」といわれた横浜線は、横浜の生糸売込商原善三郎・茂木惣兵衛らの開設運動によって始まり、1908（明治41）年に開通しました。

このように、全国に鉄道の輸送網が張り巡らされたことによって、絹の道は鉄道に変わってゆきました。

関東大震災後は、神戸港からも生糸の輸出がされるようになりましたので、神戸に向かう鉄道による絹の道も開かれました。

太平洋戦争後も各地の生糸は、鉄道によって横浜や神戸へ輸送されました。

しかし、昭和30年代に入ると、道路整備とあいまって、トラック輸送が発達しだし、鉄道に代わってトラック輸送時代を向かえることになりました。

こいずみ かつお
シルク博物館 元部長

イベント情報

イベント名	企画内容および展示内容	開催期間	場所および主催者
第56回企画展 「桑摘み唄と小山の養蚕」	小山市では、古くから蚕を飼って繭を生産したり、その卵(蚕種)を出荷するといった養蚕業が盛んに行われ、国内有数の産地として発展してきました。特に明治以降は、外国への輸出品としても注目され、飼育方法の近代化と相まって生産量も増加し、一大産業へと発展しました。今回の展示では、かつての養蚕で使われた道具や、蚕にまつわる民間伝承などおして、かつての小山を代表した養蚕の歴史をたどります。また栃木県で始めてユネスコ無形文化遺産に登録が予定されている結城紬織に使われる道具についても紹介します。 (入館料)一般200(100)円、大学・高校生100(50)円、小・中学生以下は無料*()内は20名以上の団体	平成22年11月20日(土)～ 23年1月23日(日) AM9:00～PM5:00 (12月27日～1月4日、11日、17日は休館)	会場・主催・お問合わせ 小山市立博物館 〒329-0214 小山市乙女1-31-1 Tel:0285-45-5331 Fax:0285-45-5247 交通案内:JR宇都宮線間々田駅 駅下車西口より徒歩8分
日本絹の里第52回特別展 まゆクラフト作品展2010	カイコが糸を吐き始めてから繭を完成させるまで、約3日かかります。その間、カイコは繭の内側で何度も方向を変えながら、休むことなく糸を吐き続けます。そうして完成した繭は驚くほど丈夫で、独特の優しい丸形をしています。今回の展示ではそんな繭の丸みや、表面の凹凸など、繭の特性を活かして作るまゆクラフト作品を一般公募し、まゆクラフトの魅力を皆様にご紹介します。 観覧料:一般200円(160円)、大高生100円(80円) ()内は20名以上の団体料金 中学生以下及び身体障害者手帳等お持ちの方とその介護者1名様無料	平成22年12月4日(土)～23年 1月17日(月) AM9:30～PM5:00 (火曜日休館、12月27日～1月5日は休館、但し3日は開館)	会場・主催・お問合わせ 群馬県県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1 Tel:027-360-6300 Fax:027-360-6301 http://www.nipon-kinuno-sato.or.jp 後援:農林水産省、群馬県、 (財)大日本蚕糸会、中央蚕糸協会、 (社)日本絹業協会、(社)日本生糸 問屋協会等
くみひも実演と講習会	「くみひも」は糸を何十本か集めて1つの単位としたものを3つ以上、一定の組み方により交互に斜めに交差させて作られた紐で、非常に古い歴史を持っています。組むことと組んだ部分を打ち締める技法で作られる「くみひも」の技術は古く、中国から朝鮮半島を経て日本に伝わり、正倉院の宝物にも見られます。日本では平安時代から作り始められ、鎌倉時代には調度品、楽器、絵巻物、武具など広く利用され、室町時代にかけて武具類の留め具、飾りとして、桃山時代から江戸時代始めには組み帯としても用いられています。現在も和装用の帯締めや懐中時計の紐、書画の留め具、茶入れの紐など様々な使い方がされています。本講習会・実演は丸台を使った初心者向けの製作指導を行い、絹糸を使った美しい「くみひも」をより身近なものとして多くの人たちに親しんでいただきます。 入館料:一般500円(400円)、大高生200円(150円)、65才以上300円(200円)小・中学生100円(50円) ()内は、団体割引(20人以上)の料金	○実演 平成23年1月8日(土)・22日(土) ・2月26日(土)・3月12日(土)・ 26日(土) AM10:30～11:30 PM1:00～3:00 ○講習会 平成23年2月12日と19日 3月5日と6日 ※いずれも満員・キャンセル待ち	会場・主催・お問合わせ シルク博物館 〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町 1番地(シルクセンター2F) (みなとみらい線 日本大通 り駅下車3番出口) Tel:045-641-0841 http://www.silkmuseum.or.jp/
日本絹の里特別企画展 「辻村寿三郎人形展」	着物の古布を用いて独自の人形を創作する世界的に有名な人形師辻村寿三郎の展示会です。今回は「清盛無常縁起」と題した新作品を中心に絹の素晴らしさを紹介します。 観覧料:一般400円(320円)、大高生250円(200円) ()内は20名以上の団体料金 中学生以下及び身体障害者手帳等お持ちの方とその介護者1名様無料	平成23年1月22日(土)～3月 6日(日) AM9:30～PM5:00 (火曜日休館)	会場・主催・お問合わせ 群馬県県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1 Tel:027-360-6300 Fax:027-360-6301 http://www.nipon-kinuno-sato.or.jp 協力:アトリエジュサブロー
熊本で純国産絹製品展	国産の繭・生糸の特徴、希少性を生かした純国産絹製品の展示会を開催し、つくり手の顔が見える純国産絹マークの添付した絹製品を広く普及・PRいたします。 (入場無料)	平成23年2月16日(水)～ 22日(火) 2月16日～22日は10:00～19:00 最終日は10:00～17:00	会場:熊本市・鶴屋百貨店6階 Tel:096-356-2111(代表) 主催:(社)日本絹業協会 Tel:03-3214-1691 Fax:03-3214-1700
「きもの」の祭典 きものKYOTOコレクション ・きものKYOTOナイトin丸の内	京都市では、和装産業活性化の一環として、京都のきもの素晴らしさを首都圏において発信するとともに、新たなきもの着用の機会を提案する下記のイベントを開催します。 1 きものKYOTOコレクションin丸の内(無料) 会場:丸ビル1階「マルキューブ」 内容:西陣織や京友禅のほか、宝島社「GLOW」コラボレーション着物の展示、茶道家深澤里奈さんのトークショー 2 きものKYOTOナイトin丸の内(参加費5,000円) 会場:丸ビル35階「サンス・エ・サヴール(仏料理)」 内容:京都の食材を使用したこのイベントだけのオリジナルフレンチディナー、茶道家深澤里奈さんのトークショー 参加条件:きもの着用のごこと 定員:100名	1きものコレクションin丸の内 平成23年 2月23日(水) 午前10時～午後10時 2きものナイトin丸の内 平成23年 2月23日(水) 午後7時30分から *ローソンチケットでチケット販売	主催:京都市／京都市和装産業 活性化推進協議会 協力:西陣織工業組合／京友禅協同 組合連合会／京都織物卸協同組合 特別協力:丹後ファッションウィーク開 催委員会 問合せ先:京都市商工部伝統産業課 Tel:075-222-3337

登録コーディネーター一覧

蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業コーディネーター登録者一覧（五十音順）

平成 22 年 10 月 4 日現在

登録番号	氏 名	所属・役職名
21-026	青 山 繁	株式会社二葉きもの営業部
21-021	秋 山 徹	
20-067	秋 山 眞 和	(株)あきやま綾の手紬染織工房主宰
22-011	浅 見 義 之	秩父織物協同組合（浅見織物工場）
20-013	阿 部 末 男	岩手県養蚕活性化推進協議会代表
20-036	阿 部 雅 一	株式会社マルシバ
21-003	天 野 三 吉	富士吉田織物協同組合開発部長
21-015	新 井 園 恵	新啓織物
21-014	新 井 教 央	新啓織物
21-011	碓 山 俊 光	西陣織工業組合専務理事
20-006	石 田 克 己	二十一世紀の絹を考える会世話人代表
22-002	井 上 英 夫	有限会社いのうえ代表取締役
19-014	今 村 幸 文	碓氷製糸農業協同組合製造部長
21-029	内 海 康 治	有限会社内海呉服店きもの千歳屋代表取締役
20-041	梅 田 幸 平	有限会社幸和代表取締役
21-023	江 口 純一郎	日本刺繍紅会養蚕・繰糸担当
19-010	遠 田 寿 之	松岡株式会社監査役
20-048	大 野 章	勝山織物株式会社
20-063	大 竹 史 朗	有限会社大竹商店代表取締役
22-014	岡 喜久男	群馬県農政部蚕糸園芸課蚕糸係長
21-001	岡 田 心 平	株式会社あきやま常務取締役
22-001	奥 澤 武 治	奥順株式会社専務取締役
21-007	小 倉 進 吾	株式会社小倉商店
20-044	小此木 エツ子	多摩シルクライフ 21 研究会代表
22-021	小 篠 敏 之	株式会社鳥羽屋代表取締役
22-013	狩 野 寿 作	群馬県農政部蚕糸園芸課絹主監
20-037	角 谷 美和子	ハクビ京都きもの学院学院長
21-004	柏 木 幹 弘	有限会社カシワギ代表取締役社長
20-049	勝 山 健 史	勝山織物株式会社専務取締役
20-030	金 井 史 郎	東北撚糸株式会社代表取締役社長
22-008	河 田 明 芳	りょうぜん天蚕の会
20-043	河 田 芳 宏	河芳織物有限会社代表取締役
20-020	北 川 幸	株式会社伊と幸取締役社長室長
20-032	北 丸 豊	豊栄繊維株式会社代表取締役社長
19-019	木 下 幸太郎	株式会社マルシバ代表取締役社長
22-016	草 間 幸 男	株式会社高原社蚕種製造課長
19-013	小坂橋 広 行	碓氷製糸農業協同組合参事
20-061	小 口 和 興	株式会社帛撰代表取締役
21-002	小 林 嘉 朗	有限会社コバヤシ代表取締役
20-012	昆 野 和 夫	前いわい東農業協同組合養蚕農家指導担当
20-045	境 京 子	多摩シルクライフ 21 研究会
21-025	酒 井 進	有限会社酒井代表取締役
20-074	佐々木 祥 一	株式会社川島織物セルコン

（注） 標記名簿は公表を了承された方のみ掲載しております。

登録番号	氏 名	所属・役職名
20-001	笹 口 晴 美	有限会社ミラノリブ代表取締役
19-012	佐 藤 信 行	松岡株式会社常務取締役
20-004	佐 藤 幸 香	「香染」工房主宰
21-016	澤 村 浩 正	多賀町商工会主幹
19-011	渋谷 健 治	松岡株式会社シルク事業部課長
20-040	清 水 武 彦	(有) シンセイ (信州繭ブランド織物振興会会長)
22-019	下 村 輝	下村ねん糸
22-003	下 田 実	前新岩手農業協同組合
22-004	鈴 木 政 利	西川産業株式会社商品第一部ふとん2課課長
21-030	関 根 實	有限会社関根商店代表取締役
19-017	高 橋 耕 一	株式会社宮坂製糸所専務取締役
22-015	高 橋 尚 義	京丹後市企画総務部企画政策課課長補佐
20-075	高 橋 弘 直	大門屋店主
20-071	竹 下 和 利	有限会社寿光織本舗取締役社長
20-076	田 中 隆	田中種株式会社代表取締役
20-065	田 中 裕 司	株式会社布四季庵ヨネオリ代表取締役
20-014	俵 武 司	株式会社千總友仙工場代表取締役
21-010	知 識 勝 博	元宮崎県中部農林振興局営農相談員
20-005	土 井 芳 文	絹小沢株式会社業務推進役
21-008	道 明 三保子	文化女子大学文化ファッション研究機構客員研究員
20-077	堂 本 正	田中種株式会社営業部長
21-012	富 田 篤	株式会社富田染工芸代表取締役
22-018	富 田 克 衛	富田蚕種製造所代表
20-053	内 藤 吉 雄	元艶金興業株式会社
20-058	永 岩 則 子	長崎絹業探究所所長
20-060	中 尾 浩 祥	株式会社丸万中尾取締役
21-006	中 澤 豊	株式会社山桜代表取締役社長
21-027	長 島 誠	長島繊維株式会社
20-057	中 野 豊	長崎絹業探究所製作担当
22-022	西 収 郎	奄美群島地域産業振興基金協会事務局次長
20-016	西 尾 仁 志	有限会社西尾呉服店代表取締役
21-022	似 内 久 俊	
19-015	萩 原 和 憲	碓氷製糸農業協同組合総務主任
22-020	橋 本 英 宗	丸三ハシモト株式会社専務取締役
22-009	橋 本 正 行	秩父織物協同組合理事長
19-018	服 部 芳 和	有限会社織道楽塩野屋代表
22-005	濱 田 俊 哉	西川産業株式会社商品第一部ふとん2課
20-038	原 田 晶 三	アンファンテリブル代表
20-008	兵 頭 眞 通	愛媛蚕種株式会社代表取締役
20-007	深 田 祥 二	株式会社深田商店専務取締役
22-006	福 田 喜 重	株式会社福田喜代表取締役
20-039	福 田 隆	株式会社龍工房代表取締役

登録番号	氏 名	所属・役職名
20-050	福 地 圭 一	丸八生糸株式会社
19-023	福 永 吉 穂	江一株式会社原糸事業部長
20-046	藤 井 浩 一	藤井絞株式会社取締役社長
20-069	藤 井 美 登 利	川越むかし工房代表
20-051	舞 鶴 一 雄	株式会社西陣まいづる代表取締役社長
21-013	眞 浦 正 徳	山梨県中小企業団体中央会応援コーディネーター
21-019	前 田 市 郎	株式会社前田源商店取締役
20-010	前 田 進	有限会社スリーエスプランニング代表取締役
20-047	松 井 慎一郎	加賀グンゼ株式会社代表取締役
20-028	松 澤 清 典	松澤製糸所
20-033	松 本 信 孝	有限会社ハック代表取締役
22-012	南 祐 和	株式会社夢おりの郷取締役社長
20-022	宮 忠 光	株式会社伊と幸取締役副部長
19-016	宮 坂 照 彦	株式会社宮坂製糸所代表取締役
22-017	宮 本 奉 三	上田蚕種株式会社取締役蚕種課長
20-021	本 橋 伸 夫	株式会社伊と幸取締役営業本部長
22-007	柳 沼 泰 衛	りょうぜん天蚕の会会長
20-078	藪 垣 茂 仁	田中種株式会社仕入担当
20-068	山 口 治 之	丹波生糸株式会社代表取締役
21-018	山 崎 泰 洋	山崎織物株式会社代表取締役
22-010	横 山 敬 司	秩父織物協同組合（秩父植物染織工房株式会社）
20-073	渡 邊 健 次	渡文株式会社代表取締役専務

純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧

純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧

平成 22 年 12 月 16 日現在

表示者登録番号	企 業 名	主な絹製品名
* 1	株式会社千總	後染反物（訪問着・付下・色無地、振袖）、胴裏絹
2	株式会社織匠田歌	先染反物、先染帯
* 3	有限会社ミラノリブ	洋装品（婦人服（トップス、ボトム）、ソックス、ショール、ストール、スカーフ、ネクタイ、ニットタイ、ベスト）
4	株式会社丸上	後染反物（色無地、小紋、付下、黒紋付）
5	株式会社坂本屋	後染反物（色無地）、胴裏絹（灰汁浸け加工）
6	有限会社平原	後染反物（色無地、黒紋付）
7	株式会社信盛堂	後染反物（色無地、黒紋付）
8	株式会社きものアイ	後染反物（色無地）
9	株式会社上庵	後染反物（色無地、黒紋付）
10	有限会社 樹	後染反物（色無地、黒紋付）
* 11	株式会社銀座もとじ	白生地、後染反物、大島紬、先染反物（大島紬、結城紬）、染織作家製品、八掛、御召、帯地、帯締、羽織紐
12	河瀬満織物株式会社	先染帯
13	有限会社織匠小平	先染帯
* 14	門倉メリヤス株式会社	洋装品（紳士靴下、ジャケット、セーター、カーディガン、パンツ、スカート、帽子）
15	株式会社結華	後染反物（色無地、黒紋付）
16	有限会社絹回廊	後染反物（色無地）
17	有限会社琴路屋	後染反物（色無地、黒紋付）
18	有限会社大善屋呉服店	後染反物（色無地、黒紋付）
19	丸善本店	後染反物（色無地、黒紋付）
20	呉服のささき	後染反物（色無地、黒紋付）
* 21	日本蚕糸絹業開発協同組合	胴裏絹（ぐんま羽二重、ぐんまレピア、ぐんま 200（灰汁浸加工、トルマリン加工）五ツ星（ぐんま 200、よろこび、世紀 21））、長襦袢、白生地（世紀 21）、八掛、比翼地、後染反物（作家もの、黒紋付）、うぶ着、襦紗
22	宮階織物株式会社	先染反物、後染反物
23	21 世紀の絹を考える会	帯（草木染袋帯、唐織袋帯、先染袋帯）、後染反物（色無地、訪問着）
* 24	碓氷製糸農業協同組合	白生地、マフラー
* 25	丸幸織物有限会社	白生地
26	織匠万勝	帯地、先染着尺、後染着尺
* 27	有限会社織道楽塩野屋	洋装品（マフラー、シャツ）ニット（ウォーマー・腹巻、手袋・靴下）
28	株式会社丸万中尾	後染反物（江戸小紋、色無地、変一越、紋意匠、友禅）、帯
29	株式会社むらかね	後染反物（色無地、黒紋付）
30	株式会社高島屋	後染反物（振袖、七五三着物）、長襦袢
31	株式会社さが美	後染反物（黒紋付（冬用・夏用）、色無地）
32	有限会社まるけい	後染反物（色無地、黒紋付）
33	有限会社特選呉服専門店後藤	後染反物（色無地、黒紋付）
34	株式会社小いけ	後染反物（色無地、黒紋付）
35	株式会社伊と幸	後染反物（色無地）、白生地（色無地、帯地、着尺）、胴裏絹
36	株式会社四季のきもの おおにし	後染反物（色無地、黒紋付）
37	株式会社和幸	後染反物（色無地、黒紋付）
38	株式会社栞屋高尾	帯（袋帯）
39	株式会社つるや	後染反物（色無地、黒紋付）
40	株式会社越後屋	後染反物（色無地、黒紋付）
41	株式会社小倉商店	先染反物（結城紬）、帯（結城紬）、白生地（結城紬）
42	染織家 柳 崇	先染反物、帯
43	染織家 児玉 京子	先染反物
44	草木染工房山村	先染反物、帯、ストール、
45	手織り よおん	先染反物、帯

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
46	祝嶺染織研究所	先染反物、帯
47	株式会社龍工房	組紐
48	からん工房	先染反物（紋組）、先染反物（緋）、帯
49	たわた工房	先染反物、帯
50	山音株式会社	後染反物（変三越、駒組）
51	やまと株式会社	後染反物
52	株式会社御菌織物	先染反物、帯
53	桜井株式会社	先染帯
54	有栖川織物有限会社	帯
55	太田和株式会社	先染反物（結城紬）、帯（結城紬）
56	株式会社岩田	帯
57	有限会社神原呉服店	後染反物（色無地、黒紋付）
58	浅山織物株式会社	帯
59	株式会社やまと	帯
* 60	田中種株式会社	後染反物（小紋）
61	株式会社京扇	後染反物（色無地）、胴裏絹（パールトーン加工）
62	株式会社なごみや	後染反物（色無地、黒紋付）
63	丸池藤井株式会社	後染反物（色無地）、八掛
64	久保商事株式会社	和装小物（帯揚げ）、和装小物（半衿）
65	加賀グンゼ株式会社	胴裏地
66	千切屋株式会社	後染反物（訪問着、付下）、帯
67	荒川株式会社	帯メ、帯揚げ
68	第一衣料株式会社	後染反物（色無地）
69	株式会社紅輪	後染反物（色無地）
* 70	装いの道株式会社	胴裏絹（トルマリン加工、灰汁浸け加工、ぐんま 200、ぐんまレピア、新小石丸）
* 71	株式会社高橋屋	胴裏絹（灰汁浸け加工）
* 72	おお又株式会社	胴裏絹（灰汁浸け加工）
* 73	株式会社天野屋呉服店	胴裏絹ぐんま 200（灰汁浸け加工）、白生地
* 74	株式会社きもの潮見	胴裏絹（パールトーン加工）
* 75	株式会社とみひろ	胴裏絹ぐんま 200（酵素精練）
* 76	株式会社細安	胴裏絹ぐんま 200（酵素精練）
* 77	京和きもの株式会社	胴裏絹ぐんま 200（酵素精練）
* 78	株式会社まるため	胴裏絹（トルマリン加工、パーリー加工）
* 79	株式会社小川屋	胴裏絹ぐんま 200（トルマリン加工、灰汁浸け加工）
* 80	株式会社エムラ	胴裏絹（酵素精練）
* 81	株式会社荒井呉服店	胴裏絹（酵素精練）
* 82	株式会社牛島屋	胴裏絹（酵素精練）
* 83	株式会社谷呉服店	胴裏絹（酵素精練）
* 84	株式会社登美屋	胴裏絹ぐんまレピア（パールトーン加工）
* 85	株式会社川平屋	胴裏絹（パールトーン加工）
* 86	丸専第一衣料株式会社（丸専きもの）	胴裏絹（パールトーン加工）
* 87	株式会社大丸松坂屋百貨店	胴裏絹、比翼（振袖用）、長襦袢
* 88	西陣織工業組合	洋装品（マフラー）
* 89	株式会社あきやま	先染反物、洋装品（ショール、マフラー）
90	藤井絞株式会社	後染反物（色無地）
91	株式会社川まん	白生地
92	有限会社結城屋	白生地

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
93	株式会社ウメショウ	白生地
94	株式会社大徳	後染反物（色無地）
95	有限会社カシワギ	寝具寝装品（冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット）、洋装品（スカーフ、ストール、ネクタイ、シャツ、スーツ）
96	株式会社北尾織物匠	袋帯、名古屋帯
* 97	株式会社 平田組紐	帯締、帯締（金銀糸 5% 以上）、羽織紐（男物、女物）
98	株式会社 菱健	後染反物（色無地）
99	西野株式会社	帯締、帯締（金銀糸 5% 以上）
100	京商株式会社	後染反物（色無地、黒紋付）
101	株式会社猪井	後染反物
102	株式会社たちばな	後染反物
103	株式会社丸富美	後染反物（色無地）
104	株式会社絹もの屋まつなが	後染反物（色無地）
105	株式会社山正山崎	後染反物（色無地）
106	有限会社こくぶん呉服店	後染反物（色無地）
107	株式会社染織近藤	後染反物（色無地）
108	株式会社宮川呉服店	後染反物（色無地）
109	株式会社和らいう	後染反物（色無地）
110	有限会社きものいなもと	後染反物（色無地）
111	株式会社世きね	後染反物（色無地）
112	株式会社西陣まいづる	袋帯（金銀糸 5% 以上）
113	奥順株式会社	先染反物（結城紬）、帯（結城紬）
114	りょうぜん天蚕の会	天蚕紬系ショール、天蚕ハイブリットショール
115	有限会社金屋	後染反物（色無地）
116	株式会社鶴屋百貨店	胴裏絹
* 117	黄八丈めゆ工房	先染反物（黄八丈）
118	京屋呉服店	後染反物（色無地）
119	合資会社車屋呉服店	後染反物（色無地）
120	宮崎株式会社	結城紬
* 121	有限会社内海呉服店きもの千歳屋	白生地
* 122	長島繊維株式会社	後染反物（色無地）
123	株式会社しょう美	後染反物（色無地）
124	（合）治田呉服店	後染反物（色無地）
* 125	株式会社丸十	後染反物（小紋）
* 126	株式会社竹田嘉兵衛商店	胴裏絹
* 127	有限会社樋口屋京染店	白生地（紋意匠）
* 128	大門屋	白生地（着尺（牛首紬））、帯地（牛首紬）
129	株式会社加藤萬	帯揚、半衿
* 130	株式会社しゃらく	後染反物（小紋）
* 131	合資会社山中商店	後染反物（小紋）
* 132	きもの処 あだち	後染反物（小紋）
* 133	西川産業株式会社	掛布団
* 134	繭工房 華美	寝衣（長肌着、短肌着）
* 135	株式会社青山みとも	胴裏絹（酵素精練）
* 136	株式会社和想	後染反物（小紋）
* 137	株式会社高島屋呉服店	後染反物（小紋）

（注）許諾番号の前の*印は、提携システムに移行している者又はそのグループが生産する絹製品を販売する者です。

蚕糸関係博物館一覧

名 称	〒	住 所	電 話
蚕糸・織物関連の展示を目的としている施設			
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-22-1325
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地 (敷島公園/バラ園内)	027-231-9875
織物参考館 “紫” (ゆかり)	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
きもの芸術館 ((財) 日本きもの文化協会)	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F ~ 8F	03-3400-0286
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2-24-16	042-388-7163
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3-22-7	03-3299-2387
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鍵水 989-2	0426-76-4064
シルク博物館	231-0023	神奈川県横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
絹系紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ (株) 内	0268-41-1800
岡谷蚕糸博物館	394-0028	長野県岡谷市本町 4 丁目 1 番 39 号	0266-22-5854
浦野染織資料博物館	393-0066	長野県諏訪郡下諏訪町曙町 5350	0266-27-8503
常田館 (絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1-10-3 笠原工業 (株) 内	0268-22-1230
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
キナーレきもの歴史館	948-0003	新潟県十日町市本町 6 十日町ステージ越後妻有交流館内	0257-52-0117
まゆの資料館	410-3612	静岡県賀茂郡松崎町宮内 263-2	0558-42-3912
石川繊維資料館	400-0886	愛知県豊橋市東小田原町 109-1	0532-52-5265
川島織物セルコン、織物文化館	601-1123	京都府京都市左京区静市市原町 265	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都府京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都府京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ (株) 周辺敷地内	0773-43-1050
上垣守国養蚕記念館	667-0311	兵庫県養父市大屋町大家市場 117	0796-69-1580
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町甲 1577 番地	0889-26-1002
展示の一部に蚕糸・織物関連がある施設			
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204-1	059-293-0010
佐野市郷土博物館	327-0003	栃木県佐野市大橋町 2047	0283-22-5111
大間々町歴史民族館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619-1	055-269-3399
日本司法博物館 (松本歴史の里)	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196-1	0263-47-4515
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564-1	0268-42-2158
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299-1	0574-28-1110
その他関連施設			
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
夕鶴の里資料館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025-2	0238-47-5800
松ヶ丘開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ丘 29	0235-62-3985
結城紬関連施設 (結城市伝統工芸館)	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018-1	0296-32-7949
たくみの里木織の家「椽」(つるばみ)	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-1308
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3-26-2	0424-81-7656
相模田名民家資料館	229-1124	神奈川県相模原市田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	042-761-7118
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618-4	0263-83-3835
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号 (上田城跡公園内)	0268-22-1274
塩沢つむぎ記念館 (織の文化館)	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227-1	0257-82-4888
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25	0258-83-4800
白山工房 (織りの資料館)	920-2501	石川県白山市白峰村 17	076-259-2859
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野 514	0749-37-4131
織元田勇 (田勇機業株式会社)	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112	0772-72-0307
まゆ村	616-8384	京都府京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
シルク染め織り館	699-5216	島根県鹿足郡津和野町池村 1997-4	0856-74-0784

蚕糸関係団体ホームページ一覧

平成 22 年 4 月 22 日現在

【行 政】

農林水産省
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>
<http://www.meti.go.jp/>

【蚕糸絹業関係団体】

(財) 大日本蚕糸会
(社) 日本絹業協会 (シヤパ[®]シルクセンター)
(社) 日本生糸問屋協会
(財) 日本真綿協会
丹後織物工業組合
西陣織工業組合
T A F S (東京織物卸商業組合)
K O M S (京都織物卸商業組合)
京都和装産業振興財団
(財) 伝統的工芸品産業振興協会

<http://www.silk.or.jp>
<http://www.silk-center.or.jp>
<http://homepage1.nifty.com/nittonkyo/>
<http://www.mawata.or.jp/>
<http://www.tanko.or.jp/>
<http://www.nishijin.or.jp/>
<http://www.tafts.or.jp/>
<http://www.fashion-kyoto.or.jp/>
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>
<http://www.kougei.or.jp/>

【大学・試験研究機関】

(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室

<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>

(国) 東京農工大学農学部生物生産学科

<http://www.tuat.ac.jp/~aaseisan/>

(国) 東京農工大学工学部生命工学科

<http://www.tuat.ac.jp/~seimei/>

(国) 京都工芸繊維大学工学部応用生物学課程

<http://www.bio.kit.ac.jp/>

(国) 京都工芸繊維大学

<http://www.kit.ac.jp/>

(国) 信州大学繊維学部

<http://www.tex.shinshu-u.ac.jp/>

(国) 名古屋大学農学部

<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>

(国) 北海道大学応用分子生物学講座

http://www.hokudai.ac.jp/agricu/organization/bunya/l_in_bunshi_seibuts.html

(国) 九州大学大学院遺伝育種学講座蚕学研究室

<http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/agpm/sangaku/>

(国) 九州大学大学院遺伝子資源工学専攻

http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/grt/igr/new_lab/index.html

(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース

<http://www.news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/departement/bio/biofunc/index.html>

(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科

<http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>

(独) 農業生物資源研究所

<http://www.nias.affrc.go.jp>

(財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所

http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html

(財) 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所

http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html

群馬県蚕糸技術センター (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>蚕糸技術センター)

http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=50545

群馬県繊維工業試験場 (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>繊維工業試験場)

http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=59241

京都府織物・機械金属振興センター

<http://www.silk.pref.kyoto.jp/index-sub.html>

京都市産業技術研究所繊維技術センター

<http://www.ktri.city.kyoto.jp/mainpage/sikenjo.html>

【学 会】

日本シルク学会
日本蚕糸学会

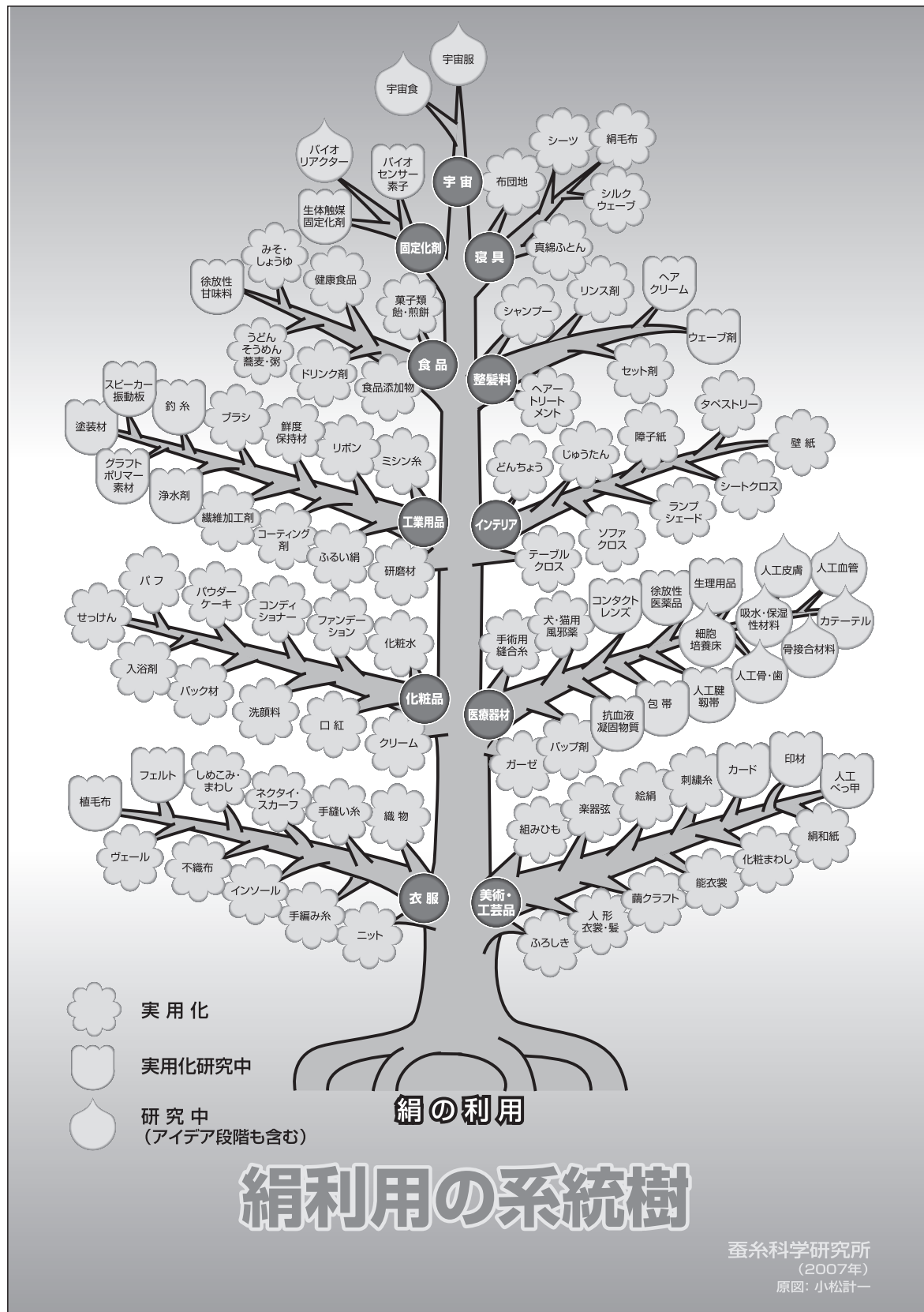
<http://www.silk.or.jp/ssstj/>
<http://www.soc.nii.ac.jp/jsss2/>

【博物館】

(財) シルクセンター国際貿易観光会館 シルク博物館
群馬県立日本絹の里
東京農工大学科学博物館

<http://www.silkmuseum.or.jp/>
<http://www.nippon-kinunosato.or.jp/>
<http://www.tuat.ac.jp/~museum/index.html>

絹にはこんなにいろいろな使い道があります。



統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	63
(2) 養蚕業の概要	64
(3) 養蚕農家数の推移	65
(4) 収繭量の推移	66
(5) 都府県別養蚕農家数、桑使用面積、収繭量 (2008 年)	67
(6) 蚕品種別蚕種製造数量 (2008 年)	68
(7) 平成 21 年度蚕期別、都府県別繭生産量	69
(8) 生糸需給状況及び絹糸、絹織物の輸出入状況	70
(9) 生糸の織度別生産数量の推移	71
(10) 国内生糸価格実態	72
(11) 絹需給の推移 (生糸量換算試算)	74
(12) 品目別・二次製品輸入数量 (生糸量換算試算)	75
(13) 製糸工場の原料繭需給	76
(14) 製糸工場の操業状況	77
(15) 生糸在庫数量の内訳	78
(16) 蚕糸関係品目別輸入状況	79
(17) 生糸原産国別輸入状況	80
(18) 絹糸原産国別輸入状況	81
(19) 織物生産状況	82
(20) 丹後、長浜、西陣の絹織物生産状況	83
(21) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況	84

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	85
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	86
(3) 中国省別家蚕繭生産数量、生糸生産数量、製糸工場数	87
(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移	88
(5) 中国のシルク類 (生糸、絹糸、絹織物) の輸出状況	89
(6) ブラジルの繭、生糸の生産数量の推移	90
(7) ブラジルの繭、生糸・絹撚糸、絹織物の生産、輸入及び輸出状況	91

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item 年次 (暦年) Calendar year	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台 数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
平成 3 年								
1991	44,010	20,821	473	91.4	50	75	161.7	76,089
4 年								
1992	34,880	15,553	446	84.1	49	75	148.8	72,901
5 年								
1993	27,180	11,212	412	70.3	45	72	138.1	66,801
6 年								
1994	19,040	7,724	406	64.5	39	69	102.7	61,653
7 年								
1995	13,640	5,350	392	53.4	29	63	94.2	54,131
8 年								
1996	7,890	3,021	383	42.7	26	58	84.7	53,815
9 年								
1997	6,310	2,516	399	31.5	18	67	81.6	52,031
10 年								
1998	5,070	1,980	390	18.4	13	76	74.5	38,673
11 年								
1999	4,030	1,496	371	10.8	8	73	67.4	33,425
12 年								
2000	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
13 年								
2001	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
14 年								
2002	2,360	880	373	6.5	17	68	51.2	26,826
15 年								
2003	2,070	780	377	4.8	14	64	48.7	23,935
16 年								
2004	1,850	683	369	4.4	13	62	45.6	21,895
17 年								
2005	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
18 年								
2006	1,345	505	375	2.0	9	82	41.6	18,507
19 年								
2007	1,169	433	370	1.8	8	83	40.0	15,466
20 年								
2008	1,021	382	374	1.6	6	80	38.1	14,043
21 年								
2009	915	327	357	1.2	6	60	34.9	11,472
前年対比 (%)	89.6	85.6	95.5	75.0	100.0	75.0	91.6	81.7

資料 ・ 養蚕業及び製糸業は農林水産省生産局調査によるものである。

ただし、平成 13 年以前の養蚕業は農林水産省統計部調査であり、平成 21 年以降の養蚕業は全国農業協同組合連合会調査である。

・ 絹業は経済産業省調査によるものである。平成 18 年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。

(注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、平成 14 年以降はすべての製糸工場のものである。

Source: The Regional Products and Industrial Crops Division, Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling)
The Statistic Department, MAFF (Sericultural industry, before 2001)
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (Sericultural industry, after 2009)
The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)

(2) 養蚕業の概要

Outline of Sericultural Industry

項 目 Item	養蚕農家数	桑栽培面積	桑使用面積	蚕種 掃立卵量	1箱当り 収繭量	収繭量	1戸当り 栽培面積	1戸当り 掃立卵量	1戸当り 収繭量
年 次 Year	Farm house- holds raising silk-worm	Growing area of mulberry	Harvested area of mulberry	Silk-worm eggs used	Cocoon production per box of silk-worm eggs used	Cocoon production	Growing area of mulberry per farm household raising silk-worm	Box of silkworm eggs used per farm household raising silk-worm	Cocoon production per farm household raising silk-worm
	戸 number	100ha	100ha	1000箱 1,000cases	kg	t	a	箱 box	kg
1993	27,200	425	239	319	35	11,212	156	12	412
1994	19,000	339	173	228	34	7,724	178	12	406
1995	13,600	263	117	155	35	5,350	193	11	392
1996	7,890	193	66	87	35	3,021	244	11	382
1997	6,310	138	54	74	34	2,516	219	12	399
1998	5,070	103	44	60	33	1,980	203	12	390
1999	4,030	74	33	45	33	1,496	184	11	371
2000	3,280	59	27	37	33	1,244	179	11	379
2001	2,730	48	23	31	34	1,031	174	11	378
2002	2,360	43	22	26	34	880	182	11	373
2003	2,070	38	19	23	33	780	185	11	374
2004	1,850	34	18	21	38	683	186	11	369
2005	1,591	30	16	18	34	626	188	12	396
2006	1,345	27	14	15	34	505	198	11	375
2007	1,169	24	12	13	35	433	202	11	371
2008	1,021	20	10	11	36	382	197	10	374
対前年比 2008/07 (%)	87.3	83.3	83.3	84.6	102.9	88.2	97.5	90.9	100.8

資 料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、農林水産省生産局調査（2002年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001) .
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2002～) .

(3) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit：number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
1993		27,180	24,160	17,450	20,740
1994		19,040	16,790	13,190	14,790
1995		13,640	12,450	9,560	9,580
1996		7,890	6,980	5,000	6,290
1997		6,310	5,650	4,420	5,120
1998		5,070	4,550	3,750	4,120
1999		4,030	3,600	2,710	3,280
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
2008		1,021	929	613	857
対前年比 2008/07 (%)		87.3	88.3	84.4	86.7

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、
農林水産省生産局調査（2005年～）。

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～)。

(4) 収繭量の推移

Cocoon Production

項 目 Item 年 次 Year	年 計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm				桑使用面積 10a当たり 収繭量（年間） Cocoon production per farm harvested area of mulberry
	年 間	春 蚕	初秋蚕	晩秋蚕	年 間	春 蚕	初秋蚕	晩秋蚕	
	Annual total	Spring silk-worm	early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm	Annual total	Spring silk-worm	early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm	
	t	t	t	t	kg	kg	kg	kg	kg/10a
1993	11,212	4,624	3,060	3,529	412	191	175	170	47
1994	7,724	3,036	2,044	2,644	406	181	155	170	46
1995	5,350	2,222	1,477	1,651	392	178	155	172	46
1996	3,021	1,184	747	1,090	382	170	149	173	46
1997	2,516	982	678	857	398	174	153	167	46
1998	1,980	769	588	623	390	169	157	151	45
1999	1,496	596	391	509	371	166	144	155	46
2000	1,244	500	320	424	379	169	148	157	47
2001	1,031	391	275	365	378	162	147	161	47
2002	880	330	231	320	373	166	134	167	40
2003	775	313	210	253	374	167	140	144	40
2004	675	256	176	243	369	158	128	157	38
2005	626	243	165	218	396	171	156	162	40
2006	505	209	122	173	375	172	143	157	36
2007	433	175	110	148	371	166	152	150	37
2008	382	147	96	139	374	158	157	162	39
対前年比 2008/07 (%)	88.2	84.0	87.3	93.9	100.8	95.2	103.3	108.0	105.4
構成比 (%)	100.0	38.5	25.1	36.4					

資 料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、
農林水産省生産局調査（2005年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～) .

(5) 都府県別養蚕農家数・桑使用面積・収繭量（2008年）

Farm households raising silk-worm, Harvested area of mulberry and Cocoon production by prefectures in 2008

項目 Item 県別 Each Prefecture	年 計			春 繭		初秋繭		晩秋繭	
	Annual total			spring silk-worm		Early autumn silk-worm		late autumn silk-worm	
	養 蚕 農家数	桑使用 面 積	収繭量	養 蚕 農家数	収繭量	養 蚕 農家数	収繭量	養 蚕 農家数	収繭量
	Farm households raising silk-worm	Harvested area of mulberry	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production
	number	ha	t	number	t	number	t	number	t
岩 手 Iwate	29	30	11.0	22	2.8	21	4.0	26	4.2
宮 城 Miyagi	39	37	13.0	28	4.6	28	3.8	32	4.5
山 形 Yamagata	15	24	5.6	12	2.2	11	1.3	13	2.2
福 島 Fukushima	104	116	51.3	99	18.1	33	14.2	89	19.1
茨 城 Ibaragi	39	30	14.5	39	5.8	32	3.8	33	5.0
栃 木 Tochigi	50	86	39.4	48	14.8	35	7.4	46	17.2
群 馬 Gunma	417	471	161.2	383	63.2	249	40.9	370	57.2
埼 玉 Saitama	97	75	32.8	93	12.1	74	8.7	83	12.0
千 葉 Chiba	13	6	3.9	12	1.4	6	0.7	10	1.8
神奈川 Kanagawa	12	..	2.3	11	0.9	9	0.6	12	0.9
山 梨 Yamanashi	34	26	11.7	30	5.6	15	2.3	22	3.8
長 野 Nagano	46	32	13.2	42	5.4	37	3.4	35	4.4
岐 阜 Gifu	28	12	4.4	24	2.1	13	0.5	22	1.7
徳 島 Tokushima	23	10	4.6	22	2.4	13	1.0	16	1.2
愛 媛 Ehime	22	19	7.6	16	2.8	21	2.5	18	2.4
熊 本 Kumamoto	11	4	1.3	11	0.9	6	0.2	7	0.2
その他 Others	42	14	4.0	37	1.6	10	0.7	23	1.3
全国計 Total	1,021	992	381.8	929	146.7	613	96.0	857	139.1

資 料：農林水産省生産局調査。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(6) 蚕品種別蚕種製造数量 (2008年)

Production by Sort of Silk-worm Eggs

	2007年夏秋蚕用 for summer & autumn rearing		2008春蚕用 for spring rearing		2008夏秋蚕用 for summer & autumn rearing		合 計 Total	
	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate
錦 秋 × 鐘 和	2,600	73.5			2,380	67.9	4,980	33.5
春 嶺 1 号 × 鐘 月 1 号			2,390	30.6	360	10.3	2,750	18.5
ぐ ん ま × 200	302	8.5	1,575	20.2	210	6.0	2,087	14.1
錦 秋 1 号 × 鐘 和 1 号			1,910	24.5			1,910	24.5
春 嶺 × 鐘 月			1,100	14.1			1,100	14.1
朝 ・ 日 × つくば・ね			100	1.3	500	14.3	600	4.0
新 小 石 丸	119	3.4	243	3.1			362	2.4
改 良 あ け ぼ の	180	5.1	80	1.0	50	1.4	310	2.1
世 ・ 紀 × 二 ・ 一	108	3.1	99	1.3			207	1.4
上 州 絹 星	101	2.9	101	1.3			202	1.4
ぐ ん ま 黄 金	14	0.4	125	1.6	3	0.1	142	1.0
芙 ・ 蓉 × つくば・ね	100	2.8					100	0.7
蚕 太			41	0.5			41	0.5
新 青 白	11	0.3	23	0.3			34	0.3
小 石 丸			24	0.3			24	0.3
合 計 Total	3,535	23.8	7,811	52.6	3,503	23.6	14,849	100.0

資 料 : 農林水産省生産局調査。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(7) 平成21年度蚕期別、都府県別繭生産量

(全農集計に財団法人大日本蚕糸会蚕糸・絹業提携支援センター集計分を加えた数値)

(単位: kg、%) 平成21年12月10日現在

都府県	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晩 秋 蚕 期			年 間		
	20年	21年	前年対比	20年	21年	前年対比	20年	21年	前年対比	20年	21年	前年対比
青森県	226.3	192.1	84.9%	165.0	153.1	92.8%	138.1	151.1	109.4%	529.4	496.3	93.7%
岩手県	2,767.2	2,526.0	91.3%	4,014.2	3,305.0	82.3%	4,169.4	3,694.6	88.6%	10,950.8	9,525.6	87.0%
宮城県	4,373.5	3,299.9	75.5%	3,661.3	2,692.3	73.5%	4,306.4	3,757.0	87.2%	12,341.2	9,749.2	79.0%
秋田県	0.0	0.0	—	186.0	0.0	0.0%	285.3	0.0	0.0%	471.3	0.0	0.0%
山形県	2,188.4	2,296.3	104.9%	1,256.8	1,128.3	89.8%	2,163.4	1,807.6	83.6%	5,608.6	5,232.2	93.3%
福島県	18,099.0	15,188.1	83.9%	14,171.6	14,670.8	103.5%	19,158.9	17,676.8	92.3%	51,429.5	47,535.7	92.4%
茨城県	5,778.0	4,814.0	83.3%	3,809.0	3,541.5	93.0%	4,651.8	4,212.9	90.6%	14,238.8	12,598.4	88.5%
栃木県	14,781.6	12,984.9	87.8%	7,407.5	6,901.5	93.2%	17,169.4	15,963.0	93.0%	39,358.5	35,849.4	91.1%
群馬県	63,160.4	55,127.7	87.3%	40,895.1	34,626.8	84.7%	57,163.4	49,254.0	86.2%	161,218.9	139,008.5	86.2%
埼玉県	12,053.5	9,778.9	81.1%	8,713.2	7,000.2	80.3%	11,987.8	8,475.9	70.7%	32,754.5	25,255.0	77.1%
千葉県	1,385.6	1,347.4	97.2%	667.0	976.8	146.4%	1,814.6	1,390.9	76.7%	3,867.2	3,715.1	96.1%
東京都	588.4	539.8	91.7%	0.0	0.0	—	425.8	440.0	103.3%	1,014.2	979.8	96.6%
神奈川県	876.5	863.9	98.6%	594.3	593.0	99.8%	874.5	735.4	84.1%	2,345.3	2,192.3	93.5%
山梨県	5,574.2	4,522.1	81.1%	2,315.6	1,824.1	78.8%	3,780.3	2,807.9	74.3%	11,670.1	9,154.1	78.4%
長野県	4,834.2	2,531.4	52.4%	3,873.5	3,116.3	80.5%	5,057.6	2,932.4	58.0%	13,765.3	8,580.1	62.3%
新潟県	0.0	0.0	—	0.0	102.3	—	130.4	44.7	34.3%	130.4	147.0	112.7%
岐阜県	2,072.5	1,978.6	95.5%	537.3	391.2	72.8%	1,747.5	1,170.6	67.0%	4,357.3	3,540.4	81.3%
静岡県	408.0	0.0	0.0%	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—	408.0	0.0	0.0%
愛知県	112.9	113.7	100.7%	0.0	0.0	—	0.0	34.9	—	112.9	148.6	131.6%
兵庫県	120.0	92.0	76.7%	92.0	83.6	90.9%	90.0	83.0	92.2%	302.0	258.6	85.6%
京都府	88.5	121.0	136.7%	73.1	74.1	101.4%	84.0	64.6	76.9%	245.6	259.7	105.7%
徳島県	2,390.5	1,674.6	70.1%	1,003.8	919.6	91.6%	1,163.2	1,148.6	98.7%	4,557.5	3,742.8	82.1%
愛媛県	2,590.9	2,340.2	90.3%	2,503.1	2,741.0	109.5%	2,220.1	1,937.2	87.3%	7,314.1	7,018.4	96.0%
高知県	339.2	344.5	101.6%	0.0	0.0	—	174.6	144.4	82.7%	513.8	488.9	95.2%
熊本県	911.8	817.3	89.6%	191.9	128.3	66.9%	202.7	237.5	117.2%	1,306.4	1,183.1	90.6%
宮崎県	0.0	165.6	—	0.0	0.0	—	0.0	131.8	—	0.0	297.4	—
全国計	145,721.1	123,660.0	84.9%	96,131.3	84,969.8	88.4%	138,959.2	118,296.8	85.1%	380,811.6	326,956.6	85.9%

資料: 全国農業協同組合連合会及び(財)大日本蚕糸会

Source: National Federation of Agricultural Co-operative Associations and The Dainippon Silk Foundation

(8) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export Balance of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量	輸入数量	輸出数量	国内引渡数量	期末在庫数量	輸入数量	輸出数量	輸入数量	輸出数量
	Production (A)	Imports (B)	Exports (C)	Domestic Deliveries (D)	Ending Stocks (E)	Imports (F)	Exports (G)	Imports (H)	Exports (I)
暦 年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2003	4,791	30,827	1,510	34,166	25,897	33,044	183	12,544	7,111
2004	4,387	26,008	12,500	29,585	14,207	29,774	331	13,127	7,274
2005	2,508	22,017	4,125	26,429	8,178	32,700	609	15,999	8,252
2006	1,956	19,974	—	20,752	9,356	31,524	568	12,959	7,578
2007	1,747	12,601	—	15,624	7,879	19,439	404	11,355	7,184
2008	1,588	15,031	—	20,115	4,584	22,636	466	11,640	7,126
2009	1,161	12,085	—	13,775	4,055	16,647	388	8,996	6,269
生糸年度 Silk Year									
2003	4,517	30,411	6,635	33,333	21,754	33,261	182	13,036	7,206
2004	3,868	20,154	11,500	27,002	7,274	30,204	565	14,130	7,286
2005	2,024	26,365	—	25,737	9,926	36,113	500	16,121	8,655
2006	1,794	13,394	—	16,873	8,241	21,561	534	10,730	7,152
2007	1,762	15,564	—	20,286	5,281	22,936	433	12,255	6,087
2008	1,378	12,137	—	14,638	4,158	18,716	378	10,320	6,806
2009	1,029	12,857	—	14,383	3,661	17,481	366	8,639	6,182
2009 - 4	111	529	—	797	4,205	1,459	26	834	574
5	91	1,379	—	1,517	4,158	1,092	33	727	526
6	101	800	—	1,218	3,841	1,363	54	900	514
7	94	927	—	957	3,905	1,656	49	793	504
8	88	921	—	847	4,060	1,646	37	683	469
9	94	1,174	—	1,117	4,211	1,525	31	603	448
10	93	1,083	—	1,440	3,947	1,664	26	737	657
11	86	1,060	—	1,365	3,728	1,525	65	733	476
12	82	1,771	—	1,526	4,055	1,423	37	715	529
2010 - 1	71	1,061	—	1,239	3,948	1,683	21	781	444
2	78	722	—	930	3,818	1,435	4	563	485
3	87	1,182	—	1,437	3,650	1,051	13	600	618
4	78	612	—	1,111	3,229	1,318	9	710	557
5	77	1,532	—	1,177	3,661	1,192	20	821	511
6	77	919	—	1,115	3,542	1,325	19	745	528
7	76	645	—	1,042	3,221	1,573	54	783	551
8	61	985	—	1,063	3,204	1,303	19	873	482
9	60	1,174	—	1,181	3,257	1,235	32	750	582

資 料 : (A) (C) (D) (E) 農林水産省生産局調査。(B) 財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までの輸入は、農畜産業振興機構調査の実需者輸入分と一般者輸入分を合わせた数値。(F) (G) (H) (I) 財務省関税局調査。

備 考 : 1. 国内引渡数量 (D) = { 前月在庫数量 + (A) + (B) } - { (C) + (E) }。

2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : (A) (C) (D) (E) The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(B) The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for raw silk imports have been based on date of the Agriculture & Livestock Industries Corporation since Jan. 1996 until Mar. 2008, excluding bonded silk.

(F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Domestic deliveries (D) = { Stock at end of the previous month + (A) + (B) } - { (C) + (E) }.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(9) 生糸の織度別生産数量の推移

Raw Silk Production by Sizes

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

項 目 Item 年 月 Year & Month	生 糸					
	計	18デニール以下	21デニール	27デニール	31デニール	その他
	Total	17/19or 17/19 finer	20/22	26/28	30/32	Others
暦 年						
Calendar Year						
2003	4,791	13	343	2,865	1,038	533
2004	4,387	2	471	2,389	948	581
2005	2,508	8	337	834	799	527
2006	1,956	4	240	531	653	523
2007	1,747	5	259	495	514	474
2008	1,588	4	289	421	368	503
2009	1,152	1	243	392	251	262
生糸年度						
Silk Year						
2003	4,517	7	334	2,689	955	530
2004	3,868	4	482	1,845	918	622
2005	2,024	6	261	510	726	518
2006	1,794	4	269	480	562	475
2007	1,762	5	276	443	495	537
2008	1,378	1	291	447	280	360
2009	1,029	0	205	358	208	242
2009 - 8	88	0	11	39	17	20
9	94	0	14	36	22	22
10	93	0	24	26	24	18
11	86	0	12	25	25	24
12	73	0	20	26	11	16
2010 - 1	70	0	25	15	10	19
2	78	0	10	42	8	17
3	87	0	19	28	27	13
4	78	—	31	13	9	25
5	77	—	9	34	9	25
6	77	—	7	36	—	34
7	76	—	11	32	2	31
8	61	—	12	24	1	24
9	60	—	29	9	7	15

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会(2010.4～)。

備 考：kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3). Central Raw Silk Association (2010.4～)。

Remarks：Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(10) 国産生糸価格実態

Japanese Raw Silk Actual Condition Price

単位：円／k g
(Unit：Yen/k g)

Size	21d	27d	31d	平均 Average
平成17年	3,870	3,173	3,107	3,383
平成18年	4,617	4,267	4,080	4,321
平成19年	3,961	3,625	3,573	3,720
平成20年	4,266	3,754	3,489	3,836
平成21年	4,171	3,598	3,136	3,635
平成21年 4月	4,400	3,665	3,167	3,744
5月	4,318	3,402	3,243	3,654
6月	3,917	3,499	3,068	3,494
7月	4,106	3,562	2,914	3,527
8月	4,186	3,841	2,912	3,646
9月	4,150	3,627	2,986	3,588
10月	4,149	3,450	3,195	3,598
11月	4,461	3,547	3,145	3,718
12月	3,980	3,581	3,055	3,539
平成22年 1月	3,900	3,876	3,643	3,806
2月	4,200	3,682	3,281	3,721
3月	4,000	3,758	3,327	3,695
4月	4,026	3,750	3,100	3,625
5月	4,144	3,876	3,314	3,778
6月	4,192	3,867	3,729	3,929
7月	4,000	3,883	3,600	3,828
8月	4,256	3,893	3,814	3,988
9月	4,209	3,965	3,625	3,933

注：国産生糸価格実態は、調査対象生糸売買業者の平均取引価格である。

資料：（社）日本生糸問屋協会

Remarks：Japan raw silk actual condition price is average trade price among domestic dealers

Source：Japan Raw Silk Dealers Association

(参考) 中国生糸電子取引値段

China Raw Silk Monthly Prices of Electric Contract Traded

生糸A類(21デニール5A)

Standard Raw Silk:21d 5A

上段単位:元/kg、下段:円/kg
(Upper Sec Unit:Yuan/kg,Lower Sec Unit:Yen/kg)

	限月 Month	単位	始値 Open	安値 Low	高値 High	終値 Close
10月中	10月	元	316.80	316.80	317.48	317.48
		円	4,118	4,118	4,127	4,127
	11月	元	315.15	315.15	316.73	316.73
		円	4,097	4,097	4,117	4,117
	12月	元	315.75	315.75	316.28	316.28
		円	4,105	4,105	4,112	4,112
	1月	元	317.18	317.18	317.85	317.85
		円	4,123	4,123	4,132	4,132
	3月	元	319.58	319.58	320.25	320.25
		円	4,154	4,154	4,163	4,163
	4月	元	313.73	313.73	314.33	314.33
		円	4,078	4,078	4,086	4,086
	5月	元	311.25	311.25	312.00	312.00
		円	4,046	4,046	4,056	4,056
	6月	元	312.60	312.60	312.60	312.60
		円	4,064	4,064	4,064	4,064
	7月	元	307.65	307.65	307.95	307.95
		円	3,999	3,999	4,003	4,003
	9月	元	307.65	307.65	307.95	307.95
		円	3,999	3,999	4,003	4,003

	限月 Month	単位	始値 Open	安値 Low	高値 High	終値 Close
11月中	11月	元	321.53	321.53	322.35	322.35
		円	4,180	4,180	4,191	4,191
	12月	元	320.85	320.85	322.95	322.95
		円	4,171	4,171	4,198	4,198
	1月	元	321.90	321.9	323.78	323.78
		円	4,185	4,185	4,209	4,209
	3月	元	324.75	324.75	328.88	328.88
		円	4,222	4,222	4,275	4,275
	4月	元	318.53	318.53	321.15	321.15
		円	4,141	4,141	4,175	4,175
	5月	元	315.30	315.30	317.33	317.33
		円	4,099	4,099	4,125	4,125
	6月	元	314.63	314.63	316.20	316.20
		円	4,090	4,090	4,111	4,111
	7月	元	310.13	310.13	311.70	311.70
		円	4,032	4,032	4,052	4,052
	9月	元	310.05	310.05	311.25	311.25
		円	4,031	4,031	4,046	4,046
	11月	元	312.60	312.60	312.90	312.90
		円	4,064	4,064	4,068	4,068

円換算レートは、1元＝13.00円である。

資料: 中国繭絲綢交易市場(浙江省嘉興)

Remarks: Rate 1Yuan = 13.00Yen

Source: China Silk Exchange (Zhejiang Sheng Jia Xing)

(11) 絹需給の推移（生糸量換算試算）

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 暦年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④							期末
	期初 在庫 Opening Stocks	生 産 Produc- tion	輸 入 Import					二 次 The Second	輸 出 Export					内 需	在庫 Ending Stocks ④	
			計 Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	計 ③ Total		生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second	Domestic Demand ②-③			
1990	462	164	95	203	35	16	59	93	290	13	—	0	9	4	277	172
1991	494	172	92	230	46	29	62	93	327	11	0	0	7	4	316	167
1992	460	167	85	208	26	21	60	101	308	11	—	0	7	4	297	152
1993	483	152	71	260	25	38	65	132	345	11	—	0	7	4	334	138
1994	525	138	65	322	26	37	64	195	390	10	—	0	7	3	380	135
1995	515	135	54	326	30	31	61	204	377	11	0	1	8	2	366	138
1996	507	138	43	326	35	49	62	180	374	13	0	0	9	4	361	133
1997	401	133	32	236	34	35	43	124	270	14	0	0	11	3	256	131
1998	345	131	18	196	28	23	28	117	222	13	0	0	11	2	209	123
1999	361	123	11	227	41	28	31	127	242	13	0	0	11	2	229	119
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
2008	276	71	2	203	15	23	20	145	213	16	0	0	15	1	197	63
2009	237	63	1	173	12	16	15	130	190	16	0	0	15	1	174	47
対前年比 2009/08 (%)	86	89	50	85	80	70	75	90	89	100	—	—	100	100	88	75

資 料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報より、農林水産省生産局がとりまとめたものである。

ただし、2000年以降は農林水産省生産局の協力により、(社)日本生糸問屋協会が試算推計したものである。

Source：“Silk balance and price situation monthly”, “Trade Statistics”(arranged by Agricultural Production Bureau, MAFF)

After 2000, estimated by Japan Raw Silk Dealer's Association through collaboration with Agricultural Production Bureau, MAFF.

(12) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）

Breakdown of Silk Second Products Imports(Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit:1,000 Bales of 60kg)

項目 Item		暦年 Calendar Year	2004	2005	2006	2007	2008	2009	前年比% y/y	構成比% ratio
布 は く 製 Product made in cloth	男子用外衣類 Men's upper garments		2.6	2.7	3.7	3.9	2.5	1.8	72.0	1.4
	女子用外衣類 Women's upper garments		54.2	59.9	56.6	50.0	40.2	37.1	92.3	28.5
	うちブラウス Blouse of the inside		3.5	3.7	3.5	3.0	3.4	2.8	82.4	2.1
	男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth		6.3	5.8	5.7	2.2	1.6	1.1	68.8	0.8
	女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth		14.7	16.1	15.1	15.0	16.3	13.5	82.8	10.4
	ハンカチ Handkerchief		0.8	1.9	1.0	0.5	0.5	0.4	80.0	0.3
	ショール、スカーフ類 Shawl, scarves		3.5	3.4	2.7	3.0	2.9	2.5	86.2	1.9
	ネクタイ類 Ties		26.4	25.2	21.4	21.6	20.8	18.2	87.5	14.0
	メリヤス、クロセス編物 Knit.kurose knitting		19.3	19.9	18.5	21.2	19.8	15.9	80.3	12.2
	その他の洋装類 Other western clothes		25.0	26.7	26.3	25.4	23.7	22.0	92.8	16.9
洋装類計 Western clothes subtotal			152.8	161.6	151.0	143.0	128.3	112.4	87.6	86.4
和装類計 Japanese clothes subtotal			13.5	17.4	18.4	15.5	14.7	15.9	108.2	12.2
うち絹製の帯小物等 Silk obi accessorys of the inside			10.0	14.1	16.0	12.9	12.1	13.9	114.9	10.7
その他 Others			1.5	2.1	2.5	2.5	2.4	1.9	79.2	1.5
合 計 Total			167.8	181.0	171.9	161.0	145.4	130.2	89.5	100.0

資料：財務省「日本貿易月報」により（社）日本生糸問屋協会で作成したものである。

注：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source:The Customs Bureau, Ministry of Finance "Trade Statistics"
(arranged by Raw Silk Dealer's Association)

Note :Total may not added up due to round off.

(13) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

項 目 Item		總 計 Grand Total			
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks	
年 月 Year & Month					
曆 年 Calendar Year					
2003		1, 598	1, 612	761	
2004		1, 291	1, 500	553	
2005		866	830	589	
2006		600	646	541	
2007		548	581	505	
2008		393	518	379	
2009		319	388	319	
生糸年度 Silk Year					
2003		1, 477	1, 554	448	
2004		1, 056	1, 280	224	
2005		839	673	390	
2006		562	599	349	
2007		502	583	266	
2008		406	452	224	
2009		324	337	209	
Year	Month				
2009	— 4	△ 1	36	253	
	5	△ 1	31	222	
	6	21	33	209	
	7	88	31	266	
	8	56	30	292	
	9	27	32	287	
	10	9	31	265	
	11	103	29	340	
	12	5	26	319	
	2010	— 1	16	24	312
		2	△ 1	26	285
		3	△ 1	28	257
4		1	23	235	
5		0	26	209	
6		54	30	233	
7		14	23	224	
8		70	19	275	
9		0	22	253	

資 料：農林水産省生産局調査（～2010.3）。中央蚕糸協会及び（社）日本生糸問屋協会（2010.4～）。

備 考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（～2010.3）.

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association（2010.4～）.

Remarks：1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

2 Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding

(14) 製糸工場の操業状況
Activities of Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
			運転可能 Operable	運 転 Operating			
暦 年 Calendar Year							
2002		17	607	414	68	290	263
2003		14	444	285	64	290	228
2004		13	426	262	62	292	208
2005		10	203	126	62	269	111
2006		9	114	94	82	266	103
2007		8	112	93	83	266	100
2008		6	112	90	80	266	90
2009		6	118	71	60	259	82
2008 —	9	6	112	84	75	23	91
	10	6	112	87	78	24	92
	11	6	112	94	84	21	89
	12	6	112	90	80	22	90
2009 —	1	6	112	91	81	20	85
	2	6	118	89	75	21	88
	3	6	118	90	76	22	89
	4	6	118	86	73	22	85
	5	6	118	77	65	20	80
	6	6	118	77	65	23	83
	7	6	118	72	61	23	83
	8	6	118	75	64	20	82
	9	6	118	77	65	22	82
	10	6	118	77	65	24	82
	11	6	118	74	63	21	81
	12	6	118	71	60	21	82
2010 —	1	6	118	79	67	20	81
	2	6	118	77	65	21	80
	3	6	118	80	68	22	80
	4	7	118	79	67	20	90
	5	7	118	75	64	21	91
	6	7	118	74	63	22	84
	7	7	118	75	64	17	84
	8	7	118	76	64	18	79
	9	7	118	72	61	22	79

資 料：農林水産省生産局調査（～2010. 3）。中央糸系協会及び（社）日本生糸問屋協会（2010. 4～）。

備 考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2010. 3).
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (2010. 4～).

Remarks : 1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(15) 生糸在庫数量の内訳

Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)

(Unit: Bales of 60kg)

項 目 Item 年 月 Year & Month	總 計 Grand Total	一 般 在 庫 Stock in markets					農畜産業振興機構 Stock of Agriculture & Livestock Industries Corporation		
		計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場 売買業者 Dealers	生糸市場外 売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出 入業者 Ex and Importers	受 入 数 量 Accepts	引 渡 数 量 Deliveries	在庫数量 Ending Stocks
曆 年 Calendar Year									
2003	25,897	8,001	1,663	235	5,784	319	30,827	32,954	17,896
2004	14,207	10,082	2,055	183	7,360	484	26,008	39,779	4,125
2005	8,178	8,178	721	139	7,008	310	22,017	26,142	—
2006	9,356	9,356	446	50	8,606	254	19,974	19,974	—
2007	8,080	8,080	359	20	7,358	343	12,601	12,601	—
2008	4,584	4,584	310	15	3,536	723	1,459	1,459	—
2009	4,055	4,055	355	10	3,162	528			
生糸年度 Silk Year									
2003	21,754	9,163	1,842	560	6,516	245	30,411	37,843	12,591
2004	7,274	7,274	1,636	50	5,170	418	20,154	32,745	—
2005	9,926	9,926	373	170	8,923	460	26,365	26,365	—
2006	8,241	8,241	473	20	7,564	184	13,394	13,394	—
2007	5,281	5,281	305	15	4,241	720			
2008	4,158	4,158	376	15	3,266	515			
2009	3,661	3,661	358	0	2,795	508			
2009 — 8	4,060	4,060	362	15	3,156	527			
	9	4,211	4,211	345	15	3,264	587		
	10	3,947	3,947	339	15	3,055	538		
	11	3,728	3,728	359	10	2,926	433		
	12	4,055	4,055	355	10	3,162	528		
2010 — 1	3,948	3,948	355	10	2,995	588			
	2	3,818	3,818	351	10	2,961	496		
	3	3,650	3,650	342	0	2,863	445		
	4	3,229	3,229	355	0	2,478	396		
	5	3,661	3,661	358	0	2,795	508		
	6	3,542	3,542	343	0	2,644	555		
	7	3,221	3,221	334	0	2,441	446		
	8	3,204	3,204	340	0	2,365	499		
	9	3,257	3,257	331	0	2,422	504		

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～)。

備 考：製糸工場は器械製糸、国用製糸、繭品質評価機関及び玉糸製糸の合計である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～).

Remarks : Figures for filatures are the sum total of the closing stocks in machine-reeling filatures, reelers of raw silk for domestic use, cocoon quality appraisal stations and doupion reelers.

(16) 蚕糸関係品目別輸入状況 (平成17年～22年9月)
Breakdown of Silk-Related Products Imports (2005～Sept2010)

	単位 Unit	平成22年 (2010)		平成21年 (2009)	平成20年 (2008)	平成19年 (2007)	平成18年 (2006)	平成17年 (2005)	21年/20年 2009/08 (%)
		(9月) Sept	(累計) Accumulated Total						
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bale s of 60kg	1,174	8,832	12,085	15,242	12,858	21,148	22,915	79.3
絹糸 Silk Yarn	俵 Bale s of 60kg	1,235	12,118	16,647	22,636	19,439	31,524	32,699	73.5
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bale s of 60kg	—	—	149	317	333	430	520	47.0
繭 Cocoon	kg	—	9,300	9,800	4,000	13,750	18,565	16,300	33.7
真綿 Floss Silk	kg	—	—	—	29,071	28,660	34,176	45,186	—
ペニエ Peigne	kg	—	—	35,331	2,770	6,336	19,760	15,068	1275.5
くず繭 Waste Cocoon	kg	230	9,242	33,450	23,770	17,184	1,020	3,650	140.7
絹ノイル Silk Noil	kg	—	—	—	202,220	242,082	234,894	216,422	—
その他の絹 くず Other Silk Waste	kg	12,497	106,079	103,122	193,125	238,507	255,951	319,072	53.4
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	12,727	115,321	171,903	450,956	532,769	545,801	878,398	38.1
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other than noil	kg	31,353	315,891	335,710	526,662	608,270	756,065	847,200	63.7
絹紡糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	6,941	81,966	97,554	143,585	117,265	208,913	202,901	67.9
絹織物 Silk Fabrics	m ²	749,688	6,626,021	8,996,010	11,540,335	11,355,333	12,989,059	15,999,327	78.0

資料：財務省関税局

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance

(17) 生糸の原産国別輸入数量
Raw Silk Imports

(単位 : 60 k g 俵)
(Unit : Bales of 60kg)

国名 Country	計	中国	ブラジル	ベトナム	タイ	その他
年 月 Year & Month	Total	China	Brazil	Vietnam	Thailand	Others
暦年 Calendar Year						
2007	12.858 (149)	8.804 (124)	3.848 (25)	-	206 (-)	-
2008	15.242 (137)	11.024 (102)	4.101 (35)	-	117 (-)	-
2009	12.085 (72)	8.169 (51)	3.855 (21)	11 (-)	50 (-)	-
生糸年度 Silk Year						
2007	16.185 (93)	11.410 (69)	4.607 (24)	-	168 (-)	-
2008	12.138 (103)	8.572 (89)	3.435 (14)	11	122	-
2009	12.845 (66)	8.787 (38)	3.986 (28)	-	73	-
2008 - 9	1.135 (21)	906 (21)	212	-	17	-
10	1.280	913	347	-	20	-
11	682 (5)	512	151 (5)	-	20	-
12	684 (10)	397 (10)	272	-	14	-
2009 - 1	1.004	693	309	-	2	-
2	516	195	321	-	-	-
3	921 (7)	820 (7)	97	-	5	-
4	529 (18)	333 (10)	181 (8)	11	5	-
5	1.379 (5)	859 (5)	520	-	-	-
6	800	636	162	-	2	-
7	927	842	79	-	6	-
8	921 (10)	819 (10)	96	-	7	-
9	1.174	890	284	-	-	-
10	1.083 (15)	776 (2)	299 (13)	-	7	-
11	1.060 (16)	500 (16)	553	-	7	-
12	1.771	807	954	-	10	-
2010 - 1	1.061	857	205	-	-	-
2	722	490	229	-	3	-
3	1.182 (5)	639	512 (5)	-	31	-
4	612	449	163	-	-	-
5	1.532 (20)	1.082 (10)	450 (10)	-	-	-
6	919 (4)	681	237 (4)	-	1	-
7	645 (5)	396 (5)	246	-	2	-
8	985 (15)	790 (15)	176	-	19	-
9	1.174	892	282	-	-	-

資料 : 財務省関税局調査

備考 : 1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

2. () 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Country volume may not add up the total volume due to round off.

2. Figures in parenthesis indicate the break down for doupion silk imports.

(18) 絹糸の原産国別輸入数量
Silk Yarn Imports

(単位 : 60kg俵)
(Unit : Bales of 60kg)

年月 Year&Month	国名 Country	計 Total	韓 国 S Korea	中 国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦 年 Calendar Year									
2006		31,524	94	17,019	8,706	27	—	5,675	3
2007		19,439	21	11,726	4,743	12	1	2,930	7
2008		22,636	30	12,513	6,865	12	—	3,204	12
2009		16,647	—	9,655	5,096	10	—	1,742	144
生糸年度 Silk Year									
2006		21,561	78	11,212	5,735	18	1	4,518	3
2007		22,936	7	13,263	6,344	15	—	3,297	10
2008		18,716	23	10,677	5,700	11	—	2,242	64
2009		17,481	—	9,940	5,065	7	—	1,953	186
2008	— 9	1,979	—	1,103	644	1	—	226	5
	10	1,451	—	781	462	—	—	208	—
	11	1,518	—	645	687	—	—	186	1
	12	1,065	—	609	279	2	—	174	1
2009	— 1	1,281	—	842	278	—	—	159	2
	2	801	—	253	463	—	—	65	19
	3	1,213	—	734	300	3	—	176	—
	4	1,459	—	959	317	—	—	148	35
	5	1,092	—	672	362	2	—	57	—
	6	1,363	—	768	489	—	—	106	—
	7	1,656	—	1,046	438	—	—	171	—
	8	1,646	—	842	664	—	—	140	—
	9	1,525	—	911	447	4	—	106	58
	10	1,664	—	808	563	0	—	293	—
	11	1,525	—	800	604	—	—	120	0
	12	1,423	—	1,021	170	—	—	202	30
2010	— 1	1,683	—	1,086	478	—	—	118	1
	2	1,435	—	713	491	2	—	230	—
	3	1,051	—	506	343	1	—	132	68
	4	1,318	—	747	363	—	—	178	29
	5	1,192	—	692	342	—	—	157	—
	6	1,325	—	889	296	—	—	135	4
	7	1,573	—	1,026	352	—	—	144	50
	8	1,303	—	784	382	—	—	137	0
	9	1,235	—	811	302	—	—	121	1

資 料 : 財務省関税局調査。

備 考 : kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : Country volume may not add up the total volume due to round off.

(19) 絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics

(単位 : 1,000m²)

(Unit : 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics 年 月 Year & Month	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crape	先 練 (先染) Dyed Yarn	
暦 年 Calendar Year									
2003	23,935	8,374	3,801	2,464	2,109	11,509	7,747	3,762	4,052
2004	21,895	7,510	3,511	2,182	1,817	10,875	7,431	3,444	3,510
2005	19,816	6,669	2,965	1,903	1,801	10,248	6,930	3,318	2,849
2006	18,507	6,105	2,732	1,727	1,646	9,311	5,966	3,345	3,090
2007	15,466	5,215	2,276	1,547	1,392	7,709	4,671	3,038	2,542
2008	14,043	4,887	2,061	1,419	1,407	6,929	4,263	2,666	2,228
2009	11,472	3,733	1,445	1,205	1,083	6,094	3,966	2,128	1,645
2010 — 1	834	271	105	88	78	443	288	155	119
2	939	305	118	99	88	499	325	175	134
3	965	314	122	101	91	512	334	179	138
4	997	324	126	105	94	529	345	185	143
5	981	319	124	103	92	521	339	182	140
6	1,103	358	139	116	104	586	382	205	158
7	1,014	330	128	106	95	538	351	189	145
8	901	293	114	95	85	479	312	168	129
9	962	313	121	101	90	511	333	179	138

資 料 : (社) 日本絹人織織物工業会。

備 考 : 絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association.

Remarks : Spun and mixed fabrics included .

Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

(20) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項 目 Item 年 月 Year & Month	絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹 後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長 浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西 陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数 量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
暦 年 Calendar Year								
2003	23,935	88.5	1,171,145	99.3	208,660	91.0	922,533	92.4
2004	21,895	91.7	1,119,897	95.6	189,426	90.8	780,082	84.6
2005	19,816	90.3	1,058,571	94.5	170,061	89.8	691,780	88.7
2006	18,507	90.6	912,027	86.2	132,448	77.9	598,040	86.4
2007	15,466	83.6	712,560	78.1	97,204	73.4	977,719	163.5
2008	14,043	90.8	656,919	92.2	88,401	90.9	867,490	88.7
2009	11,472	81.7	503,365	76.6	73,681	83.3	746,538	86.1
2008 — 1	1,101	93.1	38,929	90.2	7,511	102.5	56,667	60.9
2	1,300	97.5	65,845	100.1	7,288	81.1	93,343	86.2
3	1,282	95.3	65,402	111.1	7,959	82.4	78,494	97.2
4	1,200	90.1	57,356	91.7	7,964	90.1	74,391	87.8
5	1,201	96.5	55,793	110.6	6,381	82.2	67,669	95.0
6	1,263	92.2	65,862	95.4	9,352	130.5	57,541	68.1
7	1,184	91.4	53,644	86.7	7,548	104.3	84,867	95.5
8	1,028	91.2	46,770	97.9	5,302	87.2	66,629	74.4
9	1,156	86.7	54,846	79.4	7,416	87.8	100,298	142.6
10	1,123	86.9	49,981	85.2	7,817	83.2	62,123	101.9
11	1,127	85.7	53,365	84.4	7,973	97.1	69,923	89.7
12	1,078	83.2	49,096	79.0	5,890	72.7	55,604	82.4
2009 — 1	876	79.5	27,931	71.7	5,428	72.3	70,227	123.9
2	1,033	79.5	48,523	73.7	5,994	82.2	80,196	85.9
3	999	77.9	43,968	67.2	6,664	83.7	70,816	90.2
4	987	82.2	43,957	76.6	6,766	85.0	70,733	95.1
5	935	77.8	39,715	71.2	5,162	80.9	49,997	86.9
6	1,009	79.9	45,800	69.5	6,492	69.4	59,496	103.4
7	958	80.9	40,343	75.2	6,448	85.4	62,673	73.8
8	853	83.0	37,632	80.5	5,642	106.4	42,766	64.2
9	963	83.3	44,281	80.7	6,077	81.9	53,568	53.4
10	944	84.1	40,356	80.7	6,027	77.1	57,802	93.0
11	978	86.8	47,618	89.2	6,920	86.8	66,104	94.5
12	937	86.9	43,241	88.1	6,061	102.9	61,841	111.2
1	834	95.2	31,911	114.2	5,989	110.3	64,521	91.9
2	939	90.9	46,194	95.2	6,366	106.2	68,288	85.2
3	965	96.6	43,859	99.8	7,813	117.2	75,704	106.9
4	997	101.0	44,458	101.1	7,506	110.9	86,802	122.7
5	981	104.9	42,508	107.0	6,642	128.7	70,454	140.9
6	1,103	109.3	44,160	96.4	7,316	112.7	72,395	121.7
7	1,014	105.8	44,163	109.5	7,146	110.8	63,858	101.9
8	901	105.6	39,856	105.9	7,022	124.4	50,415	131.9
9	962	99.9	41,925	94.7	6,925	114.0		
10			46,366	114.9	5,807	96.3		
11								

資 料：絹織物生産数量は(社)日本絹人織織物工業会調査。主要3産地の生産量、出荷数量は社団法人日本生糸問屋協会調査。

備 考：2006年1月以降の西陣の帯生産数量には、帯裏地等を含む。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association and Japan Raw Silk Dealer's Association.

Remarks : Since Jan.2006, sash livings are included in sash production.

(21) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況

Consumption Expenditures of Total Households

項目 Item	消費支出総額 Total		被服及び履物 Clothing & footwear		和服 Japanese clothing		洋服 Clothing		シャツ・セーター Shirts & sweaters		下着類 Underwear	
	(円) Yen	前年 比 (%)	(円) Y e n	前年 比 (%)	(円) Y e n	前年 比 (%)	(円) Yen	前年 比 (%)	(円) Y e n	前年 比 (%)	(円) Y e n	前年 比 (%)
暦年Calendar Year												
2004	304,203	0.5	13,572	▲ 2.8	559	10.5	5,257	▲ 3.5	2,936	0.9	1,213	▲ 4.7
2005	300,903	▲ 1.1	13,440	▲ 1.0	440	▲ 7.8	5,122	▲ 2.6	2,911	▲ 0.9	1,260	3.9
2006	294,943	▲ 2.0	12,776	▲ 1.0	342	▲ 7.8	5,007	▲ 2.6	2,694	▲ 0.9	1,184	3.9
2007	297,782	1.0	12,933	1.2	345	0.9	5,066	1.2	2,727	1.2	1,164	▲ 1.7
2008	296,932	▲ 0.3	12,523	▲ 3.2	299	▲ 13.3	4,890	▲ 3.5	2,598	▲ 4.7	1,133	▲ 2.7
2009	291,737	▲ 0.2	11,994	▲ 3.3	261	▲ 12.0	4,622	▲ 4.2	2,468	▲ 4.0	1,098	▲ 2.9
2008 - 9	281,433	▲ 2.3	10,021	1.2	221	10.9	3,667	1.6	2,094	▲ 0.6	904	▲ 7.9
10	291,504	▲ 3.8	12,755	▲ 6.0	393	61.9	4,807	▲ 8.5	2,697	▲ 8.2	1,120	▲ 14.6
11	284,762	▲ 0.5	14,547	1.3	158	▲ 68.5	6,205	7.3	2,646	▲ 1.9	1,490	2.1
12	336,976	▲ 4.6	13,644	▲ 8.4	346	168.6	5,429	▲ 12.2	2,449	▲ 14.7	1,558	▲ 0.5
2009 - 1	291,440	▲ 5.9	13,679	▲ 1.4	337	▲ 32.6	6,371	4.0	2,528	▲ 7.1	1,034	▲ 4.4
2	266,044	▲ 3.5	8,879	▲ 12.9	165	▲ 45.8	3,883	▲ 10.7	1,669	▲ 9.5	704	▲ 21.4
3	310,680	▲ 0.4	13,466	▲ 3.6	526	314.6	6,307	▲ 1.4	2,027	▲ 16.8	849	▲ 11.4
4	306,340	▲ 1.3	12,533	▲ 1.6	360	324.5	4,569	▲ 7.4	2,451	▲ 1.9	976	▲ 1.0
5	285,530	0.3	12,623	▲ 1.0	181	▲ 13.2	4,451	▲ 3.6	2,755	▲ 2.7	1,060	▲ 6.0
6	277,237	0.2	11,815	▲ 0.3	117	▲ 3.5	3,929	▲ 6.0	2,935	0.9	1,143	5.5
7	285,078	▲ 2.0	11,873	▲ 12.7	209	▲ 38.1	3,871	▲ 15.6	3,029	▲ 15.8	1,299	▲ 3.3
8	290,972	2.6	8,882	▲ 10.2	368	▲ 51.7	2,820	▲ 9.2	2,185	▲ 2.2	907	▲ 14.1
9	277,110	1.0	9,651	▲ 2.5	215	▲ 2.4	3,273	▲ 8.4	2,141	2.1	932	3.3
10	287,789	1.6	12,287	▲ 2.3	75	▲ 80.8	4,685	0.1	2,705	1.0	1,220	9.3
11	284,740	2.2	13,698	▲ 4.3	236	50.0	5,558	▲ 7.8	2,512	▲ 4.3	1,392	▲ 6.0
12	337,887	2.1	14,546	8.7	344	▲ 0.3	5,750	9.2	2,678	11.0	1,656	7.7
2010 - 1	291,918	1.7	12,997	▲ 3.7	102	▲ 69.3	5,969	▲ 3.4	2,383	▲ 6.2	1,045	2.4
2	261,918	▲ 0.5	9,325	6.1	440	167.8	4,012	4.9	1,678	0.1	717	3.4
3	319,991	4.4	13,147	▲ 1.1	235	▲ 55.3	6,289	1.3	2,116	4.9	860	3.2
4	299,996	▲ 0.7	10,703	▲ 13.1	116	▲ 67.9	4,110	▲ 8.2	2,123	▲ 12.3	817	▲ 14.7
5	280,714	▲ 0.7	12,049	▲ 2.7	124	▲ 31.6	4,097	▲ 5.7	2,834	4.1	1,079	4.0
6	276,494	0.5	11,514	▲ 0.9	77	▲ 34.5	3,902	1.2	2,746	▲ 4.8	1,112	▲ 0.9
7	285,274	1.1	12,273	4.4	755	261.6	3,878	1.2	3,022	0.3	1,266	▲ 0.8
8	293,361	1.7	8,718	▲ 1.0	174	▲ 52.6	2,946	5.0	2,094	▲ 3.3	960	7.5
9	275,367	0.0	9,165	▲ 4.1	395	84.4	3,074	▲ 5.9	1,915	▲ 9.4	916	0.4

資料:総務省統計局「家計調査報告」。2人以上で構成される8,000世帯を集計。

備考:「被服及び履物」は右に並ぶ内訳4費目以外の費目も含む。年数値は月平均。

Source:Family Income and Expenditure Survey by Statistics Bureau, MIC.

Added up 8,000 two-or-more-person households.

Remarks:Clothing&footwear includes japanese clothing , clothing , shirts&sweaters and other items.

Year value is mean of the each month.

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2003年	2004年	2005年
		トン	トン	トン
日本	Japan	780	683	626
中国	China	480,774	547,091	621,461
インド	India	117,000	120,000	126,000
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	9,966	8,005	7,146
タイ	Thailand	10,500	10,650	10,650
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	3,200	3,200	2,543
トルコ	Turkey	169	169	170
ブルガリア	Bulgaria	0.3	20	42
ギリシャ	Greece	60	70	70
フィリピン	Philippines	23	22	14.4
シリア	Syria	15	11.5	5.5
主要国の計	Total	663,487	730,922	809,728

区 分		2006年	2007年	2008年
		トン	トン	トン
日本	Japan	505	433	382
中国	China	739,715	779,261	683,387
インド	India	135,000	150,000	133,316
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	8,051	8,617	6,266
タイ	Thailand	10,100	1,785	7,700
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	25,760
イラン	Iran	2,104	1,665	1,185
トルコ	Turkey	350	130	126
ブルガリア	Bulgaria	65	55	48
ギリシャ	Greece	100	104	0
フィリピン	Philippines	16	9	6
シリア	Syria	3	2.5	2.5
主要国の計	Total	937,009	983,062	879,179

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSED)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会 (ISC)の統計値を使用した。

注2 不明な数値は空欄とした。ただし、シェアの大きいベトナム、ウズベキスタンは、前者は2003年以降、後者は2002年以降2007年までを不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1Figures ofJapan are based on the data of the Agricultural Production Bureau,MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB),Ministry ofTextiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association(ABRASSED).

Others than these countries,based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam(since2003) and Uzbekistan(since2002until2007) are not reported ,they are taken as the same amount as previous year because they constitute high proportion of total.

(2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2003年		2004年		2005年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	287	4,800	263	4,400	151	2,500
中国	China	83,763	1,396,100	80,231	1,337,200	87,761	1,462,700
インド	India	13,970	232,800	14,620	243,700	15,445	257,400
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,563	26,100	1,512	25,200	1,285	21,400
タイ	Thailand	1,500	25,000	1,420	23,700	1,420	23,700
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,100	18,300
イラン	Iran	500	8,300	500	8,300	395	6,600
トルコ	Turkey	28	500	28	500	30	500
ブルガリア	Bulgaria	0	0	3	100	6	100
ギリシャ	Greece	4	100	4.5	100	4	100
フィリピン	Philippines	3	100	3	100	1.1	0
シリア	Syria	2	0	1.5	0	0.7	0
主要国の計	Total	104,970	1,749,600	101,936	1,699,100	109,849	1,830,800

区 分		2006年		2007年		2008年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	119	2,000	105	1,800	95	1,600
中国	China	93,105	1,552,000	108,420	1,807,000	98,620	1,643,700
インド	India	16,525	275,400	18,320	305,300	18,370	306,200
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,387	23,100	1,220	20,300	1,177	19,600
タイ	Thailand	1,080	18,000	760	12,700	1,100	18,300
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,417	23,600
イラン	Iran	324	5,400	253	4,200	180	3,000
トルコ	Turkey	25	400	20	300	15	300
ブルガリア	Bulgaria	5	100	7.5	100	7.5	100
ギリシャ	Greece	4	100	0	0	0	0
フィリピン	Philippines	1.6	0	1	0	1	0
シリア	Syria	0.5	0	0	0	0.4	0
主要国の計	Total	115,926	1,932,300	132,457	2,207,500	123,233	2,053,900

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSED)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 不明な数値は空欄とした。ただし、シェアの大きいベトナム、ウズベキスタンは、前者は2003年以降、後者は2002年以降2007までを不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau,MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB),Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association(ABRASSED).

Others than these countries,based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam(since2003) and Uzbekistan(since2002until2007) are not reported ,they are taken as the same amount as previous year because they constitute high proportion of total.

(3)中国省別家蚕繭生産量・生糸生産量・製糸工場数

Domesticated Cocoon Production, Raw Silk Production, and Number of Filatures in China

省 Province	区分	家蚕繭生産量 Domesticated Cocoon Production (トン、%)(MT, %)			生糸生産量 Raw silk Production (トン、%)(MT, %)		
		2007	2008	対前年比 2008/07	2007	2008	対前年比 2008/07
山 西	Shanxi	5,800	6,033	104	130	64	49
河 北	Hebei	1,020	1,000	-	-	-	-
江 蘇	Jiangsu	104,119	95,476	92	22,000	20,450	93
浙 江	Zhejiang	83,900	64,319	77	18,500	17,950	97
安 徽	Anhui	38,100	33,400	88	5,200	5,500	106
江 西	Jiangxi	12,400	10,015	81	2,500	2,570	103
山 東	Shandong	40,500	34,530	85	7,200	5,530	77
河 南	Henan	13,700	11,641	85	3,300	2,800	85
湖 北	Hubei	15,800	21,200	134	470	332	71
湖 南	Hunan	4,200	4,300	102	60	58	97
広 東	Guangdong	81,127	70,693	87	1,400	1,513	108
広 西	Guangxi	205,163	170,900	83	11,000	14,069	128
重 慶	Chongqing	24,800	22,110	89	7,800	5,497	70
四 川	Sichuan	83,700	68,576	82	24,700	16,400	66
貴 州	Guizhou	2,532	3,626	143	-	23	-
雲 南	Yunnan	36,600	40,348	110	1,640	2,871	175
陝 西	Shaanxi	24,600	23,800	97	2,300	2,868	125
甘 肅	Gansu	500	420	84	-	-	-
寧 夏	Ningxia	500	520	104	50	30	60
新 疆	Xinjiang	200	480	240	-	30	-
内 蒙 古	Inner Mongolia	-	-	-	60	65	108.33
合 計	Total	779,261	683,387	88	108,310	98,620	91

製糸工場数 (件) Number of Filatures		
2006	2008	前年比 2008/06
702	682	97

資料：中国絲綢協会資料による

注：合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(4) 中国省別家蚕繭生産量の推移 Domesticated Cocoon Production in China (1997年～2008年)

(単位：万トン) (Unit: 10,000ton)

地域	Area	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	前年比 08/07(%)
北 京	Beijing													
天 津	Tianjin													
河 北	Hebei		0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1				0.1	0.1	100.0
山 西	Shanxi	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.4	0.6	0.6	0.6	100.0
内 蒙 古	Inner Mongolia													
遼 寧	Liaoning													
吉 林	Jilin													
黒 龍 江	Heilongjiang													
上 海	Shanghai								0.0	0.0				
江 蘇	Jiangsu	8.6	8.5	8.2	9.0	10.1	11.9	10.7	11.1	10.1	11.8	10.4	9.5	91.3
浙 江	Zhejiang	9.5	10.4	9.4	9.5	11.0	9.9	7.9	7.6	7.5	8.5	8.4	6.4	76.2
安 徽	Anhui	2.4	2.5	2.1	2.5	2.7	2.8	2.6	2.7	3.4	3.8	3.8	3.3	86.8
福 建	Fujian													
江 西	Jiangxi	0.5	0.4	0.3	0.3	0.5	0.7	0.8	1.0	1.1	1.2	1.2	1.0	83.3
山 東	Shandong	3.4	4.2	4.2	5.3	6.9	6.9	6.7	3.5	3.7	4.0	4.0	3.5	87.5
河 南	Henan	1.3	0.6	1.2	1.3	1.5	1.7	1.1	0.7	0.9	1.3	1.4	1.2	85.7
湖 北	Hubei	1.2	1.4	1.4	1.2	1.2	1.3	1.2	1.1	1.4	1.6	1.6	2.1	131.3
湖 南	Hunan	0.1	0.1			0.1	0.1	0.2	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	100.0
広 東	Guangdong	2.1	2.1	2.3	3.1	4.5	5.3	5.2	2.7	3.4	6.9	8.1	7.1	87.7
広 西	Guangxi	1.5	1.8	1.9	3.0	5.6	7.4	8.7	9.2	14.8	18.5	20.5	17.1	83.4
海 南	Hainan													
重 慶	Chongqing		2.9	2.4	3.0	3.2	3.4	2.8	2.6	3.1	2.4	2.5	2.2	88.0
四 川	Sichuan	8.5	9.3	8.1	8.7	9.2	9.3	9.3	8.3	7.8	7.8	8.4	6.9	82.1
貴 州	Guizhou	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	0.4	200.0
雲 南	Yunnan	0.7	0.7	0.7	0.7	0.9	1.1	1.3	1.9	2.0	3.1	3.7	4.0	108.1
チベット	Tibet													
陝 西	Shaanxi	1.4	1.6	1.5	1.5	1.6	1.7	1.9	1.6	2.0	1.8	2.5	2.4	96.0
甘 肅	Gansu								0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	
青 海	Qinghai													
寧 夏	Ningxia								0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	
新 疆	Xinjiang	0.3	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	
合 計	Total	42.3	47.5	44.7	50.1	60.2	64.5	61.1	55.0	62.2	73.9	77.9	68.3	87.7

資料：2003年までは中国国家统计局「中国統計年鑑」、2004年以降は中国絲綢協会資料による。

合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: Until 2003, "China Statistical Yearbook" National Bureau of Statistics of China

Since 2004, China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

中国のシルク類の輸出状況
Silk Exports of China
(2009年1月～12月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕生糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2009年実績	09/08(%)	2009年実績	09/08(%)
1 インド	India	6,569,701	78.43	169,347	85.25
2 韓国	South Korea	535,549	95.45	15,298	102.90
3 日本	Japan	452,022	68.23	13,085	68.07
4 ベトナム	Vietnam	375,651	59.74	10,753	65.15
5 イタリア	Italy	256,086	30.89	7,581	32.41
6 ルーマニア	Romania	255,816	22.80	7,174	23.79
7 パキスタン	Pakistan	177,598	71.93	4,587	79.16
8 バングラデッシュ	Bangladesh	151,813	78.57	3,798	84.36
9 シンガポール	Singapore	129,035	189.66	3,251	208.51
10 ミャンマー	Myanmar	65,661	118.00	1,594	122.07
11 その他	Others	258,273	37.59	7,053	39.69
合計	Total	9,227,205	68.70	243,521	72.97

中国のシルク類の輸出状況
Silk Exports of China
(2010年1月～10月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕生糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2010年実績	10/09(%)	2010年実績	10/09(%)
1 インド	India	4,248,146	82.34	159,539	128.25
2 ベトナム	Vietnam	507,751	216.00	19,026	299.06
3 韓国	South Korea	417,492	101.30	16,121	143.00
4 日本	Japan	381,727	102.42	15,197	145.98
5 ルーマニア	Romania	380,695	219.01	14,472	321.23
6 イタリア	Italy	239,686	122.74	9,540	170.66
7 バングラデッシュ	Bangladesh	155,197	118.23	5,693	180.02
8 パキスタン	Pakistan	80,022	63.52	2,882	97.90
9 ミャンマー	Myanmar	69,676	127.71	2,547	203.87
10 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	60,719	562.06	2,202	797.78
11 その他	Others	192,223	61.27	7,082	88.50
合計	Total	6,733,334	93.72	254,301	142.73

相手国	Country	絹糸 Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2009年実績	09/08(%)	2009年実績	09/08(%)
1 インド	India	2,477,192	456.28	63,805	427.09
2 日本	Japan	596,647	95.02	18,318	91.10
3 パキスタン	Pakistan	464,458	111.39	13,203	112.44
4 イタリア	Italy	412,419	44.99	12,492	43.37
5 ドイツ	Germany	296,058	74.82	9,325	67.56
6 韓国	South Korea	202,018	463.33	5,923	398.83
7 タイ	Thailand	88,127	41.63	2,647	41.30
8 インドネシア	Indonesia	78,856	162.88	2,102	159.86
9 シンガポール	Singapore	69,474	287.05	1,617	256.15
10 ベトナム	Vietnam	56,380	1124.45	1,416	588.72
11 その他	Others	184,838	106.93	5,381	126.61
合計	Total	4,926,467	144.64	136,229	128.62

相手国	Country	絹糸 Spun Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2010年実績	10/09(%)	2010年実績	10/09(%)
1 インド	India	1,386,404	65.16	52,944	100.68
2 日本	Japan	513,999	106.91	21,102	147.13
3 パキスタン	Pakistan	410,141	105.09	16,337	154.74
4 イタリア	Italy	386,500	108.44	15,367	145.34
5 ドイツ	Germany	171,132	64.16	6,235	74.62
6 韓国	South Korea	160,257	99.05	6,372	140.09
7 タイ	Thailand	126,036	161.70	5,164	224.96
8 シリア	Syria	87,563	516.50	0,376	564.61
9 インドネシア	Indonesia	69,438	103.87	2,551	145.57
10 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	37,444	1,254.41	1,411	1,554.83
11 その他	Others	197,307	78.35	7,686	110.88
合計	Total	3,546,221	84.43	135,545	120.91

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2009年実績	09/08(%)	2009年実績	09/08(%)
1 インド	India	65,737,464	112.31	160,690	115.57
2 パキスタン	Pakistan	45,144,585	221.13	88,970	212.78
3 イタリア	Italy	36,326,731	80.82	105,440	73.08
4 香港	Hong Kong	17,155,562	61.78	75,032	61.09
5 韓国	South Korea	17,005,031	83.70	63,282	79.55
6 日本	Japan	11,401,420	83.87	29,884	79.73
7 シンガポール	Singapore	10,373,370	144.46	36,621	190.37
8 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	9,144,231	132.50	28,526	127.03
9 マレーシア	Malaysia	9,118,447	134.96	30,400	132.01
10 アメリカ	United States	5,460,308	65.40	30,024	62.19
11 その他	Others	35,259,585	101.90	116,842	92.90
合計	Total	262,126,734	105.13	765,711	95.27

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2010年実績	10/09(%)	2010年実績	10/09(%)
1 インド	India	47,105,609	86.79	156,255	120.35
2 イタリア	Italy	39,979,885	132.14	134,593	156.46
3 パキスタン	Pakistan	36,668,489	112.51	89,533	143.93
4 香港	Hong Kong	13,229,435	101.39	67,546	118.27
5 韓国	South Korea	12,897,239	91.94	56,485	109.01
6 日本	Japan	9,480,312	101.20	31,119	128.98
7 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	7,088,141	90.92	25,190	103.68
8 マレーシア	Malaysia	6,572,085	80.44	30,648	113.93
9 シンガポール	Singapore	5,900,049	68.75	23,352	79.81
10 アメリカ	United States	4,903,720	112.15	28,018	115.64
11 その他	Others	33,181,257	118.32	123,572	132.93
合計	Total	217,006,221	103.08	766,311	125.88

資料: 中国税関
Source: Customs General Administration in China

資料: 中国税関
Source: Customs General Administration in China

(6)ブラジルの繭・生糸生産量推移
Cocoon and Raw Silk Production in Brazil

シルク年度 Silk Year (9～8月) (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production (トン)(Ton)
1987/88	11,830
1988/89	11,470
1989/90	15,829
1990/91	17,221
1991/92	17,586
1992/93	19,134
1993/94	18,260
1994/95	16,260
1995/96	15,368 (95%)
1996/97	14,811 (96%)
1997/98	14,594 (99%)
1998/99	10,305 (71%)
1999/2000	8,473 (82%)
2000/01	9,916 (117%)
2001/02	10,238 (103%)
2002/03	9,966 (97%)
2003/04	8,005 (80%)
2004/05	7,146 (89%)
2005/06	8,051 (113%)
2006/07	8,617 (107%)
2007/08	6,266 (73%)
2008/09	4,835 (77%)
2009/10 〔見込み〕 〔Estimate〕	4,614 (95%)

暦年 Calendar Year	生糸生産量 Raw Silk Production (kg)	生糸生産量 Raw Silk Production (俵換算) (Bale value)
1987	1,658,375	27,640
1988	1,748,996	29,150
1989	1,696,622	28,277
1990	1,693,206	28,220
1991	2,077,155	34,619
1992	2,296,053	38,268
1993	2,325,809	38,763
1994	2,535,440	42,257
1995	2,467,524 (97%)	41,125
1996	2,242,000 (91%)	37,367
1997	2,120,129 (95%)	35,335
1998	1,820,745 (86%)	30,346
1999	1,553,722 (85%)	25,895
2000	1,389,356 (89%)	23,156
2001	1,484,905 (107%)	24,748
2002	1,607,485 (108%)	26,791
2003	1,562,563 (97%)	26,043
2004	1,512,133 (97%)	25,202
2005	1,284,510 (85%)	21,409
2006	1,387,289 (108%)	23,121
2007	1,219,562 (88%)	20,326
2008	1,176,885 (97%)	19,615
2009	811,020 (69%)	13,517
2010 〔見込み〕 〔Estimate〕	732,000 (90%)	12,200

資料: ブラジル製糸協会

注: ()内は対前年比

[]内の見込みは2010年1月現在

Source: ABRASEDA

Note: Figures in parenthesis are compared to the previous year.

Estimates are as of January 2010.

(7) ブラジル繭、生糸・絹撚糸、絹織物の生産、輸入及び輸出状況(総括表)

Production, Import and Export of Raw Silk, Twisted Silk and Silk Fabrics in Brazil (Summary)

年次 Year	生産 Production	年次 Year	輸入 Import	年次 Year	輸出 Export
	生繭Wet Cocoon (ton)		乾繭Dry Cocoon (kg)		乾繭Dry Cocoon (kg)
94/95	16,260	95	82,000	95	101,095
95/96	15,368	96	14,000	96	68,760
96/97	14,811	97	-	97	341,000
97/98	14,594	98	-	98	569,200
98/99	10,305	99	-	99	60,000
99/00	8,473	00	-	00	-
00/01	9,916	01	1,890	01	73,600
01/02	10,238	02	-	02	220,483
02/03	9,966	03	-	03	118,574
03/04	8,005	04	-	04	47,350
04/05	7,146	05	5,000	05	12,326
05/06	8,051	06	-	06	4,030
06/07	8,617	07	-	07	72,000
07/08	6,266	08	-	08	-
08/09	4,835	09	-	09	1,000
09/10*	4,614	10*	-	10*	1,000
年次 Year	生糸 Raw Silk (ton)	年次 Year	生糸Raw Silk (kg)	年次 Year	生糸と撚糸 Raw Silk and Twisted Silk (kg)
95	2,468	95	1,700	95	2,321,040
96	2,270	96	6,200	96	2,174,636
97	2,120	97	1,100	97	1,892,930
98	1,821	98	1,080	98	1,678,193
99	1,554	99	863	99	1,742,670
00	1,389	00	43,653	00	1,474,225
01	1,485	01	51,822	01	1,287,693
02	1,607	02	29,524	02	1,415,284
03	1,563	03	27,493	03	1,488,333
04	1,512	04	11,943	04	1,353,551
05	1,285	05	27,571	05	1,129,838
06	1,387	06	47,455	06	1,173,284
07	1,220	07	67,686	07	1,150,297
08	1,177	08	124,831	08	994,801
09	811	09	76,478	09	866,759
10*	732	10*	40,000	10*	643,000
年次 Year	絹織物Silk Fabrics (ton)	年次 Year	絹織物Silk Fabrics (kg)	年次 Year	絹織物Silk Fabrics (kg)
95	128	95	168,500	95	8,000
96	53	96	129,900	96	200
97	56	97	119,600	97	550
98	97	98	55,300	98	121
99	74	99	47,900	99	2,472
00	106	00	54,701	00	488
01	106	01	63,241	01	2,699
02	163	02	44,664	02	332
03	167	03	54,282	03	1,068
04	177	04	91,078	04	2,429
05	210	05	182,725	05	9,090
06	146	06	117,426	06	16,405
07	162	07	102,906	07	26,698
08	159	08	150,837	08	4,217
09	112	09	124,192	09	2,773
10*	101	10*	110,000	10*	3,000

資料:ブラジル製糸協会

注:印は見込み数値

Source: ABRASEDA

Note: *Forecast

※「シルクレポート」の主要記事と統計データは、当支援センターのホームページでもご覧になれます。

<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

シルクレポート 2011 年 1 月号 NO.16 平成 23 年 1 月 1 日発行

編集 / 発行
(問い合わせ先)

(財) 大日本蚕糸会 蚕糸・絹業提携支援センター
〒 100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 5 階
TEL : 03-3214-3500
FAX : 03-3214-3511
URL:<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

製本 / 印刷 株式会社 正大印刷社

無断転載禁ず